

本別町

第3期 国民健康保険データヘルス計画
第4期 特定健康診査等実施計画

令和6年度（2024年）～令和11年度（2029年）

令和6年3月
北海道本別町

目次

第1章 基本的事項.....	1
1 計画の背景・趣旨.....	1
2 計画の位置づけ.....	2
3 計画期間.....	1
4 実施体制・関係者連携.....	1
5 標準化の推進.....	2
第2章 前期計画等に係る考察.....	4
1 健康課題・目的・目標の再確認.....	4
2 評価指標による目標評価と要因の整理.....	5
(1) 中・長期目標の振り返り.....	5
(2) 中・長期目標を達成させるための短期的な目標.....	6
(3) 第2期データヘルス計画の総合評価.....	8
3 個別保健事業評価.....	9
第3章 本別町の健康・医療情報等の分析に基づく健康課題の抽出.....	11
1 基本情報.....	11
(1) 人口の変化及び高齢化率と経年推移.....	11
(2) 男女別の平均余命及び平均自立期間と経年推移.....	12
2 死亡の状況.....	13
(1) 死因別死亡者数.....	13
(2) 死因別の標準化死亡比（SMR）.....	14
(3) （参考）5がん（胃がん・肺がん・大腸がん・子宮頸がん・乳がん）検診の受診率.....	15
3 介護の状況.....	16
(1) 一件当たり介護給付費.....	16
(2) 要介護（要支援）認定者数・割合.....	16
(3) 要介護・要支援認定者の有病状況.....	17
4 国保加入者の医療の状況.....	18
(1) 国保被保険者構成.....	18
(2) 総医療費及び一人当たり医療費.....	19
(3) 一人当たり医療費と医療費の3要素.....	20
(4) 疾病別医療費の構成.....	21
(5) その他.....	25
5 国保加入者の生活習慣病の状況.....	26
(1) 生活習慣病医療費.....	27
(2) 基礎疾患の有病状況.....	28
(3) 重症化した生活習慣病と基礎疾患の重なり.....	28
(4) 人工透析患者数.....	29
6 特定健診・特定保健指導・生活習慣の状況.....	30
(1) 特定健診受診率.....	31
(2) 健康状態不明者（健診なし治療なし）.....	32
(3) 有所見者の状況.....	33
(4) メタボリックシンドローム.....	35
(5) 特定保健指導実施率.....	38
(6) 受診勧奨対象者.....	39

(7) 生活習慣病の発症・重症化リスクが高い受診勧奨対象者の治療状況	42
(8) 質問票の回答	43
(9) 本別町の野菜摂取量アンケート結果	44
7 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施に係る状況	45
(1) 後期高齢者医療制度の被保険者構成	46
(2) 年代別の要介護（要支援）認定者の有病状況	46
(3) 後期高齢者医療制度の医療費	47
(4) 後期高齢者健診	48
(5) 地域包括ケアに係る取組及びその他の留意事項	49
8 健康課題の整理	50
(1) 現状のまとめ	50
(2) 生活習慣病に関する健康課題の整理	51
(3) 高齢者の特性を踏まえた健康課題の整理	52
(4) 医療費適正化に係る課題の整理	52
第4章 データヘルス計画の目的・目標	53
第5章 目的・目標を達成するための保健事業	54
1 保健事業の整理	54
(1) 重症化予防	54
(2) 生活習慣病発症予防・保健指導	59
(3) 早期発見・特定健診	61
(4) 健康づくり・社会環境体制整備	63
(5) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施	65
(6) 医療費適正化	65
第6章 データヘルス計画の全体像の整理	66
第7章 計画の評価・見直し	67
1 評価の時期	67
(1) 個別事業計画の評価・見直し	67
(2) データヘルス計画の評価・見直し	67
2 評価方法・体制	67
第8章 計画の公表・周知	67
第9章 個人情報の取扱い	67
第10章 第4期 特定健康診査等実施計画	68
1 計画の背景・趣旨	68
(1) 背景・趣旨	68
(2) 特定健診・特定保健指導を巡る国の動向	69
(3) 計画期間	69
2 第3期計画における目標達成状況	70
(1) 全国の状況	70
(2) 本別町の状況	71
(3) 国の示す目標	76
3 特定健診・特定保健指導の実施方法	77
(1) 特定健診	77

(2) 特定保健指導	79
4 その他.....	80
(1) 計画の公表・周知	80
(2) 個人情報の保護	80
(3) 実施計画の評価・見直し	80
参考資料 用語集.....	81

第1章 基本的事項

1 計画の背景・趣旨

平成25年6月に閣議決定された「日本再興戦略」において、「全ての健康保険組合に対し、レセプト等のデータの分析、それに基づく加入者の健康保持増進のための事業計画として「データヘルス計画」の作成・公表、事業実施、評価等の取組を求めるとともに、市町村国保が同様の取組を行うことを推進する。」ことが示された。これを踏まえ、平成26年3月に「国民健康保険法に基づく保健事業の実施等に関する指針」において、保険者は「健康・医療情報を活用してPDCAサイクルに沿った効果的かつ効率的な保健事業の実施を図るための保健事業の実施計画（データヘルス計画）を策定したうえで、保健事業の実施・評価・改善等を行う」ものとされた。

その後、平成30年4月から都道府県が財政運営の責任主体として共同保険者となり、また、令和2年7月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2020（骨太方針2020）」において、「保険者のデータヘルス計画の標準化等の取組の推進」が掲げられ、令和4年12月に経済財政諮問会議における「新経済・財政再生計画改革工程表2022」において、「保険者が策定するデータヘルス計画の手引きの改訂等を行うとともに、当該計画の標準化の進展にあたり、保険者共通の評価指標やアウトカムベースでの適切なKPIの設定を推進する。」と示された。

こうした背景を踏まえ、本別町では、被保険者の健康課題を的確に捉え、課題に応じた保健事業を実施することにより、健康の保持増進、生活の質（QOL）の維持及び向上を図り、結果として医療費の適正化にも資することを目的とし、データヘルス計画を策定し保健事業の実施、評価、改善等を行うこととする。

2 計画の位置づけ

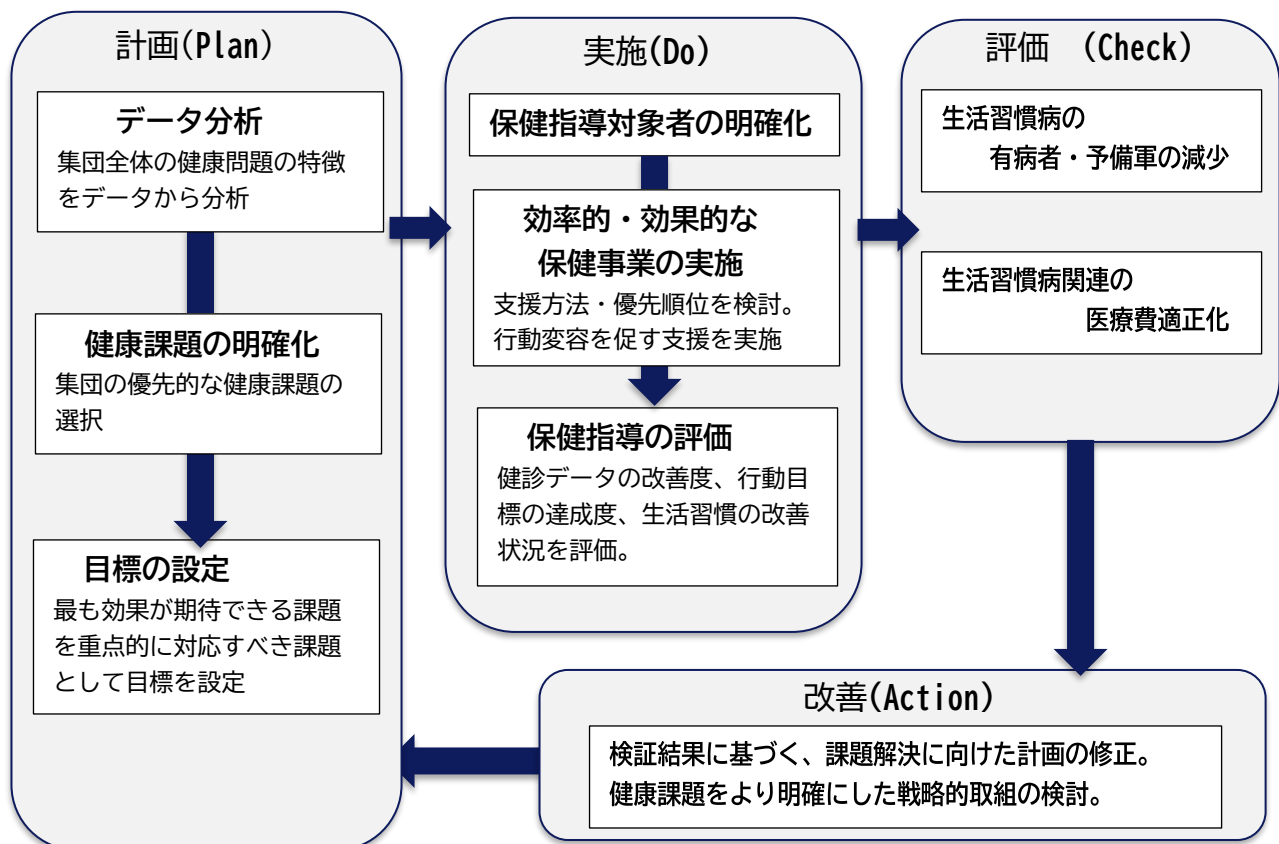
データヘルス計画とは、「被保険者の健康の保持増進に資することを目的として、保険者が効果的・効率的な保健事業の実施を図るため、特定健康診査・特定保健指導の結果、レセプトデータ等の健康・医療情報を活用して、PDCAサイクルに沿って運用するもの」とデータヘルス計画策定の手引きにおいて定義されている。（以下、特定健康診査を「特定健診」という）。

また、同手引きにおいて、「計画は、健康増進法（平成14年法律第103号）に基づく基本方針を踏まえるとともに、都道府県健康増進計画、都道府県医療費適正化計画、介護保険事業（支援）計画、後期高齢者保健事業の実施計画（以下「後期高齢者データヘルス計画」という。）、国民健康保険運営方針、特定健康診査等実施計画と調和のとれたものとする」ことが求められており、その際に、「他計画の計画期間、目的、目標を把握し、データヘルス計画との関連事項・関連目標を確認するプロセスが重要」とされている。

本別町においても、第7次本別町総合計画を上位計画とし、健康ほんべつ21計画、第9期銀河福祉タウン計画等の関連事項・関連目標を踏まえ、データヘルス計画において推進、強化する取組等について検討していく。

下表に、それぞれの計画の基本方針及び本計画における目標を併記する。

保健事業（健診・保健指導）のPDCAサイクル



	健康増進計画	データヘルス計画	特定健康診査等実施計画	介護保険事業(支援)計画
法律	健康増進法	国民健康保健法	高齢者の医療の確保に関する法律	介護保険法
基本的な指針	厚生労働省健康局 国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針	厚生労働省保険局 国民健康保険法に基づく保健事業の実施等に関する指針の一部改正	厚生労働省保険局 特定健康診査及び特定保健指導の適切かつ有効な実施を図るための基本的な指針	厚生労働省老健局 介護保険事業に係る保険給付の円滑な実施を確保するための基本的な指針
根拠・期間	法定 2024~2035年(12年間)	指針 2024~2029年(6年間)	法定 2024~2029年(6年間)	法定 2024~2026年(3年間)
計画策定者	都道府県:義務 市町村:努力義務	医療保険者	医療保険者:義務	都道府県:義務 市町村:義務
基本的な考え方	「全ての国民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現」を「ビジョン」とし、そのために、 ①誰一人取り残さない健康づくりの展開、 ②より実効性をもつ取組の推進を行う。	被保険者健康の保持増進を目的に、健康・医療情報を活用しPDCAサイクルに沿った効果的かつ効率的な保健事業の実施を図るための保健事業実施計画を策定。保健事業の実施及び評価を行う。	加入者数、加入者の年齢構成、地域的条件等の実情を考慮して、特定健康診査の効率の良かつ効果的に実施するための計画を作成する。	地域の実情に応じた介護給付等対象サービスを提供する体制の確保及び地域支援事業の実施が計画的に図られるようにする。 ・保険者機能強化 ・高齢者の自立支援・重度化防止
対象年齢	ライフステージ (乳幼児期、青壮年気、高齢) ライフコースアプローチ (胎生期から老齢期)	被保険者全員	40歳~74歳	1号被保険者 65歳以上 2号被保険者 40~64歳
対象疾病	<div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">メタボリックシンドローム・内臓脂肪型肥満</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> 糖尿病 糖尿病性腎症 高血圧 脂質異常症 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">虚血性心疾患 脳血管疾患</div> </div>			疾病予防・介護予防 (要介護の原因疾患の予防) 糖尿病 腎不全 生活習慣病 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 脳血管疾患 虚血性心疾患・心不全 </div>
	慢性閉塞性肺疾患 がん ロコモティブシンドローム 骨粗しょう症 歯周病			認知症 フレイル 口腔機能、低栄養
評価	健康寿命の延伸 健康格差の縮小	○事業全体の目標 中長期・短期目標の設定 ○個別保健事業 中長期・短期目標の設定	特定健診受診率 特定保健指導実施率 メタボリックシンドローム該当者・予備軍の減少	
補助金等		保険者努力支援制度(事業費・事業費連動分)交付金		

3 計画期間

本計画の期間は、令和6年度（2024年）から令和11年度（2029年）までの6年間である。

4 実施体制・関係者連携

本別町では、被保険者の健康の保持増進を図り、病気の予防や早期回復を図るために、国保担当が中心となって策定するが、保健師等の専門職を含めた関係部局や関係機関の協力を得て、保険者の健康課題を分析し、計画を策定する。計画策定後は、計画に基づき効果的・効率的な保健事業を実施して、個別の保健事業の評価や計画の評価をし、必要に応じて計画の見直しや次期計画に反映させる。また、高齢者福祉担当や介護保険担当、介護予防支援担当、社会福祉担当と連携してそれぞれの健康課題を共有するとともに、後期高齢者医療制度等の健康課題も踏まえて保健事業を展開する。

計画の策定等に当たっては、共同保険者である都道府県のほか、国保連や国保連に設置される保健事業支援・評価委員会、地域の医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、栄養士会等の保健医療関係者等、保険者協議会、後期高齢者医療広域連合、健康保険組合等の他の医療保険者、地域の医療機関や大学等の社会資源等と連携、協力する。

本計画は、被保険者の健康の保持増進が最終的な目的であり、その実効性を高める上では、被保険者自身が状況を理解して主体的・積極的に取り組むことが重要である。

5 標準化の推進

データヘルス計画が都道府県レベルで標準化されることにより、共通の評価指標による域内保険者の経年的なモニタリングができるようになるほか、地域の健康状況や健康課題の分析方法、計画策定、評価等の一連の流れを共通化することで、これらの業務負担が軽減されることが期待されている。本別町では、北海道等の方針を踏まえ、データヘルス計画を運用することとする。

図表1-5-1-1：北海道のデータヘルス計画標準化に係る共通評価指標

目的	
道民が健康で豊かに過ごすことができる	

最上位目標		評価指標	目標
アウトカム	健康寿命の延伸	平均自立期間	延伸
	医療費の構造変化	総医療費に占める脳血管疾患の入院医療費の割合	抑制
		総医療費に占める虚血性心疾患の入院医療費の割合	抑制
		総医療費に占める慢性腎不全（透析あり）の医療費の割合	抑制
中・長期目標		評価指標	目標
アウトカム	生活習慣病重症化予防	新規脳血管疾患患者数	抑制
		新規虚血性心疾患患者数	抑制
		新規人工透析導入者数	抑制
短期目標		評価指標	目標
アウトカム	健康づくり	メタボリックシンドローム該当者の割合	減少
		メタボリックシンドローム予備群該当者の割合	減少
		喫煙率	減少
		1日飲酒量が多い者の割合	減少
		運動習慣のない者の割合	減少
	特定保健指導	特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率	増加
	生活習慣病重症化予防	HbA1c8.0%以上の割合	減少
		HbA1c7.0%以上の割合	減少
		HbA1c6.5%以上の割合	減少
		Ⅲ度高血圧（収縮期180mmHg・拡張期110mmHg）以上の割合	減少
		Ⅱ度高血圧（収縮期160mmHg・拡張期100mmHg）以上の割合	減少
		Ⅰ度高血圧（収縮期140mmHg・拡張期90mmHg）以上の割合	減少
		LDLコレステロール180mg/dl以上の割合	減少
		LDLコレステロール160mg/dl以上の割合	減少
LDLコレステロール140mg/dl以上の割合	減少		
アウトプット	特定健診	特定健康診査実施率	向上
	特定保健指導	特定保健指導実施率	向上
	生活習慣病重症化予防	糖尿病重症化予防対象者（市町村別）のうち、未治療者の医療機関受診率	増加
		高血圧症重症化予防対象者（市町村別）のうち、未治療者の医療機関受診率	増加
脂質異常症重症化予防対象者（市町村別）のうち、未治療者の医療機関受診率		増加	

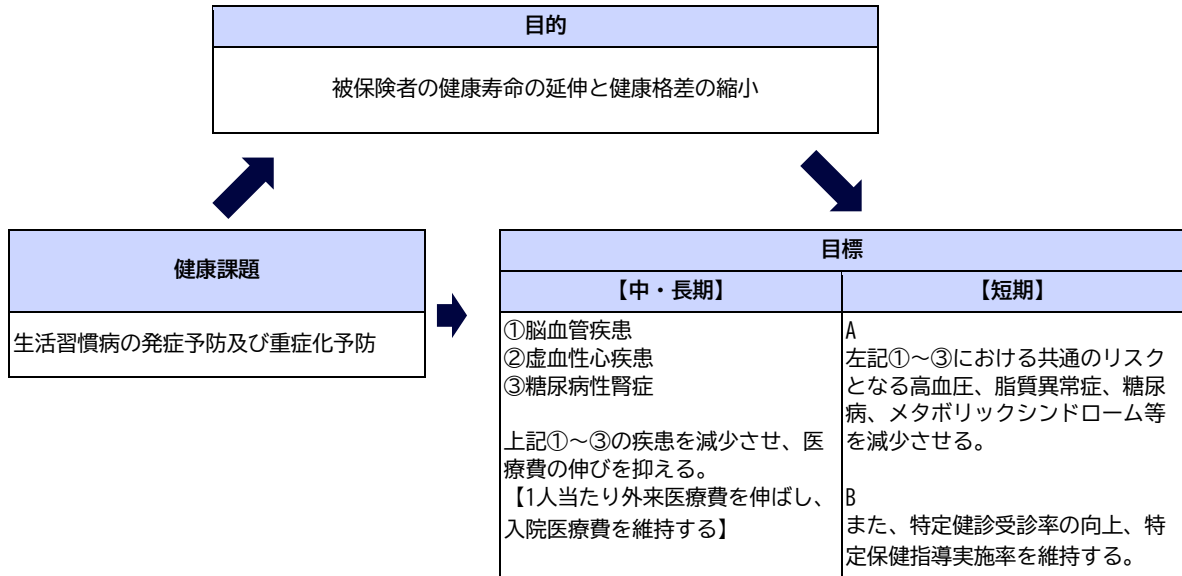
図表1-5-1-2：北海道の健康課題

健康・医療情報分析からの考察	健康課題
<p>(死亡・介護)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平均自立期間が国と比較して男女とも短い。 ○高齢化率が国と比較して高く、高齢化のスピードも速い。 ○死因別死亡数では、悪性新生物や心疾患が国と比較して多く、標準化死亡比（SMR）では、悪性新生物や腎不全が国と比較して高い。 ○死因割合では、悪性新生物、心不全、腎不全等が国と比較して高い。 ○1件当たり介護給付費が、国と比較して高い。 ○1号被保険者に係る認定率が、国と比較して高い。 ○要介護認定者の有病状況では、糖尿病とがんの割合が高い。 ○要介護認定者の半数以上が高血圧症を有している。 	<p>(健康寿命・医療費の構造変化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平均自立期間が短い。 ○国保・後期ともに1人当たり医療費及び1人当たり年齢調整後医療費が高い。 ○国保・後期ともに外来受診率が低く入院受診率が高い。 ○国保・後期ともに外来費用の割合が低く、入院費用の割合が高い。
<p>(医療)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1人当たり医療費（実数及び年齢調整後）は、国保・後期ともに国と比較して高い。 ○地域差指数は、国保・後期ともに国と比較して外来が低く、入院が高い。 ○医療機関受診率は、国保・後期ともに国と比較して外来受診率が低く、入院受診率が高い。 ○外来・入院費用の割合は、国保・後期ともに国と比較して外来費用の割合が低く、入院費用の割合が高い。 ○入院医療費では、国保・後期ともに生活習慣病重症化疾患である脳梗塞、狭心症に係る医療費の割合が高い。 ○外来医療費では、生活習慣病基礎疾患（糖尿病・高血圧症・脂質異常症）に係る医療費の割合が国保で高く、後期になると重症化疾患である慢性腎臓病（透析有り）に係る医療費の割合が高い。 ○国保及び後期（65～74歳）の新規人工透析導入者の割合が国と比較して高い。 ○国保・後期ともに新規人工透析導入者のうち、糖尿病患者の割合が国と比較して高い。 	<p>(重症化予防)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○HbA1c、収縮期血圧、拡張期血圧、LDL-Cは、値が悪く（重度）になるにしたがって順位が悪化し、重症化予防対象者が多い。 ○糖尿病、高血圧症、脂質異常症が重症化し、腎不全や心不全に繋がっている。 ○糖尿病に起因する新規人工透析導入者数が多い。
<p>(特定健診・特定保健指導)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特定健診受診率が低く、保健指導が必要な人を十分に把握できていない。 ○特定保健指導実施率が国の目標値に至っておらず、更なる実施率向上が必要。 ○メタボ該当者が多い。 ○有所見者の割合をみると、HbA1c、収縮期血圧、拡張期血圧、LDL-Cは、値が悪く（重度）になるにしたがって国と比較して高くなり、重症化予防対象者が多いことから、更なる生活習慣病未治療者・中断者対策が必要。 ○喫煙率が男女ともに国と比較して高い。 ○飲酒（1日飲酒量3合以上）に該当する者の割合が男女ともに国と比較して高い。 ○運動習慣（1回30分以上）のない者の割合が男女ともに国と比較して高い。 	<p>(健康づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○メタボ該当者が多い。 ○喫煙率が高い。 ○1日飲酒量が多い者の割合が高い。 ○運動習慣のない者の割合が高い。

第2章 前期計画等に係る考察

1 健康課題・目的・目標の再確認

ここでは、第2期データヘルス計画に記載している健康課題、目的、目標について、それぞれのつながりを整理しながら記載する。



2 評価指標による目標評価と要因の整理

ここでは、第2期データヘルス計画における中・長期目標について、評価指標に係る実績値により達成状況を評価し、第2期データヘルス計画に基づき実施してきた保健事業が課題解決、目標達成にどう寄与したか振り返り、最終評価として目標達成状況や残された課題等について整理を行う。

実績値の評価（ベースラインとの比較）
A：改善している B：変わらない C：悪化している D：評価困難

(1) 中・長期目標の振り返り

中・長期目標				評価指標			評価
脳血管疾患の減少				脳血管疾患の占める割合（厚労省様式3-6） 【脳血管疾患人数／被保険者数(7月作成分)】			B
目標値	ベースライン	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
-	3.4%	2.7%	3.3%	3.0%	2.5%	2.8%	3.3%

中・長期目標				評価指標			評価
虚血性心疾患の減少				虚血性心疾患の占める割合（厚労省様式3-5） 【虚血性心疾患人数／被保険者数(7月作成分)】			A
目標値	ベースライン	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
-	4.3%	4.5%	4.2%	4.7%	3.8%	4.6%	3.9%

中・長期目標				評価指標			評価
糖尿病性腎症の減少				人工透析患者の占める割合（厚労省様式3-7） 【人工透析患者数／被保険者数(7月作成分)】			A
目標値	ベースライン	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
-	0.3%	0.2%	0.2%	0.3%	0.2%	0.1%	0.1%

中・長期目標				評価指標			評価						
重症化を予防し、医療費の伸びを抑制				1人当たり医療費の状況_外来 【地域の全体像の把握_年度累計】			B						
目標値	ベースライン	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度						
-	16,520円	16,070円	16,140円	17,350円	17,010円	16,490円	16,230円						
前年比 (%)	-	前年比 (%)	▲2.7%	前年比 (%)	0.4%	前年比 (%)	7.5%	前年比 (%)	▲2.0%	前年比 (%)	▲3.1%	前年比 (%)	▲1.6%

中・長期目標				評価指標			評価						
重症化を予防し、医療費の伸びを抑制				1人当たり医療費の状況_入院 【地域の全体像の把握_年度累計】			B						
目標値	ベースライン	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度						
-	11,640円	12,130円	11,510円	13,330円	9,670円	10,850円	12,690円						
前年比 (%)	-	前年比 (%)	4.2%	前年比 (%)	▲5.1%	前年比 (%)	15.8%	前年比 (%)	▲27.5%	前年比 (%)	12.2%	前年比 (%)	17.0%

(2) 中・長期目標を達成させるための短期的な目標

短期目標番号	短期目標	評価指標						評価
A	高血圧該当者の減少	高血圧症の占める割合 【厚労省様式3-3（7月作成分）】						C
	目標達成に向けて実施した保健事業・取り組み						評価理由	
	①高血圧重症化予防台帳をもとに受診勧奨、保健指導 ②減塩対策（塩分アンケート、健診時の塩分量展示、減塩食品の試食など）						Ⅱ度高血圧者が増加しているため未治療者・中断者が治療に結びついたとの見方もできる。	
	目標値	ベースライン	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	-	20.0%	21.0%	21.8%	21.5%	19.3%	22.3%	22.7%
	目標達成における推進要因			目標達成における阻害要因				
-			メタボ該当者、予備群の割合の増加					

短期目標番号	短期目標	評価指標						評価
A	脂質異常症該当者の減少	脂質異常症の占める割合 【厚労省様式3-4（7月作成分）】						C
	目標達成に向けて実施した保健事業・取り組み						評価理由	
	①ハイリスク者への受診勧奨。保健指導						健診受診者の有所見者割合、医療費総額に占める割合は減少傾向にあるが治療中の者は年々増加。	
	目標値	ベースライン	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	-	14.1%	14.6%	16.1%	16.8%	16.2%	18.3%	18.8%
	目標達成における推進要因			目標達成における阻害要因				
-			メタボ該当者、予備群の割合の増加					

短期目標番号	短期目標	評価指標						評価
A	糖尿病該当者の減少	糖尿病の占める割合 【厚労省様式3-2（7月作成分）】						C
	目標達成に向けて実施した保健事業・取り組み						評価理由	
	①糖尿病管理台帳をもとに受診勧奨、保健指導 ②啓蒙活動						健診受診者の血糖値の有所見割合は高い状態が続いている。未治療者・中断者が治療に結びついたとの見方もできる。	
	目標値	ベースライン	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	-	11.6%	12.1%	12.8%	13.8%	13.3%	14.6%	15.1%
	目標達成における推進要因			目標達成における阻害要因				
-			メタボ該当者、予備群の割合の増加					

短期目標番号	短期目標	評価指標	評価					
A	メタボリックシンドローム該当者及び予備群の減少	メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合【地域の全体像の把握(年度累計)】	C					
	目標達成に向けて実施した保健事業・取り組み		評価理由					
	①該当者・予備群への保健指導 ②地域サロン運動教室、出張フィットネスの開催 ③健康ポイント導入		通院中データ受領者数が増加し基準値を超える者が増加したとの見方もできるが、年々増加している。					
	目標値	ベースライン	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	-	35.9%	40.9%	36.6%	38.5%	40.2%	39.7%	43.2%
	目標達成における推進要因				目標達成における阻害要因			
-				運動習慣なし、間食や甘味飲料摂取者の割合が多い				

短期目標番号	短期目標	評価指標	評価					
B	特定健診受診率の向上及び特定保健指導実施率の維持	特定健診受診率【法定報告値】	A					
	目標達成に向けて実施した保健事業・取り組み		評価理由					
	①特定健診未受診者対策 ②情報提供制度利用促進		ベースライン値である平成28年度と比較すると受診率は大幅に上昇しているが、令和2年度より年々減少傾向にある。					
	目標値	ベースライン	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	55.0%	37.9%	46.2%	48.8%	48.7%	51.4%	47.6%	44.6%
	目標達成における推進要因				目標達成における阻害要因			
情報提供制度利用者の増加				令和3年度より減少傾向なのはコロナ禍における受診離脱者の増加、保健師のマンパワー不足によるデータ受領者数の減少と考えられる。				

短期目標番号	短期目標	評価指標	評価					
B	特定健診受診率の向上及び特定保健指導実施率の維持	特定保健指導実施率【法定報告値】	A					
	目標達成に向けて実施した保健事業・取り組み		評価理由					
	① 特定保健指導		利用率・終了率は上昇傾向にあるが、対象者が固定化されてきており、なかなか改善につながらない。					
	目標値	ベースライン	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	55.0%	28.9%	40.0%	47.3%	49.4%	48.6%	44.2%	48.3%
	目標達成における推進要因				目標達成における阻害要因			
集団健診受診者の特定保健指導実施が多かったが、個別健診や情報提供制度利用者への実施にも注力した				-				

(3) 第2期データヘルス計画の総合評価

<p>第2期計画の総合評価</p>	<p>脳血管疾患・虚血性心疾患・人工透析患者の占める割合は減少したが、入院医療費の伸び率が増加していることから重症化している可能性は高い。中長期目標疾患の共通のリスクとなる短期目標疾患については減少の目標は達成されなかったが、特定健診受診率が向上しハイリスク者の早期発見・介入により治療につながったとの見方もできる。</p> <p>また、メタボリックシンドローム該当者・予備群は国や道と比較しても高く、改善が見られなかった。個別保健事業計画として高血圧重症化事業と糖尿病性重症化事業に重点を置き、ポピュレーションアプローチとして塩分摂取量の目標値の啓蒙活動、健康インセンティブ導入、運動教室の開催、ハイリスクアプローチとして高血圧・糖尿病台帳をもとに保健指導を行ってきたが事業の見直しも必要である。</p>
<p>残された課題 (第3期計画の継続課題)</p>	<p>引き続き健康寿命延伸のため脳血管疾患・虚血性心疾患・糖尿病性腎症の血管変化における共通リスクである糖尿病・高血圧・脂質異常症・メタボリックシンドローム等の減少、健診受診者の有所見者割合の減少を目指す必要がある。特に本町においては糖尿病・高血圧・メタボリックシンドロームへの働きかけは重要である。通院中の健診対象者へ情報提供制度利用促進を行った結果、利用者は増加したがコントロール不良者も見受けられたため、糖尿病連携手帳の活用、医療機関とのさらなる連携強化が必要である。</p>
<p>第3期計画の重点課題と 重点事業</p>	<p>【重点課題】</p> <p>①中長期目標疾患の減少 ②短期目標疾患の減少</p> <p>【重点事業】</p> <p>①生活習慣病リスク（運動習慣、食習慣等）改善のための保健事業実施 ②ハイリスク者への受診勧奨、保健指導 ③治療中コントロール不良者への保健指導 ④健診未受診者対策</p>

3 個別保健事業評価

ここでは、健康課題、目標に紐付けた重点的な事業の評価を行う。

事業目標の達成状況について、計画期間中の実績値や事業実施状況により評価し、質的情報も踏まえた要因の明確化や、次期計画に向けた事業の改善策の整理を行う。

実績値の評価（ベースラインとの比較） A：改善している B：変わらない C：悪化している D：評価困難
事業全体の評価 A：うまくいった B：まあ、うまくいった C：あまりうまくいかなかった D：まったくうまくいかなかった E：わからない

短期 目標 番号	事業名	事業目標	事業全体の評価						
A	高血圧重症化予防事業	高血圧性疾患の重症化予防を図り、脳血管疾患や虚血性疾患の発症を減少させる。	C						
	評価指標（アウトカム・アウトプット）		評価指標以外の実績						
	医療機関受診率		-						
	目標値	ベースライン	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	実績値評価
	増加	-	-	23.1	23.9	21.4%	14.8%	66.7%	D
	評価指標（アウトカム・アウトプット）		評価指標以外の実績						
	Ⅱ度高血圧者割合の減少		「適切な塩分量を知っている人の割合」アンケートは割合が年々増加していたが、令和2年度より目標摂取量の基準値が変更となったため目標達成とはならなかった。						
	目標値	ベースライン	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	実績値評価
	減少	4.3%	5.2%	5.8%	3.8%	6.6%	7.9%	6.5%	C
	事業の成功要因		事業の未達要因		今後に向けた事業の改善案 (継続・強化・修正する内容など)				
<ul style="list-style-type: none"> ・高血圧管理台帳を作成したことにより対象者が明確化した ・目標達成には至っていないが、減塩対策についてはある程度の効果はあったと思われる 		-		<ul style="list-style-type: none"> ・健診時に一時的に血圧が上昇した者もいるため家庭血圧測定を勧め、測定値の確認を行い受診勧奨値の対象者には受診を勧める。 ・引き続き減塩対策として啓蒙活動、ハイリスク者への保健指導を行う。「適切な塩分量を知る」という啓蒙活動から健診受診者の尿中食塩濃度測定を行いより具体的な保健・栄養指導ができるような体制とする。 					

短期 目標 番号	事業名	事業目標	事業全体の評価						
A	糖尿病性腎症重症化予防事業	未治療者・中断者が治療に結びつくと共に糖尿病性腎症の重症化を防ぎ透析への移行を防止する。	B						
	評価指標（アウトカム・アウトプット）				評価指標以外の実績				
	医療機関受診率				-				
	目標値	ベースライン	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	実績値評価
	増加	-	88.2%	50.0%	83.3%	60.0%	33.3%	0.0%	D
	評価指標（アウトカム・アウトプット）				評価指標以外の実績				
	重症化予防介入の実施率				-				
	目標値	ベースライン	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	実績値評価
	増加	-	48.1%	86.8%	51.4%	41.0%	22.7%	87.5%	A
	評価指標（アウトカム・アウトプット）				評価指標以外の実績				
	HbA1c6.5%以上の割合				-				
	目標値	ベースライン	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	実績値評価
	減少	11.7%	14.2%	14.2%	15.6%	15.2%	17.2%	16.7%	C
事業の成功要因		事業の未達要因			今後に向けた事業の改善案 （継続・強化・修正する内容など）				
糖尿病管理台帳を作成し介入対象者を明確化し優先的に介入		<ul style="list-style-type: none"> ・数年受診行動につながらない対象者がいる。令和4年度の医療機関受診率が0%なのは数年未受診の対象者のみが未治療のため。 ・通院中データ受領者の増加に伴い該当者が増加。 			<ul style="list-style-type: none"> ・保健指導教材の利活用（病状や病態生理など自身の体の中で起きていることの理解促進、ナッジ理論の活用） ・医療機関との連携 				

短期 目標 番号	事業名	事業目標	事業全体の評価						
B	特定健診未受診者対策	特定健診を受診することにより重症化リスクを早期に発見し、治療や生活習慣改善につなげることができる。	B						
	評価指標（アウトカム・アウトプット）				評価指標以外の実績				
	特定健診受診率				-				
	目標値	ベースライン	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	実績値評価
	60.0%	37.9%	46.2%	48.8%	48.7%	51.4%	47.6%	44.6%	A
	事業の成功要因		事業の未達要因			今後に向けた事業の改善案 （継続・強化・修正する内容など）			
	<ul style="list-style-type: none"> ・未受診者対策事業（AIを用いた通知勧奨、電話勧奨） ・情報提供制度利用促進 		コロナ禍における受診離脱者の増加			<ul style="list-style-type: none"> ・通院中レセプトあり未経験者への受診勧奨、データ受領 ・45～49歳代の若年層、60～64歳代の健康保険の切り換わるタイミングの年齢層に対する受診勧奨（節目健診無料化など） 			

第3章 本別町の健康・医療情報等の分析に基づく健康課題の抽出

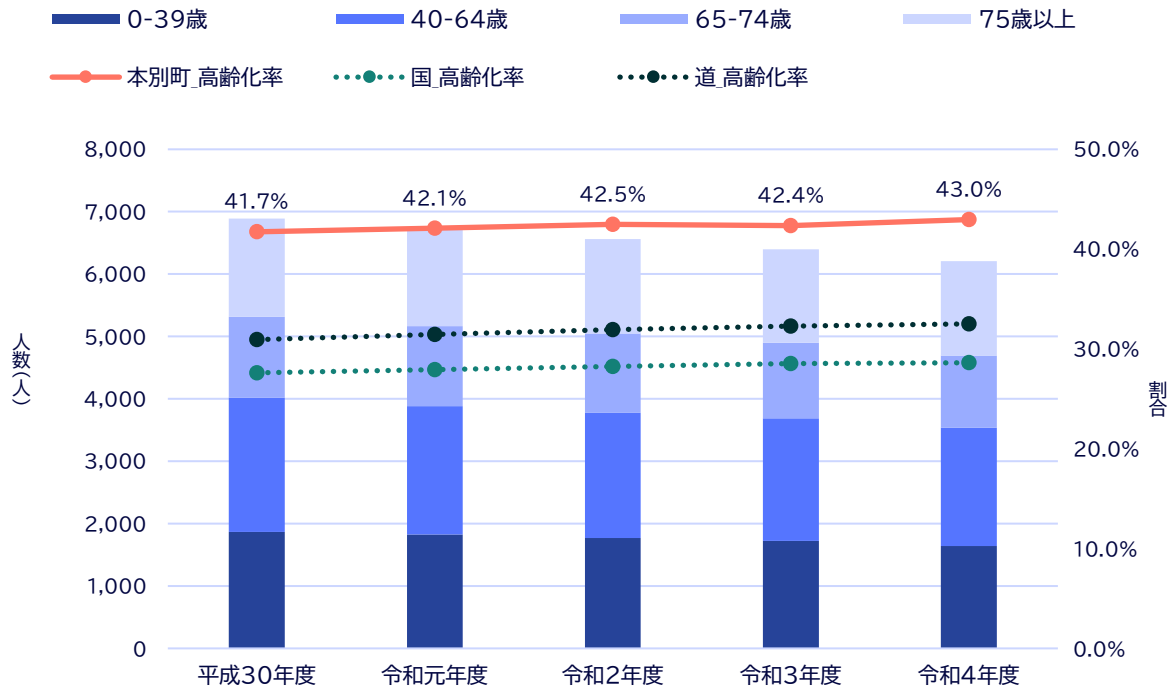
1 基本情報

(1) 人口の変化及び高齢化率と経年推移

令和4年度の人口は6,208人で、平成30年度以降683人減少している。

令和4年度の65歳以上人口の占める割合（高齢化率）は43.0%で、平成30年度と比較して、1.3ポイント上昇している。国や道と比較すると、高齢化率は高い。

図表3-1-1-1：人口の変化と高齢化率



	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合
0-39歳	1,869	27.1%	1,826	27.2%	1,768	26.9%	1,722	26.9%	1,641	26.4%
40-64歳	2,146	31.1%	2,059	30.7%	2,006	30.6%	1,964	30.7%	1,900	30.6%
65-74歳	1,301	18.9%	1,280	19.1%	1,275	19.4%	1,212	19.0%	1,153	18.6%
75歳以上	1,575	22.9%	1,545	23.0%	1,514	23.1%	1,497	23.4%	1,514	24.4%
合計	6,891	-	6,710	-	6,563	-	6,395	-	6,208	-
本別町_高齢化率	41.7%		42.1%		42.5%		42.4%		43.0%	
国_高齢化率	27.6%		27.9%		28.2%		28.5%		28.6%	
道_高齢化率	30.9%		31.4%		31.9%		32.3%		32.5%	

※本別町に係る数値は、各年度の3月末時点の人口を使用し、国及び県に係る数値は、総務省が公表している住民基本台帳を参照しているため各年度の1月1日の人口を使用している（住民基本台帳を用いた分析においては以下同様）

【出典】住民基本台帳_平成30年度から令和4年度

ポイント

- ・ 高齢化率を国や道と比較すると、高い。

(2) 男女別の平均余命及び平均自立期間と経年推移

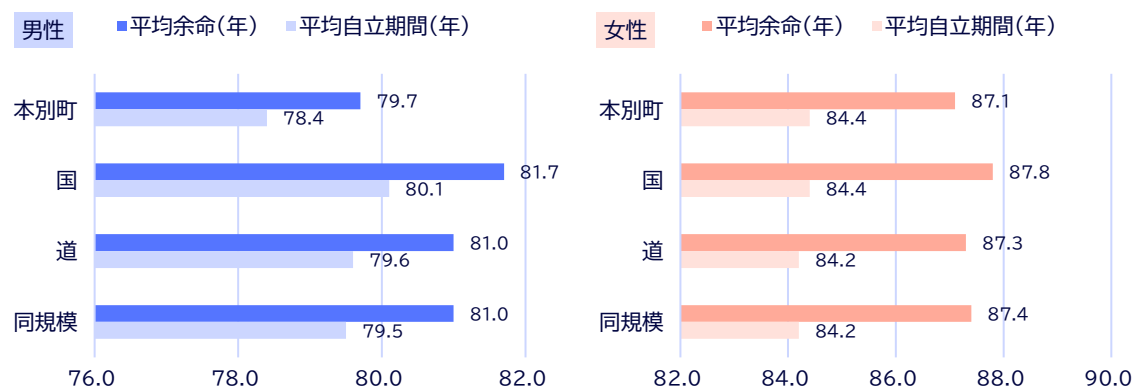
平均余命は、男性は79.7年で国・道より短い。女性は87.1年で、国・道より短い。

平均自立期間は、男性の平均自立期間は78.4年で、国・道より短い。女性の平均自立期間は84.4年で、国と同程度で、道より長い。

介護などで日常生活に制限のある期間（平均余命と平均自立期間の差）は、男性は1.3年で、平成30年度以降縮小している。女性は2.7年で縮小している。

※平均余命：ある年齢の人々が、その後何年生きられるかの期待値であり、下表では0歳での平均余命を示している
 ※平均自立期間：0歳の人が必要介護2の状態になるまでの期間

図表3-1-2-1：平均余命・平均自立期間



	男性			女性		
	平均余命(年)	平均自立期間(年)	差(年)	平均余命(年)	平均自立期間(年)	差(年)
本別町	79.7	78.4	1.3	87.1	84.4	2.7
国	81.7	80.1	1.6	87.8	84.4	3.4
道	81.0	79.6	1.4	87.3	84.2	3.1
同規模	81.0	79.5	1.5	87.4	84.2	3.2

※表内の「同規模」とは、人口規模が同程度の市町村を指す

【出典】KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 令和4年度 累計

図表3-1-2-2：平均余命と平均自立期間の推移

	男性			女性		
	平均余命(年)	平均自立期間(年)	差(年)	平均余命(年)	平均自立期間(年)	差(年)
平成30年度	81.6	80.2	1.4	87.8	84.7	3.1
令和元年度	80.6	79.2	1.4	87.9	84.7	3.2
令和2年度	79.8	78.5	1.3	87.4	84.2	3.2
令和3年度	79.0	77.7	1.3	86.8	84.1	2.7
令和4年度	79.7	78.4	1.3	87.1	84.4	2.7

【出典】KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 平成30年度から令和4年度 累計

ポイント

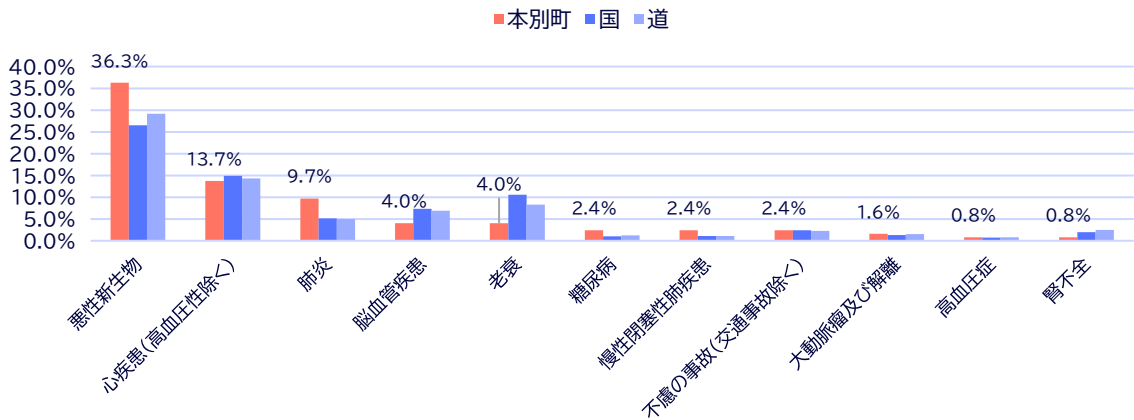
- ・平均余命は、男性では国・道より短い。女性では国・道より短い。
- ・平均自立期間は、男性では国・道より短い。女性では国と同程度で、道より長い。

2 死亡の状況

(1) 死因別死亡者数

令和3年の人口動態調査から、死因第1位は「悪性新生物」で全死亡者の36.3%を占めている。保健事業により予防可能な重篤な疾患である「心疾患（高血圧性除く）」は第2位（13.7%）、「脳血管疾患」は第4位（4.0%）、「腎不全」は第10位（0.8%）であり、いずれも死因別死亡者数の上位に位置している。

図表3-2-1-1：死因別の死亡者数・割合



順位	死因	本別町		国	道
		死亡者数（人）	割合		
1位	悪性新生物	45	36.3%	26.5%	29.2%
2位	心疾患（高血圧性除く）	17	13.7%	14.9%	14.3%
3位	肺炎	12	9.7%	5.1%	5.0%
4位	脳血管疾患	5	4.0%	7.3%	6.9%
4位	老衰	5	4.0%	10.6%	8.3%
6位	糖尿病	3	2.4%	1.0%	1.2%
6位	慢性閉塞性肺疾患	3	2.4%	1.1%	1.1%
6位	不慮の事故（交通事故除く）	3	2.4%	2.4%	2.3%
9位	大動脈瘤及び解離	2	1.6%	1.3%	1.5%
10位	高血圧症	1	0.8%	0.7%	0.8%
10位	腎不全	1	0.8%	2.0%	2.5%
-	その他	27	21.8%	25.4%	25.4%
-	死亡総数	124	-	-	-

【出典】厚生労働省 人口動態調査 令和3年

ポイント

- ・平均余命に影響している死因のうち、予防可能な主な疾患については、「心疾患（高血圧性除く）」が13.7%、「脳血管疾患」が4.0%、「腎不全」が0.8%であり、いずれも死因別死亡者数の上位に位置している。

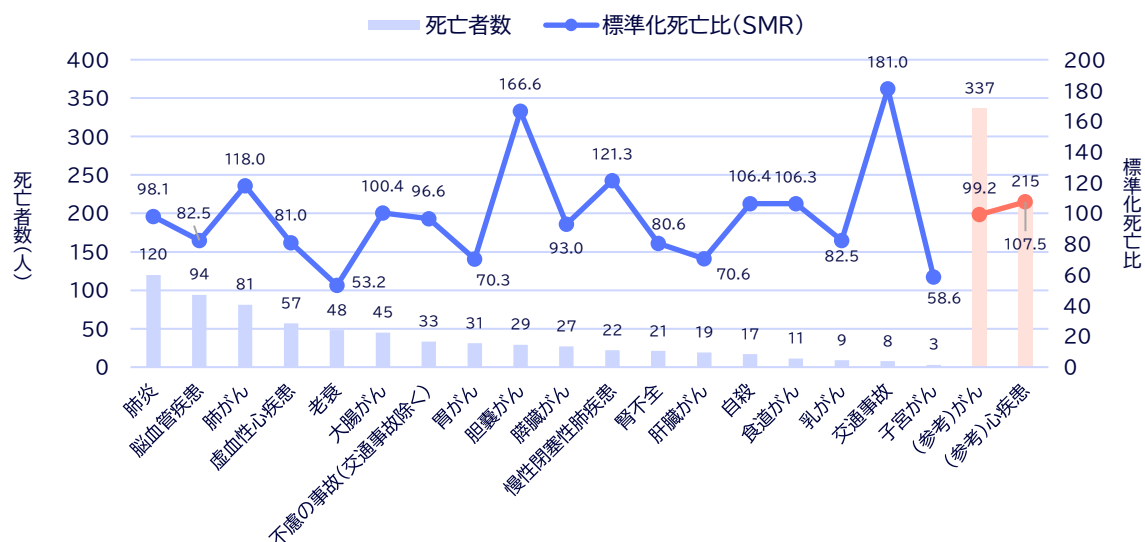
(2) 死因別の標準化死亡比 (SMR)

平成22年から令和元年までの累積死因別死亡者数をみると、死亡者数の最も多い死因は「肺炎」であり、国と比べて標準化死亡比 (SMR) が最も高い死因は「交通事故」(181.0)である。

保健事業により予防可能な疾患に焦点をあててSMRをみると、「虚血性心疾患」は81.0、「脳血管疾患」は82.5、「腎不全」は80.6となっている。

※標準化死亡比 (SMR) : 国の平均を100としており、標準化死亡比が100以上の場合は国の平均より死亡率が高いと判断され、100以下の場合は死亡率が低いと判断される

図表3-2-2-1: 平成22年から令和元年までの死因別の死亡者数とSMR



順位	死因	死亡者数 (人)	標準化死亡比 (SMR)		
			本別町	道	国
1位	肺炎	120	98.1	97.2	100
2位	脳血管疾患	94	82.5	92.0	
3位	肺がん	81	118.0	119.7	
4位	虚血性心疾患	57	81.0	82.4	
5位	老衰	48	53.2	72.6	
6位	大腸がん	45	100.4	108.7	
7位	不慮の事故(交通事故除く)	33	96.6	84.3	
8位	胃がん	31	70.3	97.2	
9位	胆嚢がん	29	166.6	113.0	
10位	膵臓がん	27	93.0	124.6	
11位	慢性閉塞性肺疾患	22	121.3	92.0	100
12位	腎不全	21	80.6	128.3	
13位	肝臓がん	19	70.6	94.0	
14位	自殺	17	106.4	103.8	
15位	食道がん	11	106.3	107.5	
16位	乳がん	9	82.5	109.5	
17位	交通事故	8	181.0	94.0	
18位	子宮がん	3	58.6	101.5	
参考	がん	337	99.2	109.2	
参考	心疾患	215	107.5	100.0	

※「(参考)がん」は、表内の「がん」を含むICD-10死因简单分類における「悪性新生物」による死亡者数の合計

※「(参考)心疾患」は、表内の「虚血性心疾患」を含むICD-10死因简单分類における「心疾患」による死亡者数の合計

【出典】公益財団法人北海道健康づくり財団統計データ 平成22年から令和元年

ポイント

- ・ 予防可能な主な疾患について国との標準化死亡比をみると、「虚血性心疾患」が81.0、「脳血管疾患」が82.5、「腎不全」が80.6となっている。

(3) (参考) 5がん(胃がん・肺がん・大腸がん・子宮頸がん・乳がん) 検診の受診率

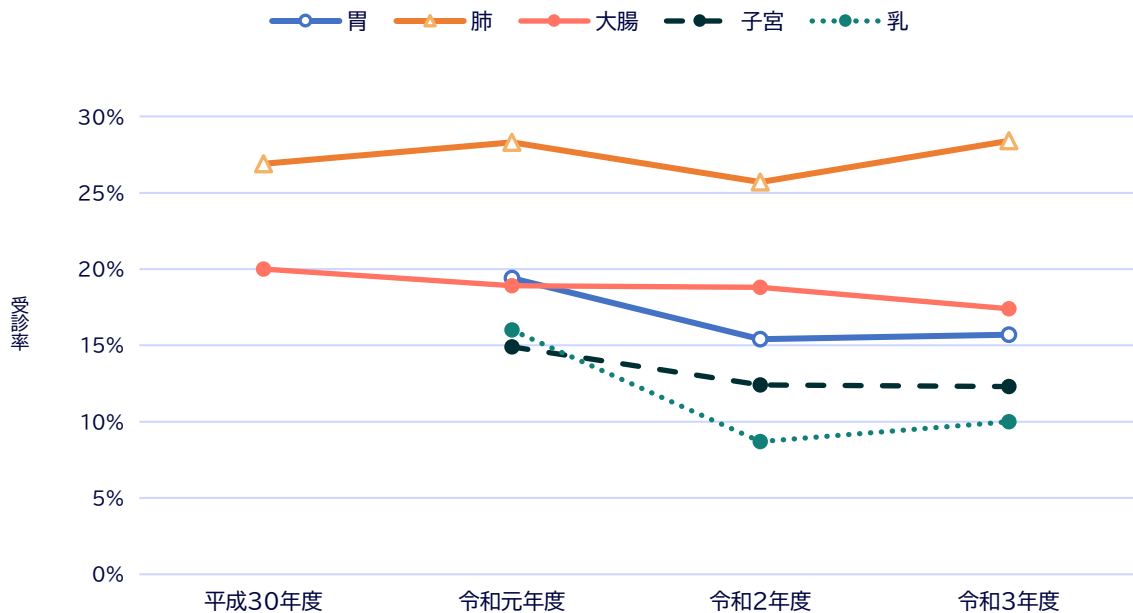
国保被保険者における5がんの検診平均受診率は16.8%で、国・道より高い。

図表3-2-3-1：がん検診の受診状況

	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん	5がん平均
本別町	15.7%	28.4%	17.4%	12.3%	10.0%	16.8%
国	12.1%	15.2%	16.0%	16.2%	18.2%	15.5%
道	10.6%	10.9%	11.7%	14.5%	14.6%	12.5%

【出典】厚生労働省 地域保健・健康増進事業報告_令和3年度

図表3-2-3-2：がん検診の受診状況(差し換え検討)



がん種		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
胃	本別町	10.6%	19.4%	15.4%	15.7%
	国	14.3%	14.1%	12.9%	12.1%
	道	12.5%	11.9%	11.3%	10.6%
肺	本別町	26.9%	28.3%	25.7%	28.4%
	国	16.5%	16.7%	13.4%	15.2%
	道	11.3%	11.2%	9.9%	10.9%
大腸	本別町	20.0%	18.9%	18.8%	17.4%
	国	17.0%	17.1%	14.6%	16.0%
	道	12.5%	12.6%	10.8%	11.7%
子宮	本別町	17.1%	14.9%	12.4%	12.3%
	国	16.6%	17.2%	16.3%	16.2%
	道	15.2%	15.1%	14.9%	14.5%
乳	本別町	14.7%	16.0%	8.7%	10.0%
	国	19.9%	20.2%	18.5%	18.2%
	道	15.9%	15.3%	14.9%	14.6%

【出典】厚生労働省 地域保健・健康増進事業報告_平成30年度～令和3年度

3 介護の状況

(1) 一件当たり介護給付費

居宅サービスの給付費が国・道より多くなっている。

図表3-3-1-1：介護レセプト一件当たりの介護給付費

	本別町	国	道	同規模
計_一件当たり給付費(円)	100,617	59,662	60,965	74,986
(居宅)一件当たり給付費(円)	57,864	41,272	42,034	43,722
(施設)一件当たり給付費(円)	290,889	296,364	296,260	289,312

【出典】KDB帳票 S25_004-医療・介護の突合の経年比較 令和4年度 年次

(2) 要介護（要支援）認定者数・割合

第1号被保険者（65歳以上）における要介護認定率は16.8%で、国・道より低い。

図表3-3-2-1：令和4年度における要介護（要支援）認定区分別の認定者数・割合

	被保険者数 (人)	要支援1-2		要介護1-2		要介護3-5		本別町 認定率	国 認定率	道 認定率	
		認定者数(人)	認定率	認定者数(人)	認定率	認定者数(人)	認定率				
1号											
65-74歳	1,153	5	0.4%	17	1.5%	13	1.1%	3.0%	-	-	
75歳以上	1,514	101	6.7%	202	13.3%	111	7.3%	27.3%	-	-	
計	2,667	106	4.0%	219	8.2%	124	4.6%	16.8%	18.7%	20.8%	
2号											
40-64歳	1,900	6	0.3%	2	0.1%	3	0.2%	0.6%	0.4%	0.4%	
総計	4,567	112	2.5%	221	4.8%	127	2.8%	-	-	-	

【出典】住民基本台帳 令和4年度

KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 令和4年度 累計

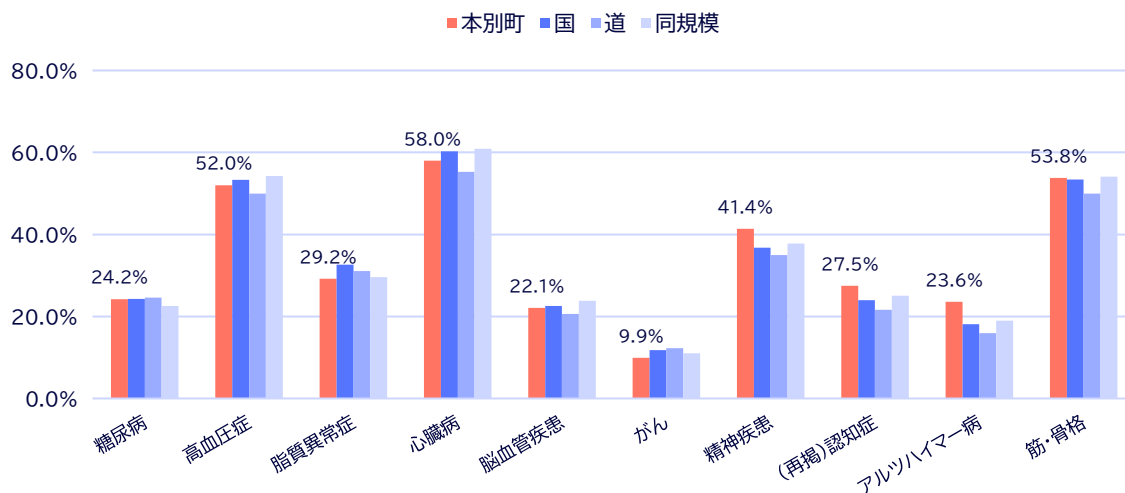
KDB帳票 S24_001-要介護（支援）者認定状況 令和4年度 累計

(3) 要介護・要支援認定者の有病状況

要介護または要支援の認定を受けた人のうち、特に予防すべき重篤な疾患の有病状況は「心臓病」は58.0%、「脳血管疾患」は22.1%となっている。

また、重篤な疾患に発展する可能性のある基礎疾患の有病状況をみると、「糖尿病」は24.2%、「高血圧症」は52.0%、「脂質異常症」は29.2%となっており、要介護者・要支援認定者の多くが予防可能な生活習慣病に関する疾患を有している。

図表3-3-3-1：要介護・要支援認定者の有病状況



疾病名	要介護・要支援認定者（1・2号被保険者）		国	道	同規模
	該当者数（人）	割合			
糖尿病	116	24.2%	24.3%	24.6%	22.6%
高血圧症	247	52.0%	53.3%	50.0%	54.3%
脂質異常症	146	29.2%	32.6%	31.1%	29.6%
心臓病	275	58.0%	60.3%	55.3%	60.9%
脳血管疾患	101	22.1%	22.6%	20.6%	23.8%
がん	43	9.9%	11.8%	12.3%	11.0%
精神疾患	188	41.4%	36.8%	35.0%	37.8%
うち_認知症	122	27.5%	24.0%	21.6%	25.1%
アルツハイマー病	103	23.6%	18.1%	15.9%	19.0%
筋・骨格関連疾患	261	53.8%	53.4%	50.0%	54.1%

【出典】KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 令和4年度 累計

ポイント

- ・平均自立期間に影響している介護の状況において、要介護（要支援）認定者は「心臓病」「筋・骨格関連疾患」の有病割合が高く、また、その多くが予防可能な生活習慣病に関する疾患を有している。

4 国保加入者の医療の状況

(1) 国保被保険者構成

令和4年度における国保加入者数は1,783人で、平成30年度の数と比較して319人減少している。国保加入率は28.7%で、国・道より高い。

65歳以上の被保険者の割合は44.9%で、平成30年度と比較して0.7ポイント増加している。

図表3-4-1-1：被保険者構成

	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合
0-39歳	508	24.2%	460	23.3%	456	23.6%	454	24.2%	436	24.5%
40-64歳	664	31.6%	611	31.0%	590	30.5%	572	30.5%	546	30.6%
65-74歳	930	44.2%	902	45.7%	890	46.0%	848	45.3%	801	44.9%
国保加入者数	2,102	100.0%	1,973	100.0%	1,936	100.0%	1,874	100.0%	1,783	100.0%
本別町_総人口(人)	6,891		6,710		6,563		6,395		6,208	
本別町_国保加入率	30.5%		29.4%		29.5%		29.3%		28.7%	
国_国保加入率	22.0%		21.3%		21.0%		20.5%		19.7%	
道_国保加入率	21.9%		21.4%		21.1%		20.6%		20.0%	

※加入率は、KDB帳票における年度毎の国保加入者数を住民基本台帳における年毎の人口で除して算出している

【出典】住民基本台帳 平成30年度から令和4年度
KDB帳票 S21_006-被保険者構成 平成30年から令和4年 年次

ポイント

- ・国保加入者数は年々減少しているが、前期高齢者の割合が高く高齢化は進行している。

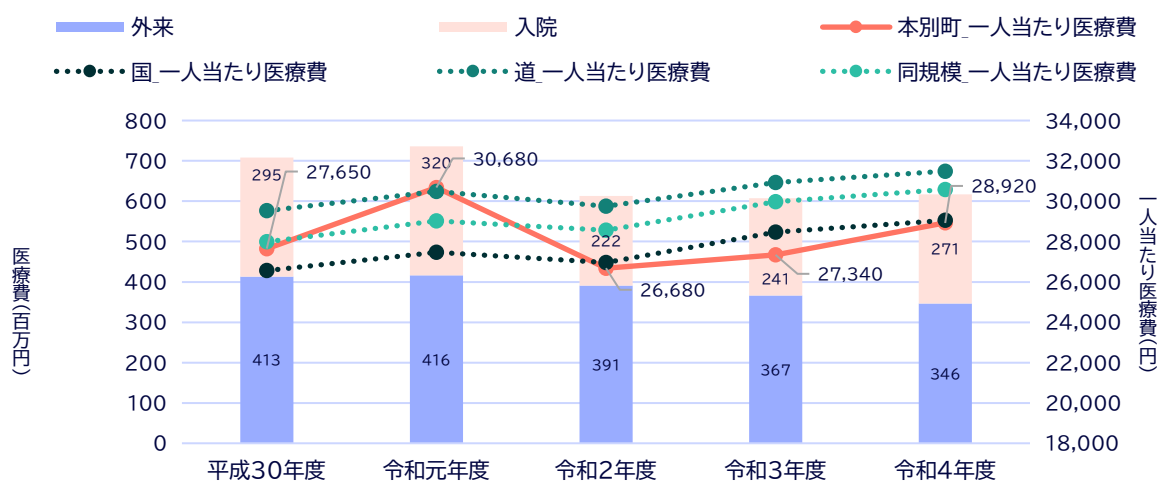
(2) 総医療費及び一人当たり医療費

令和4年度の総医療費は約6億1,700万円、平成30年度と比較して12.8%減少している。

令和4年度の一人当たり医療費は28,920円で、平成30年度と比較して4.6%増加している。一人当たり医療費は国・道より少ない。

※一人当たり医療費：総医療費を国保加入者数で除したもので集団比較や経年比較に用いられる

図表3-4-2-1：総医療費・一人当たりの医療費



		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	割合	平成30年度からの 変化率 (%)
		医療費 (円)	708,036,050	736,034,450	612,635,660	607,848,420		
医療費 (円)	総額	708,036,050	736,034,450	612,635,660	607,848,420	617,165,240	-	-12.8
	入院	294,806,530	319,832,840	221,974,300	241,183,000	270,878,120	43.9%	-8.1
	外来	413,229,520	416,201,610	390,661,360	366,665,420	346,287,120	56.1%	-16.2
一人当たり医療費 (円)	本別町	27,650	30,680	26,680	27,340	28,920	-	4.6
	国	26,560	27,470	26,960	28,470	29,050	-	9.4
	道	29,530	30,480	29,750	30,920	31,490	-	6.6
	同規模	27,990	29,020	28,570	29,970	30,580	-	9.3

※一人当たり医療費は、月平均を算出

【出典】 KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 平成30年度から令和4年度 累計

参考：医療サービスの状況

図表3-4-2-2：医療サービスの状況

(千人当たり)	本別町	国	道	同規模
病院数	0.6	0.3	0.5	0.3
診療所数	1.7	4.0	3.2	2.6
病床数	33.7	59.4	87.8	36.4
医師数	4.5	13.4	13.1	4.1

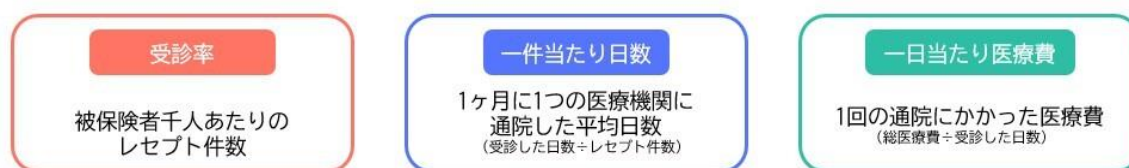
【出典】 KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 令和4年度 累計

ポイント

- ・令和4年度の一人当たり医療費は28,920円で、対平成30年度比で4.6%増加している。
- ・一人当たり医療費を国や道と比較すると国・道より少ない。

(3) 一人当たり医療費と医療費の3要素

一人当たり医療費の3要素



一人当たり医療費は、「受診率」「一件当たり日数」「一日当たり医療費」の3要素に分解される。令和4年度の一人当たり医療費を、入院と外来のそれぞれで3要素に分解して比較すると、入院の受診率は外来と比較すると件数が少ない。その一方で、一日当たり医療費は外来と比較すると多くなっている。

また、入院の一人当たり医療費は12,690円で、国と比較すると1,040円多い。これは受診率、一日当たり医療費が国の値を上回っているためである。

外来の一人当たり医療費は16,230円で、国と比較すると1,170円少ない。これは受診率、一件当たり日数が国の値を下回っているためである。

図表3-4-3-1：入院外来別医療費の3要素

入院	本別町	国	道	同規模
一人当たり医療費（円）	12,690	11,650	13,820	13,360
受診率（件/千人）	18.9	18.8	22.0	22.7
一件当たり日数（日）	13.7	16.0	15.8	16.4
一日当たり医療費（円）	48,900	38,730	39,850	35,890

外来	本別町	国	道	同規模
一人当たり医療費（円）	16,230	17,400	17,670	17,220
受診率（件/千人）	675.7	709.6	663.0	692.2
一件当たり日数（日）	1.3	1.5	1.4	1.4
一日当たり医療費（円）	18,250	16,500	19,230	17,520

【出典】KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 令和4年度 累計

ポイント

- ・入院の受診率及び一日当たり医療費を外来と比較すると、入院の受診率の方が外来より件数が少ないにも関わらず、一日当たり医療費が多くなっている。
- ・入院の一人当たり医療費は国より多い。これは受診率、一日当たり医療費が国の値を上回っているためである。
- ・外来の一人当たり医療費は国より少ない。これは受診率、一件当たり日数が国の値を下回っているためである。

(4) 疾病別医療費の構成

① 疾病分類（大分類）別医療費

続いて、総医療費に占める割合が高い疾病分類（大分類）の構成をみる。

総医療費に占める構成が最も高い疾病は「新生物」で、年間医療費は約1億1,600万円（18.8%）となっており、次いで高いのは「筋骨格系及び結合組織の疾患」で約9,400万円（15.2%）である。これら2疾病で総医療費の34.0%を占めている。特に、保健事業により予防可能である疾患を多く含む「循環器系の疾患」は受診率及びレセプト一件当たり医療費が、いずれも他の疾病よりも比較的多い傾向にあり、医療費が高額な原因となっている。

図表3-4-4-1：疾病分類（大分類）別_医療費（男女合計）

順位	疾病分類（大分類）	医療費（円）	医療費（円）			
			一人当たり医療費（円）	割合	受診率	レセプト一件当たり医療費（円）
1位	新生物	115,744,830	65,098	18.8%	331.8	196,178
2位	筋骨格系及び結合組織の疾患	93,778,630	52,744	15.2%	1142.3	46,174
3位	循環器系の疾患	92,805,880	52,197	15.1%	1220.5	42,768
4位	内分泌、栄養及び代謝疾患	72,634,910	40,852	11.8%	1404.9	29,077
5位	消化器系の疾患	40,122,050	22,566	6.5%	527.0	42,820
6位	呼吸器系の疾患	36,493,310	20,525	5.9%	754.8	27,193
7位	神経系の疾患	24,155,530	13,586	3.9%	322.8	42,083
8位	尿路器系の疾患	22,525,010	12,669	3.7%	345.3	36,686
9位	眼及び付属器の疾患	20,771,640	11,683	3.4%	635.0	18,398
10位	損傷、中毒及びその他の外因の影響	16,539,240	9,302	2.7%	171.0	54,405
11位	精神及び行動の障害	15,289,360	8,599	2.5%	272.8	31,524
12位	症状、徴候及び異常臨床検査所見で他に分類されないもの	14,880,230	8,369	2.4%	193.5	43,256
13位	皮膚及び皮下組織の疾患	10,291,550	5,788	1.7%	394.8	14,660
14位	感染症及び寄生虫症	9,695,610	5,453	1.6%	241.8	22,548
15位	耳及び乳様突起の疾患	3,538,750	1,990	0.6%	97.3	20,455
16位	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	2,681,930	1,508	0.4%	19.1	78,880
17位	先天奇形、変形及び染色体異常	2,387,230	1,343	0.4%	13.5	99,468
18位	周産期に発生した病態	1,067,190	600	0.2%	12.9	46,400
19位	妊娠、分娩及び産じょく	633,050	356	0.1%	10.7	33,318
-	その他	20,133,820	11,324	3.3%	225.5	50,209
-	総計	616,169,750	-	-	-	-

※図表3-4-2-1の医療費「総額」と値が異なるのは、図表3-4-2-1においては年齢に関係なく、国保のレセプトを集計しているのに対し、本表では被保険者の生年月日から算出した年齢によって集計対象のレセプトを絞り込んでいるためである

※KDBシステムにて設定されている疾病分類（大分類）区分のうち、特殊目的用コード、傷病及び死亡の外因、健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用、その他（上記以外のもの）を「その他」にまとめている

【出典】KDB帳票 S23_003-疾病別医療費分析（大分類） 令和4年度 累計

ポイント

- ・大分類で見た場合、医療費に占める割合が高い疾病は「新生物」と「筋骨格系及び結合組織の疾患」である。
- ・「循環器系の疾患」は保健事業により予防可能な疾患を多く含んでおり、対策が必要である。

② 疾病分類（中分類）別 入院医療費

入院医療費を疾病分類（中分類）別にみると、「その他の悪性新生物」の医療費が最も多く約2,800万円で、10.2%を占めている。

また、予防可能な疾患で入院医療費が高額なものは、「虚血性心疾患」「脳内出血」である。

図表3-4-4-2：疾病分類（中分類）別_入院医療費_上位20疾病（男女合計）

順位	疾病分類（中分類）	医療費（円）				
		医療費（円）	一人当たり医療費（円）	割合	受診率	レセプト一件当たり医療費（円）
1位	その他の悪性新生物	27,591,450	15,518	10.2%	21.9	707,473
2位	悪性リンパ腫	21,264,210	11,960	7.9%	6.7	1,772,018
3位	関節症	17,398,390	9,785	6.4%	7.9	1,242,742
4位	脊椎障害（脊椎症を含む）	15,028,510	8,452	5.5%	10.1	834,917
5位	気管、気管支及び肺の悪性新生物	14,289,430	8,037	5.3%	9.6	840,555
6位	その他の心疾患	13,482,690	7,583	5.0%	5.1	1,498,077
7位	虚血性心疾患	12,719,830	7,154	4.7%	5.1	1,413,314
8位	その他の消化器系の疾患	9,712,950	5,463	3.6%	20.8	262,512
9位	症状、徴候及び異常臨床所見・異常、検査所見で他に分類されないもの	9,251,790	5,203	3.4%	9.6	544,223
10位	その他の理由による保健サービスの利用者	9,200,720	5,175	3.4%	6.7	766,727
11位	その他の呼吸器系の疾患	8,780,040	4,938	3.2%	6.7	731,670
12位	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	8,149,530	4,584	3.0%	6.2	740,866
13位	骨折	7,280,570	4,095	2.7%	5.6	728,057
14位	脳内出血	7,190,000	4,044	2.7%	5.1	798,889
15位	結腸の悪性新生物	6,547,790	3,683	2.4%	2.8	1,309,558
16位	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	5,043,590	2,837	1.9%	4.5	630,449
17位	その他の脳血管疾患	4,965,660	2,793	1.8%	2.2	1,241,415
18位	糖尿病	3,961,420	2,228	1.5%	7.9	282,959
19位	胆石症及び胆のう炎	3,853,770	2,167	1.4%	3.9	550,539
20位	その他の特殊目的用コード	3,766,310	2,118	1.4%	2.8	753,262

【出典】KDB帳票 S23_004-疾病別医療費分析（中分類） 令和4年度 累計

ポイント

- ・ 予防可能な疾患で入院医療費が高額なものは、「虚血性心疾患」「脳内出血」である。

③ 疾病分類（中分類）別 外来医療費

外来医療費を疾病分類（中分類）別にみると、「糖尿病」の医療費が最も多く約5,100万円で、14.8%を占めている。重篤な疾患に進行する前の状態である基礎疾患については、「糖尿病」「高血圧症」「脂質異常症」が外来医療費の上位に入っている。

図表3-4-4-3：疾病分類（中分類）別_外来医療費_上位20疾病（男女合計）

順位	疾病分類（中分類）	医療費（円）				
		医療費（円）	一人当たり医療費（円）	割合	受診率	レセプト一件当たり医療費（円）
1位	糖尿病	51,171,410	28,780	14.8%	888.6	32,387
2位	炎症性多発性関節障害	21,102,250	11,869	6.1%	124.9	95,055
3位	その他の心疾患	20,829,050	11,715	6.0%	313.3	37,395
4位	高血圧症	20,645,560	11,612	6.0%	707.5	16,411
5位	その他の悪性新生物	19,492,390	10,963	5.6%	90.0	121,827
6位	その他の消化器系の疾患	14,692,840	8,264	4.3%	285.7	28,923
7位	その他の眼及び付属器の疾患	11,427,030	6,427	3.3%	401.6	16,004
8位	脂質異常症	11,193,690	6,296	3.2%	392.0	16,060
9位	その他の神経系の疾患	9,175,410	5,161	2.7%	233.4	22,109
10位	気管、気管支及び肺の悪性新生物	8,906,560	5,009	2.6%	25.3	197,924
11位	喘息	7,748,110	4,358	2.2%	196.9	22,137
12位	関節症	7,270,930	4,089	2.1%	333.5	12,261
13位	症状、徴候及び異常臨床所見・異常、検査所見で他に分類されないもの	5,628,440	3,166	1.6%	183.9	17,212
14位	脊椎障害（脊椎症を含む）	5,245,370	2,950	1.5%	173.2	17,030
15位	骨の密度及び構造の障害	5,099,930	2,868	1.5%	141.2	20,318
16位	慢性閉塞性肺疾患	4,723,510	2,657	1.4%	109.1	24,348
17位	その他の腎尿路系の疾患	4,340,100	2,441	1.3%	126.0	19,375
18位	白内障	4,073,900	2,291	1.2%	81.0	28,291
19位	乳房及びその他の女性生殖器の疾患	4,030,330	2,267	1.2%	45.6	49,757
20位	気分（感情）障害（躁うつ病を含む）	3,807,650	2,142	1.1%	122.0	17,547

【出典】KDB帳票 S23_004-疾病別医療費分析（中分類） 令和4年度 累計

ポイント

- ・ 外来医療費（中分類疾病別）をみると、重篤な疾患に進行する前の状態である基礎疾患については、「糖尿病」「高血圧症」「脂質異常症」が外来医療費の上位に入っている。

④ 医療費が高額な疾病の状況

医療費のうち、1か月当たり80万円以上のレセプトのうち、予防可能な重篤な疾患についてみると、「虚血性心疾患」が上位に入っている。

医療費適正化の観点からもこれらの重篤な疾患の予防に取り組むことが重要である。

図表3-4-4-4：疾病分類（中分類）別_1か月当たり80万円以上のレセプトの状況 内訳（上位の疾病）

順位	疾病分類（中分類）	医療費（円）	高額レセプトの医療費に占める割合	件数（累計）（件）	高額レセプトの全件数に占める割合
1位	その他の悪性新生物	23,292,190	14.3%	20	17.2%
2位	悪性リンパ腫	20,661,190	12.7%	10	8.6%
3位	関節症	16,394,890	10.0%	10	8.6%
4位	その他の心疾患	12,764,230	7.8%	6	5.2%
5位	虚血性心疾患	10,768,170	6.6%	4	3.4%
6位	脊椎障害（脊椎症を含む）	10,692,940	6.5%	8	6.9%
7位	気管、気管支及び肺の悪性新生物	10,260,290	6.3%	9	7.8%
8位	結腸の悪性新生物	5,965,260	3.7%	4	3.4%
9位	その他の呼吸器系の疾患	4,910,040	3.0%	4	3.4%
10位	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	4,819,240	3.0%	4	3.4%

【出典】KDB帳票 S21_011-厚生労働省様式（様式1-1） 令和4年6月から令和5年5月

⑤ 入院が長期化する疾病の状況

医療費のうち、6か月以上の入院患者のレセプトについてみる。予防可能な重篤な疾患についてみると、いずれの疾患も上位には入っていない。

長期入院が必要な疾患はリハビリテーションや介護が必要となる可能性があるため、平均自立期間に影響することが考えられる。

図表3-4-4-5：疾病分類（中分類）別_6か月以上の入院レセプトの状況 内訳（上位の疾病）

順位	疾病分類（中分類）	医療費（円）	長期入院レセプトの医療費に占める割合	件数（累計）（件）	長期入院レセプトの全件数に占める割合
1位	その他の理由による保健サービスの利用者	9,200,720	37.3%	12	34.3%
2位	症状、徴候及び異常臨床所見・異常、検査所見で他に分類されないもの	8,214,630	33.3%	12	34.3%
3位	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	4,358,440	17.7%	7	20.0%
4位	皮膚炎及び湿疹	1,550,500	6.3%	2	5.7%
5位	てんかん	1,310,900	5.3%	2	5.7%

【出典】KDB帳票 S21_012-厚生労働省様式（様式2-1） 令和4年6月から令和5年5月

ポイント

- ・医療費が高額な疾病に、予防可能な疾患が入っている。

(5) その他

① 重複服薬の状況

重複処方該当者数は10人である。

※重複処方該当者：重複処方を受けた人のうち、3医療機関以上かつ複数の医療機関から重複処方が発生した薬効数が1以上、または2医療機関以上かつ複数の医療機関から重複処方が発生した薬効数が2以上に該当する者

図表3-4-5-1：重複服薬の状況（薬効分類単位で集計）

他医療機関との重複処方が発生した医療機関数（同一月内）		複数の医療機関から重複処方が発生した薬効数（同一月内）										
		1以上	2以上	3以上	4以上	5以上	6以上	7以上	8以上	9以上	10以上	
重複処方を受けた人	2医療機関以上	45	10	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	3医療機関以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4医療機関以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5医療機関以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【出典】KDB帳票 S27_013-重複・多剤処方の状況 令和5年3月診療分

② 多剤服薬の状況

多剤処方該当者数は、2人である。

※多剤処方該当者：同一薬効に関する処方日数が1日以上かつ処方薬効数（同一月内）が15以上に該当する者

図表3-4-5-2：多剤服薬の状況（薬効分類単位で集計）

		処方薬効数（同一月内）											
		1以上	2以上	3以上	4以上	5以上	6以上	7以上	8以上	9以上	10以上	15以上	20以上
処方日数	1日以上	802	671	535	405	310	215	148	106	71	46	2	0
	15日以上	652	589	486	379	297	213	148	106	71	46	2	0
	30日以上	603	545	454	355	282	201	140	101	69	45	2	0
	60日以上	429	391	331	259	208	147	107	80	55	36	2	0
	90日以上	207	188	162	128	103	71	54	41	27	15	2	0
	120日以上	103	97	89	74	59	38	30	24	15	11	1	0
	150日以上	52	48	45	36	27	16	11	9	6	5	0	0
	180日以上	37	33	31	24	17	9	6	5	3	3	0	0

【出典】KDB帳票 S27_013-重複・多剤処方の状況 令和5年3月診療分

③ 後発医薬品の使用状況

令和4年9月時点の後発医薬品の使用割合は85.0%で、道の82.0%と比較して3.0ポイント高い。

図表3-4-5-3：後発医薬品の使用状況

	平成30年9月	令和元年3月	令和元年9月	令和2年3月	令和2年9月	令和3年3月	令和3年9月	令和4年3月	令和4年9月
本別町	78.7%	82.4%	82.2%	84.8%	83.6%	82.8%	83.3%	82.8%	85.0%
道	75.2%	77.2%	77.7%	80.0%	80.8%	81.5%	81.6%	81.4%	82.0%

【出典】厚生労働省 保険者別の後発医薬品の使用割合

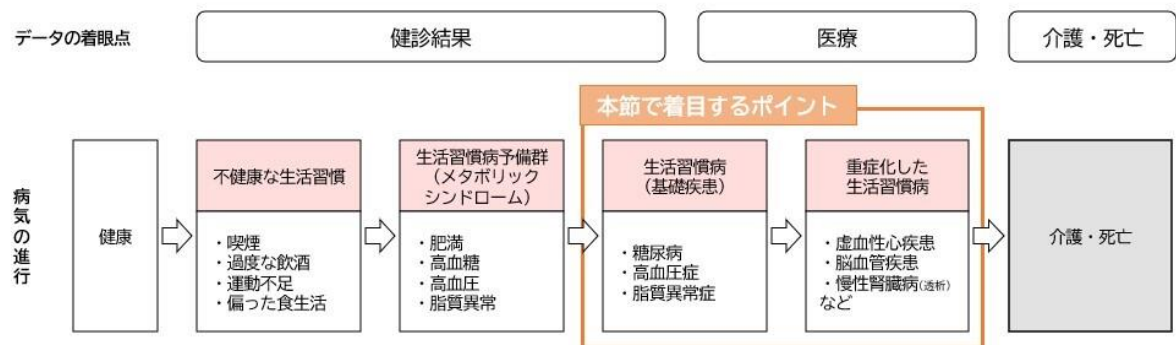
5 国保加入者の生活習慣病の状況

ここまでみてきたように、本別町の死亡・介護・医療のそれぞれにおいて、生活習慣病を中心とした予防可能な疾患の課題が大きいことがわかった。

一般的に、生活習慣病の重症化による生活機能の低下は、ある時突然発生するのではなく、「不健康な生活習慣」→「生活習慣病予備群」→「生活習慣病」→「重症化」→「介護（生活機能の低下）や死亡」と徐々に進行していくとされる（下図参照）。

生活習慣病は、各段階で適切な介入がなされることで、病気が進むことを食い止めることができ、また生活習慣病を発症しても、上手にコントロールできていれば重症化は防ぐことができる。一方で、コントロール不良だと心筋梗塞や脳梗塞などを引き起こし、生活機能の低下や要介護状態となる。

本節では、疾病の流れに沿って、本別町の課題である生活習慣病の状況や重症化した生活習慣病の状況を把握する。



(1) 生活習慣病医療費

生活習慣病医療費を平成30年度と令和4年度で比較すると減少している。特に、疾病別に見た場合、「脂質異常症」「慢性腎臓病（透析あり）」の医療費が減少している。

また、令和4年度時点で総医療費に占める疾病別の割合を国・道と比較すると、「基礎疾患」の割合が高い。

図表3-5-1-1：生活習慣病医療費の平成30年度比較

疾病名	本別町				国	道	同規模	
	平成30年度		令和4年度					
	医療費（円）	割合	医療費（円）	割合				
生活習慣病医療費	139,965,810	19.8%	116,426,040	18.9%	18.7%	16.4%	19.1%	
基礎疾患	糖尿病	56,935,160	13.9%	53,954,460	14.1%	10.7%	10.1%	11.7%
	高血圧症	22,635,110		21,092,440				
	脂質異常症	17,041,310		11,193,690				
	高尿酸血症	1,595,210		524,730				
重症化した生活習慣病	動脈硬化症	945,970	0.1%	434,010	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
	脳出血	10,262,560	1.4%	7,500,680	1.2%	0.7%	0.6%	0.6%
	脳梗塞	9,871,730	1.4%	4,799,030	0.8%	1.4%	1.5%	1.4%
	狭心症	9,192,010	1.3%	6,859,470	1.1%	1.1%	1.4%	1.1%
	心筋梗塞	3,383,030	0.5%	7,740,920	1.3%	0.3%	0.3%	0.4%
	慢性腎臓病（透析あり）	8,103,720	1.1%	2,326,610	0.4%	4.4%	2.3%	3.8%
総額	708,036,050		617,165,240					

【出典】KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 平成30年度・令和4年度 累計

ポイント

- ・生活習慣病医療費を平成30年度と令和4年度で比較すると減少している。
- ・総医療費に占める疾病別の割合を国と比較すると「基礎疾患」の医療費の割合が高い。

(2) 基礎疾患の有病状況

被保険者全体における基礎疾患の有病者数及びその割合は、「糖尿病」が278人（15.6%）、
「高血圧症」が397人（22.3%）、「脂質異常症」が338人（19.0%）となっている。

図表3-5-2-1：基礎疾患の有病状況

疾病名		男性		女性		合計	
		人数（人）	割合	人数（人）	割合	人数（人）	割合
被保険者数		889	-	894	-	1,783	-
基礎疾患	糖尿病	143	16.1%	135	15.1%	278	15.6%
	高血圧症	188	21.1%	209	23.4%	397	22.3%
	脂質異常症	144	16.2%	194	21.7%	338	19.0%

【出典】KDB帳票 S21_014-厚生労働省様式（様式3-1） 令和5年 5月

(3) 重症化した生活習慣病と基礎疾患の重なり

重症化した生活習慣病における基礎疾患の有病状況をみると、多くの人が複数の基礎疾患（糖尿病、高血圧症、脂質異常症）を有している。

図表3-5-3-1：生活習慣病の重篤な疾患患者における基礎疾患の有病状況

疾病名		男性		女性		合計	
		人数（人）	割合	人数（人）	割合	人数（人）	割合
虚血性心疾患		47	-	33	-	80	-
基礎疾患	糖尿病	28	59.6%	13	39.4%	41	51.3%
	高血圧症	39	83.0%	27	81.8%	66	82.5%
	脂質異常症	35	74.5%	22	66.7%	57	71.3%

疾病名		男性		女性		合計	
		人数（人）	割合	人数（人）	割合	人数（人）	割合
脳血管疾患		35	-	18	-	53	-
基礎疾患	糖尿病	20	57.1%	9	50.0%	29	54.7%
	高血圧症	28	80.0%	14	77.8%	42	79.2%
	脂質異常症	24	68.6%	15	83.3%	39	73.6%

疾病名		男性		女性		合計	
		人数（人）	割合	人数（人）	割合	人数（人）	割合
人工透析		0	-	0	-	0	-
基礎疾患	糖尿病	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	高血圧症	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	脂質異常症	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

【出典】KDB帳票 S21_018-厚生労働省様式（様式3-5） 令和5年 5月

KDB帳票 S21_019-厚生労働省様式（様式3-6） 令和5年 5月

KDB帳票 S21_020-厚生労働省様式（様式3-7） 令和5年 5月

ポイント

- ・重症化した生活習慣病を発症する人は、複数の基礎疾患を有している。特に「高血圧症」を基礎疾患として有している人が多い。

(4) 人工透析患者数

慢性腎臓病が悪化すると、人工透析になる。一般的に人工透析患者一人当たりの年間医療費は、約600万円になり、人工透析が導入されると身体的・精神的な負担だけでなく、週3回の通院が必要になるため患者自身のQOLにも大きな影響をもたらす。

そのため、予防的介入により人工透析を1年でも遅らせることが重要である。

本別町の人工透析患者数の推移をみると、令和4年度の患者数は20人で、平成30年度と比較して5人減少している。

令和4年度における新規の人工透析患者数は0人で平成30年度と比較して減少している。

図表3-5-4-1：人工透析患者数

			平成30年度	令和4年度	令和4年度と 平成30年度の差
人工透析患者数（人）	国保	0-39歳	0	0	0
		40-64歳	4	1	-3
		65-74歳	5	3	-2
	後期高齢	65-74歳	10	11	1
		75歳以上	6	5	-1
	合計		25	20	-5
【再掲】 新規人工透析患者数（人）	国保	0-39歳	0	0	0
		40-64歳	0	0	0
		65-74歳	1	0	-1
	後期高齢	65-74歳	0	0	0
		75歳以上	0	0	0
	合計		1	0	-1

【出典】KDB帳票 Expander 作成

ポイント

- ・人工透析の患者数は平成30年度と比べて減少している。

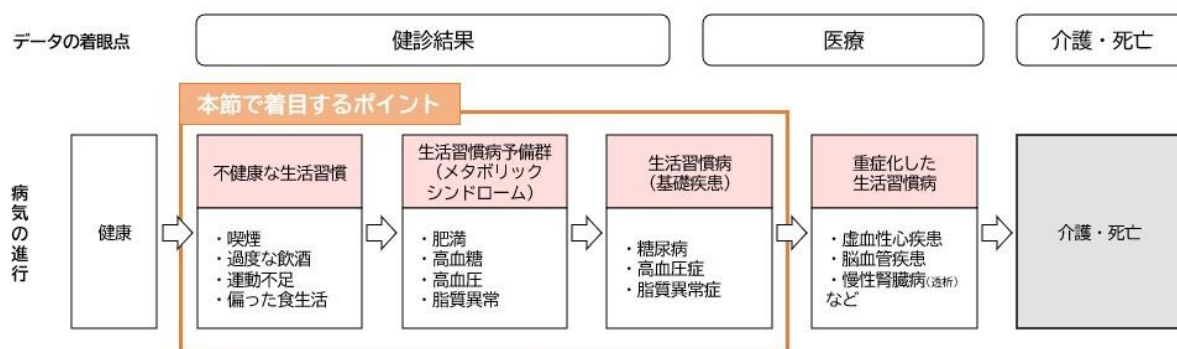
6 特定健診・特定保健指導・生活習慣の状況

前節でみたように、「虚血性心疾患」「脳血管疾患」「慢性腎臓病」といった重症化した生活習慣病に至った人は、「糖尿病」「高血圧症」「脂質異常症」といった基礎疾患を保有していることがわかった。

「糖尿病」「高血圧症」「脂質異常症」といった疾患は自覚症状がほとんどないまま進行するため、特定健診を通して自らの健康状態を理解し、定期的に生活習慣を振り返ることが重要である。

また、健診結果が基準値を超える場合は、生活習慣の改善や早期の医療機関への受診等の行動変容が重要であり、保健指導は、これらを支援するために健診結果で把握した生活習慣病のリスクに応じて行われている。

ここからは、特定健診受診者の健診結果をもとに生活習慣や生活習慣病予備群に関する情報も併せて把握し、保健指導による生活習慣病発症予防や重症化予防をはじめとした各種介入において、どのような課題があるか整理を行う。



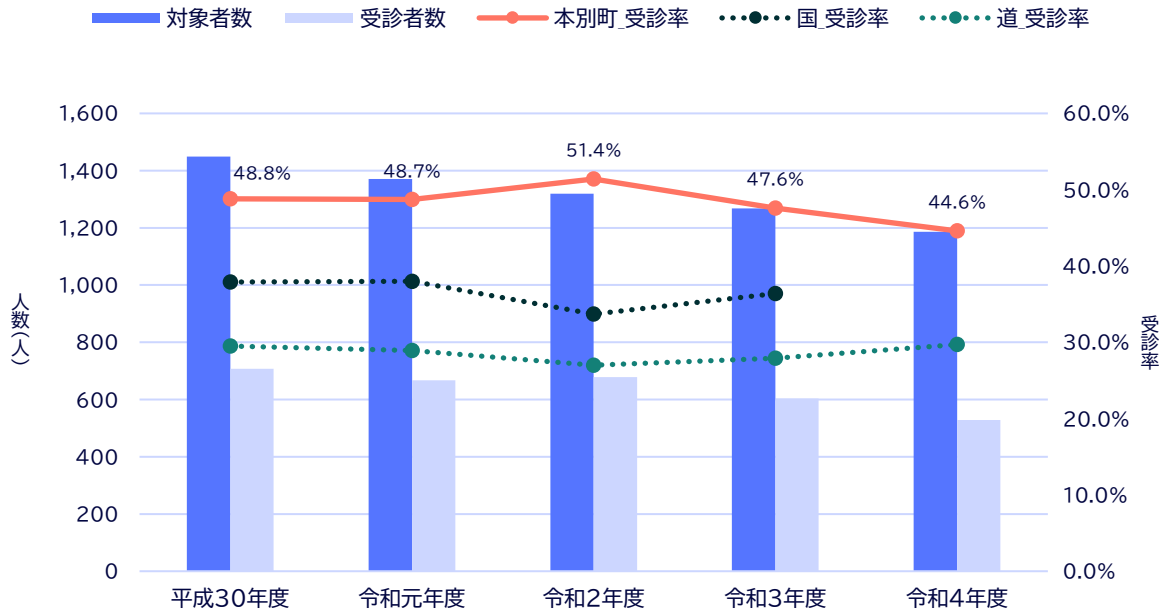
(1) 特定健診受診率

特定健診は、主に生活習慣病の早期発見を目的として行われる。

令和4年度の特定健診受診率は44.6%であり、道と比較して高い。

また、経年の推移をみると、平成30年度と比較して4.2ポイント低下している。

図表3-6-1-1：特定健診受診率（法定報告値）



	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	平成30年度と令和4年度の差	
特定健診対象者数 (人)	1,449	1,371	1,319	1,268	1,186	-263	
特定健診受診者数 (人)	707	667	678	603	529	-178	
特定健診受診率	本別町	48.8%	48.7%	51.4%	47.6%	44.6%	-4.2
	国	37.9%	38.0%	33.7%	36.4%	-	-
	道	29.5%	28.9%	27.0%	27.9%	29.7%	0.2

【出典】厚生労働省 2018年度から2022年度 特定健診・特定保健指導の実施状況（保険者別）
公益社団法人 国民健康保険中央会 市町村国保特定健康診査・特定保健指導実施状況報告書 平成30年度から令和4年度

図表3-6-1-2：年齢階層別_特定健診受診率

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
平成30年度	41.7%	44.4%	43.6%	41.6%	40.1%	49.6%	56.0%
令和元年度	44.6%	40.5%	49.0%	44.0%	35.7%	49.7%	54.5%
令和2年度	42.2%	45.0%	51.4%	42.2%	40.7%	50.8%	58.7%
令和3年度	42.5%	44.3%	43.3%	43.1%	42.0%	45.3%	52.7%
令和4年度	44.3%	49.4%	40.7%	40.4%	35.6%	45.2%	47.9%

※法定報告値は厚生労働省発表によるものであり、KDBデータと登録時期が異なるため値に差がある

【出典】KDB帳票 S21_008-健診の状況 平成30年度から令和4年度 累計

ポイント

- 生活習慣病は自覚症状が乏しく早期発見のために特定健診は重要であるが、その受診率は令和4年度で道と比較して高い。また、平成30年度と比べて4.2ポイント低下している。

(2) 健康状態不明者（健診なし治療なし）

本別町の特定健診対象者において、特定健診未受診者、かつ生活習慣病のレセプトが出ていない人は231人で、特定健診対象者の19.4%である。

特定健診の受診もなく生活習慣病の治療もない人は、健康状態が未把握であり、特定健診を通じた健康状態の把握が求められる。

※この項における生活習慣病とは、KDBが定める生活習慣病（糖尿病、高血圧症、脂質異常症、高尿酸血症、脂肪肝、動脈硬化症、脳出血、脳梗塞、狭心症、心筋梗塞、がん、筋・骨格関連疾患、及び精神疾患）を指す

図表3-6-2-1：特定健診の受診状況と生活習慣病の治療状況

	40-64歳		65-74歳		合計		
	人数（人）	対象者に占める割合	人数（人）	対象者に占める割合	人数（人）	対象者に占める割合	特定健診受診者・未受診者に占める割合
対象者数	473	-	716	-	1,189	-	-
特定健診受診者数	195	-	336	-	531	-	-
生活習慣病_治療なし	65	13.7%	32	4.5%	97	8.2%	18.3%
生活習慣病_治療中	130	27.5%	304	42.5%	434	36.5%	81.7%
特定健診未受診者数	278	-	380	-	658	-	-
生活習慣病_治療なし	130	27.5%	101	14.1%	231	19.4%	35.1%
生活習慣病_治療中	148	31.3%	279	39.0%	427	35.9%	64.9%

【出典】KDB帳票 S21_027-厚生労働省様式（様式5-5） 令和4年度 年次

ポイント

- ・特定健診を通じて健康状態を把握すべき「健診なし治療なし」の者は231人（19.4%）存在する。

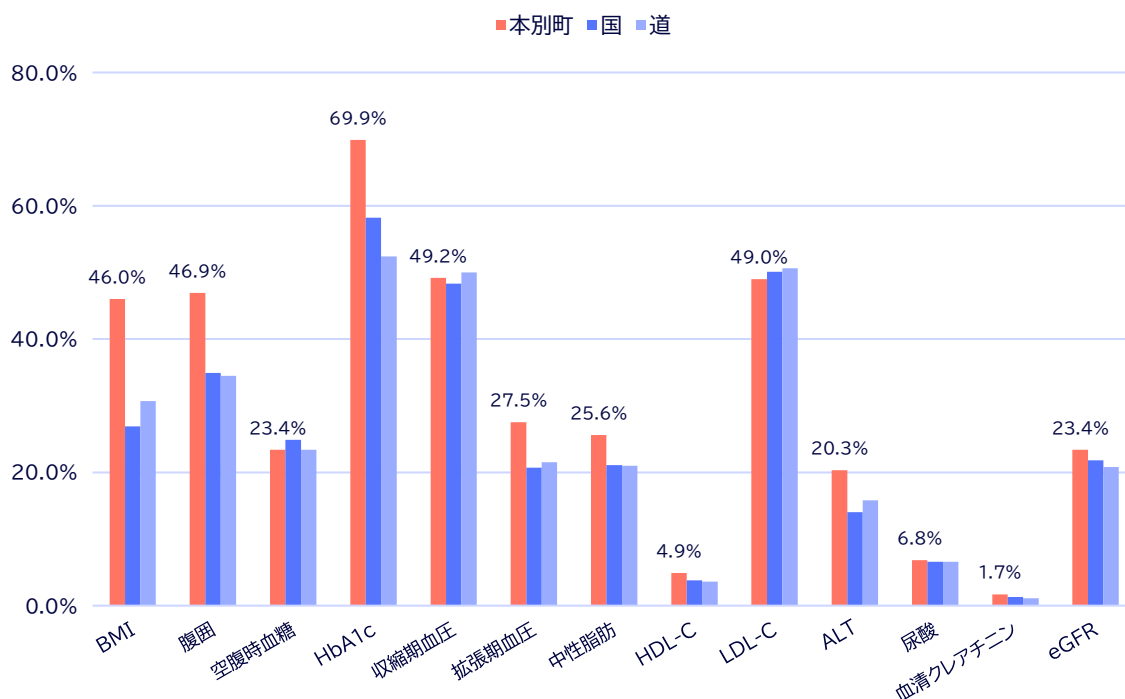
(3) 有所見者の状況

① 有所見者の割合

有所見とは、健診結果における医師の診断が「要精密検査」または「要治療等」の者を指し、その状況に応じて保健指導や受診勧奨といった介入がなされている。

令和4年度の特定健診受診者における有所見者の割合は国や道と比較して「BMI」「腹囲」「HbA1c」「拡張期血圧」「中性脂肪」「HDL-C」「ALT」「尿酸」「血清クレアチニン」「eGFR」の有所見率が高い。

図表3-6-3-1：特定健診受診者における有所見者の割合



	BMI	腹囲	空腹時血糖	HbA1c	収縮期血圧	拡張期血圧	中性脂肪	HDL-C	LDL-C	ALT	尿酸	血清クレアチニン	eGFR
本別町	46.0%	46.9%	23.4%	69.9%	49.2%	27.5%	25.6%	4.9%	49.0%	20.3%	6.8%	1.7%	23.4%
国	26.9%	34.9%	24.9%	58.2%	48.3%	20.7%	21.1%	3.8%	50.1%	14.0%	6.6%	1.3%	21.8%
道	30.7%	34.5%	23.4%	52.4%	50.0%	21.5%	21.0%	3.6%	50.6%	15.8%	6.6%	1.1%	20.8%

【出典】KDB帳票 S21_024-厚生労働省様式（様式5-2） 令和4年度 年次

参考：検査項目ごとの有所見定義

BMI	25kg/m ² 以上	中性脂肪	150mg/dL以上
腹囲	男性：85cm以上、女性：90cm以上 (内臓脂肪面積の場合：100cm ² 以上)	HDL-C	40mg/dL未満
		LDL-C	120mg/dL以上
空腹時血糖	100mg/dL以上	ALT	31U/L以上
HbA1c	5.6%以上	尿酸	7.0mg/dL超過
収縮期血圧	130mmHg以上	血清クレアチニン	1.3mg/dL以上
拡張期血圧	85mmHg以上	eGFR	60ml/分/1.73m ² 未満

【出典】各帳票等の項目にかかる集計要件

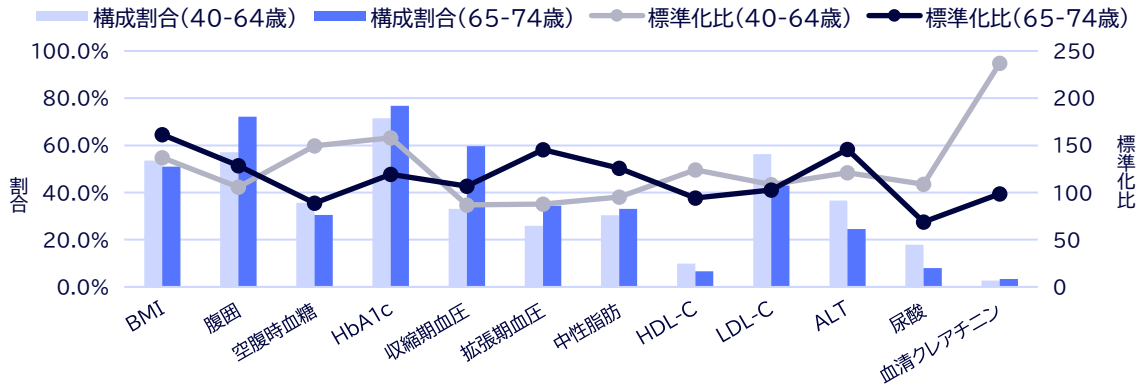
ポイント

- ・特定健診受診者は、国や道と比較して「BMI」「腹囲」「HbA1c」「拡張期血圧」「中性脂肪」「HDL-C」「ALT」「尿酸」「血清クレアチニン」「eGFR」の有所見率が高い。

② 有所見者の性別年代別割合の状況と標準化比

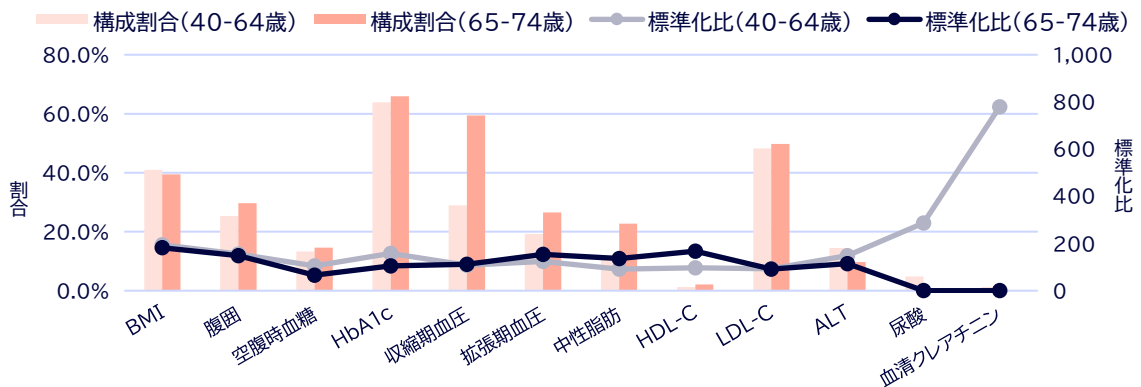
さらに、年代別の有所見者の割合について、年齢調整を行い、国を100とした標準化比で比較すると、男性では「BMI」「腹囲」「HbA1c」「LDL-C」「ALT」の標準化比がいずれの年代においても100を超えている。女性では「BMI」「腹囲」「HbA1c」「収縮期血圧」「拡張期血圧」「ALT」の標準化比がいずれの年代においても100を超えている。

図表3-6-3-2：特定健診受診者における年代別有所見者の割合・標準化比_男性



		BMI	腹囲	空腹時血糖	HbA1c	収縮期血圧	拡張期血圧	中性脂肪	HDL-C	LDL-C	ALT	尿酸	血清クレアチニン
40-64歳	構成割合	53.6%	57.1%	35.7%	71.4%	33.0%	25.9%	30.4%	9.8%	56.3%	36.6%	17.9%	2.7%
	標準化比	136.8	105.6	149.4	157.9	86.9	87.8	95.3	123.9	108.5	120.9	108.9	237.0
65-74歳	構成割合	51.0%	72.2%	30.5%	76.8%	59.6%	34.4%	33.1%	6.6%	43.0%	24.5%	7.9%	3.3%
	標準化比	161.4	128.4	88.7	119.3	106.9	145.6	125.9	94.3	102.6	145.7	68.8	98.8

図表3-6-3-3：特定健診受診者における年代別有所見者の割合・標準化比_女性



		BMI	腹囲	空腹時血糖	HbA1c	収縮期血圧	拡張期血圧	中性脂肪	HDL-C	LDL-C	ALT	尿酸	血清クレアチニン
40-64歳	構成割合	41.0%	25.3%	13.3%	63.9%	28.9%	19.3%	12.0%	1.2%	48.2%	14.5%	4.8%	1.2%
	標準化比	194.7	155.6	104.9	157.8	107.5	124.6	91.4	97.4	92.8	147.8	287.0	780.0
65-74歳	構成割合	39.5%	29.7%	14.6%	65.9%	59.5%	26.5%	22.7%	2.2%	49.7%	9.7%	0.0%	0.0%
	標準化比	181.9	148.4	65.5	104.7	112.2	154.3	135.9	166.9	92.2	114.9	0.0	0.0

【出典】KDB帳票 S21_024-厚生労働省様式（様式5-2）令和4年度 年次

ポイント

- ・ 有所見者の性別年代別割合の国との標準化比は、男性では「BMI」「腹囲」「HbA1c」「LDL-C」「ALT」の標準化比がいずれの年代においても100を超えている。女性では「BMI」「腹囲」「HbA1c」「収縮期血圧」「拡張期血圧」「ALT」の標準化比がいずれの年代においても100を超えている。

(4) メタボリックシンドローム

メタボリックシンドロームとは、「内臓肥満に高血糖・高血圧・脂質代謝異常が組み合わさることにより、心臓病や脳卒中などになりやすい病態」（厚生労働省 生活習慣病予防のための健康情報サイトより引用）を指している。

メタボリックシンドロームは生活習慣病の前段階と呼ぶべき状態であり、生活習慣を変え、内臓脂肪を減らすことで危険因子を改善し、生活習慣病の発症を予防する必要がある。

本別町は有所見者のうち、メタボリックシンドロームに該当する者、またその予備群の者に対し、保健指導等の事業を通じて生活習慣病を発症することで定期的な通院が必要とならないように支援を行っている。

メタボリックシンドローム＝内臓肥満＋複数の生活習慣病リスクを有する状態



【出典】厚生労働省 メタボリックシンドロームの診断基準より作成

① メタボ該当者数とメタボ予備群該当者数

令和4年度の特定健診受診者におけるメタボ該当者は167人である。特定健診受診者における割合は31.5%で、国・道より高い。男女別にみると、男性では43.7%、女性では19.4%がメタボ該当者となっている。

メタボ予備群該当者は62人で特定健診受診者における該当者割合は11.7%となっており、該当者割合は国・道より高い。男女別にみると、男性では16.3%、女性では7.1%がメタボ予備群該当者となっている。

図表3-6-4-1：特定健診受診者におけるメタボ該当者数・メタボ予備群該当者数

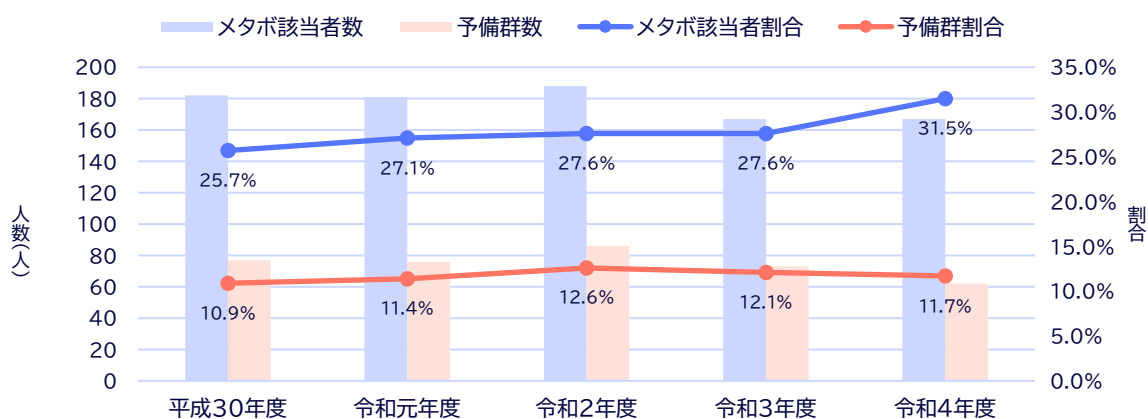
	本別町		国	道	同規模
	対象者数(人)	割合	割合	割合	割合
メタボ該当者	167	31.5%	20.6%	20.3%	21.7%
男性	115	43.7%	32.9%	33.0%	32.3%
女性	52	19.4%	11.3%	11.1%	12.2%
メタボ予備群該当者	62	11.7%	11.1%	11.0%	11.6%
男性	43	16.3%	17.8%	18.0%	17.3%
女性	19	7.1%	6.0%	5.9%	6.5%

【出典】KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 令和4年度 累計

② メタボ該当者数とメタボ予備群該当者数の経年推移

令和4年度と平成30年度を比較すると、特定健診受診者におけるメタボ該当者の割合は5.8ポイント増加しており、メタボ予備群該当者の割合は0.8ポイント増加している。

図表3-6-4-2：メタボ該当者数・メタボ予備群該当者数の推移



	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平成30年度と令和4年度の割合の差
	対象者(人)	割合	対象者(人)	割合	対象者(人)	割合	対象者(人)	割合	対象者(人)	割合	
メタボ該当者	182	25.7%	181	27.1%	188	27.6%	167	27.6%	167	31.5%	5.8
メタボ予備群該当者	77	10.9%	76	11.4%	86	12.6%	73	12.1%	62	11.7%	0.8

【出典】KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 平成30年度から令和4年度 累計

ポイント

- ・生活習慣病の前段階ともいえるメタボ該当者の割合は国・道より高い。
- ・平成30年度と比べて、メタボ該当者の割合は増加しており、メタボ予備群該当者の割合は増加している。

③ メタボ該当者・予備群該当者におけるリスクの保有状況

メタボ該当者のリスク保有状況で最も多い組み合わせは「高血糖・高血圧・脂質異常該当者」であり、71人が該当している。

メタボ該当者は「内臓肥満に加えて生活習慣病の発症リスクを複数抱えている状態」であり、保有しているリスクの数が多いほど、生活習慣病の発症や、将来の重症化リスクが上昇する。

令和4年度の健診受診者で、重症化リスクの高い3項目（高血糖・高血圧・脂質異常）該当者は71人いる。

図表3-6-4-3：メタボ該当者・メタボ予備群該当者におけるリスクの保有状況

	男性		女性		合計	
	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合
特定健診受診者数	263	-	268	-	531	-
腹囲基準値以上	173	65.8%	76	28.4%	249	46.9%
メタボ該当者	115	43.7%	52	19.4%	167	31.5%
高血糖・高血圧該当者	22	8.4%	4	1.5%	26	4.9%
高血糖・脂質異常該当者	7	2.7%	4	1.5%	11	2.1%
高血圧・脂質異常該当者	39	14.8%	20	7.5%	59	11.1%
高血糖・高血圧・脂質異常該当者	47	17.9%	24	9.0%	71	13.4%
メタボ予備群該当者	43	16.3%	19	7.1%	62	11.7%
高血糖該当者	1	0.4%	0	0.0%	1	0.2%
高血圧該当者	26	9.9%	13	4.9%	39	7.3%
脂質異常該当者	16	6.1%	6	2.2%	22	4.1%
腹囲のみ該当者	15	5.7%	5	1.9%	20	3.8%

【出典】KDB帳票 S21_025-厚生労働省様式（様式5-3） 令和4年度 年次

ポイント

- 生活習慣病の発症や重症化リスクが高い、「高血糖・高血圧・脂質異常該当者」の3リスク該当者は71人いる。

(5) 特定保健指導実施率

特定保健指導とは、「特定健康診査の結果に基づき、主にメタボリックシンドロームの予防や解消を目的に行われる健康支援」（厚生労働省 生活習慣病予防のための健康情報サイトより引用）である。

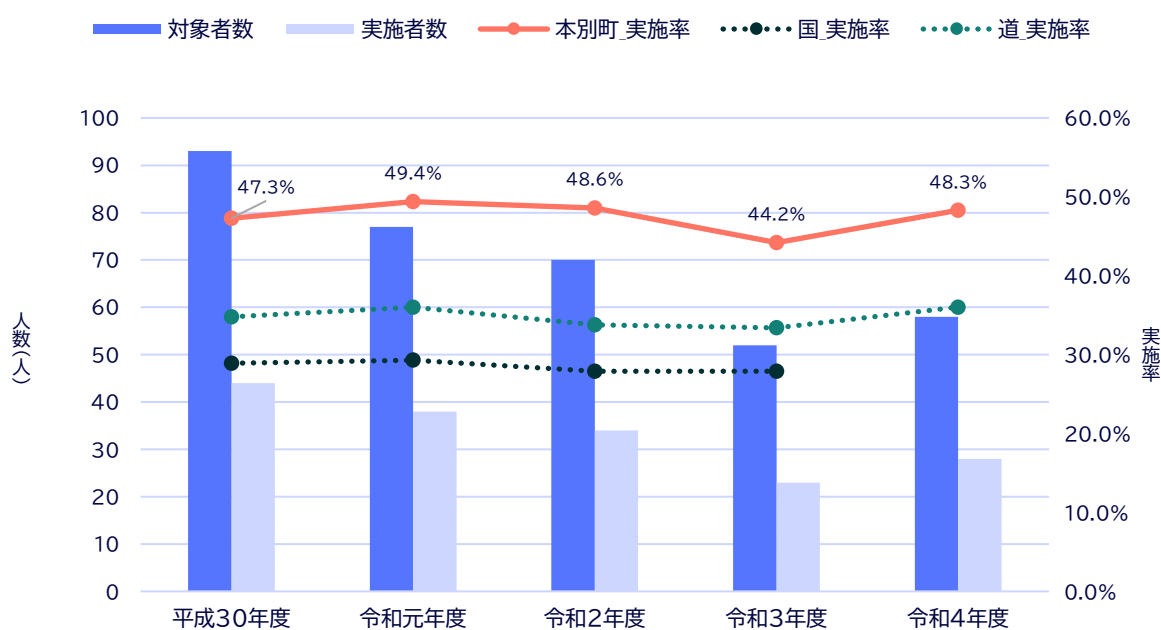
特定保健指導実施率をみることで、前述のメタボ該当者とメタボ予備群該当者のうち、どの程度の特定保健指導の対象者に対して支援できているのかが分かる。

令和4年度の特定保健指導の対象者は58人で、特定健診受診者の11.0%を占める。

特定保健指導対象者のうち特定保健指導を終了した人の割合（特定保健指導実施率）は48.3%である。

令和4年度の実施率は、平成30年度の実施率と比較すると1.0ポイント上昇している。

図表3-6-5-1：特定保健指導実施率（法定報告値）



		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	平成30年度と令和4年度の差
特定健診受診者数 (人)		707	667	678	603	529	-178
特定保健指導対象者数 (人)		93	77	70	52	58	-35
特定保健指導該当者割合		13.2%	11.5%	10.3%	8.6%	11.0%	-2.2
特定保健指導実施者数 (人)		44	38	34	23	28	-16
特定保健指導実施率	本別町	47.3%	49.4%	48.6%	44.2%	48.3%	1.0
	国	28.9%	29.3%	27.9%	27.9%	-	-
	道	34.8%	36.0%	33.8%	33.4%	36.0%	1.2

【出典】厚生労働省 2018年度から2022年度 特定健診・特定保健指導実施状況（保険者別）

ポイント

- ・主にメタボリックシンドローム該当者が対象となる特定保健指導の実施率は、令和4年度で道と比較して高い。また、平成30年度と比べて1.0ポイント上昇している。

(6) 受診勧奨対象者

受診勧奨対象者とは、有所見者のうち、検査値が厚生労働省の定める基準（参考表）を超える者であり、検査値が特に悪いため、医療機関の受診を促すべきであるとされている。

受診勧奨対象者は生活習慣病の発症が疑われるため、早急に医療機関を受診し、医師の判断のもと治療の開始を検討する必要がある。

参考：主な健診項目における受診勧奨判定値

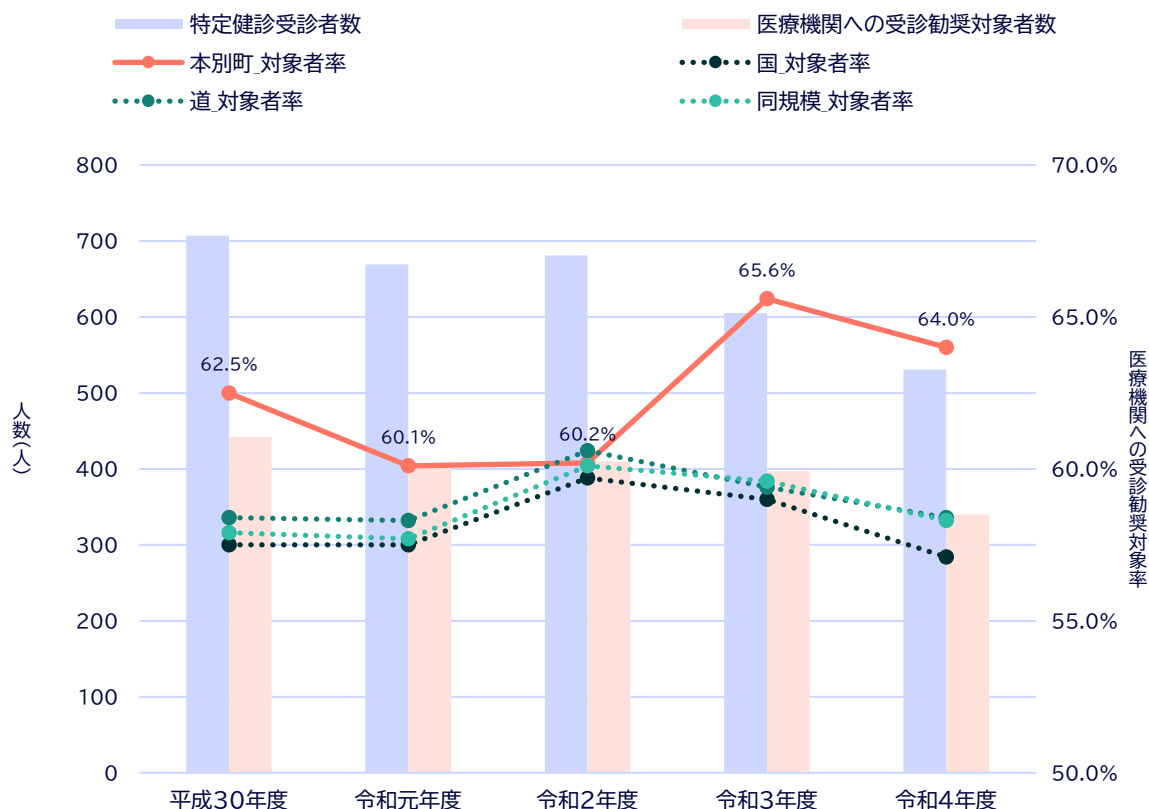
関連する生活習慣病	糖尿病	高血圧症	脂質異常症
項目名 (単位)	HbA1c (%)	血圧 (mmHG)	LDLコレステロール(mg/dl)
正常	- 5.5	収縮期：-129 拡張期：-84	- 119
保健指導判定値	5.6 - 6.4	収縮期：130 - 139 拡張期：85 - 89	120 - 139
受診勧奨判定値	6.5 - 6.9	I度高血圧 収縮期：140 - 159 拡張期：90 - 99	140 - 159
	7.0 - 7.9	II度高血圧 収縮期：160 - 179 拡張期：100 - 109	160 - 179
	8.0 -	III度高血圧 収縮期：180 - 拡張期：110 -	180 -

※厚生労働省「標準的な健診・保健指導プログラム」に準拠

① 受診勧奨対象者割合の経年推移及び国・北海道・同規模との比較

特定健診受診者における受診勧奨対象者（一項目以上の該当あり）の割合をみると、令和4年度は340人で、特定健診受診者の64.0%を占めている。受診勧奨対象者の割合は、国・道より高く、平成30年度と比較すると1.5ポイント増加している。

図表3-6-6-1：特定健診受診者における医療機関への受診勧奨対象者の割合



		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	平成30年度と令和4年度の受診勧奨対象者率の差
特定健診受診者数 (人)		707	669	681	605	531	-
医療機関への受診勧奨対象者数 (人)		442	402	410	397	340	-
受診勧奨対象者率	本別町	62.5%	60.1%	60.2%	65.6%	64.0%	1.5
	国	57.5%	57.5%	59.7%	59.0%	57.1%	-0.4
	道	58.4%	58.3%	60.6%	59.4%	58.4%	0.0
	同規模	57.9%	57.7%	60.1%	59.6%	58.3%	0.4

【出典】 KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 平成30年度から令和4年度 累計

ポイント

- ・令和4年度の特定健診において生活習慣病の発症が疑われる者（受診勧奨判定者）の割合は、国・道より高く、平成30年度と比べて1.5ポイント増加している。

② 受診勧奨対象者の項目別経年推移

受診勧奨対象者の中でも、血糖でHbA1c7.0%以上、血圧でⅡ度高血圧以上、血中脂質でLDLコレステロール160mg/dL以上の人は、特に生活習慣病の発症・重症化リスクが高い。

令和4年度の受診勧奨対象者において、
HbA1c7.0%以上の人は47人で、特定健診受診者の8.9%を占めており、平成30年度と比較すると割合は増加している。

Ⅱ度高血圧以上の人は34人で特定健診受診者の6.4%を占めており、平成30年度と比較すると割合は増加している。

LDLコレステロール160mg/dL以上の人は33人で特定健診受診者の6.2%を占めており、平成30年度と比較すると割合は減少している。

図表3-6-6-2：特定健診受診者における受診勧奨対象者（血糖・血圧・脂質）の経年推移

	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		
	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合	
特定健診受診者数	707	-	669	-	681	-	605	-	531	-	
血糖 (HbA1c)	6.5以上7.0%未満	53	7.5%	50	7.5%	50	7.3%	43	7.1%	41	7.7%
	7.0以上8.0%未満	29	4.1%	38	5.7%	39	5.7%	46	7.6%	32	6.0%
	8.0%以上	17	2.4%	12	1.8%	14	2.1%	14	2.3%	15	2.8%
	合計	99	14.0%	100	14.9%	103	15.1%	103	17.0%	88	16.6%

	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		
	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合	
特定健診受診者数	707	-	669	-	681	-	605	-	531	-	
血圧	I度高血圧	132	18.7%	136	20.3%	160	23.5%	147	24.3%	131	24.7%
	Ⅱ度高血圧	33	4.7%	24	3.6%	37	5.4%	43	7.1%	28	5.3%
	Ⅲ度高血圧	7	1.0%	2	0.3%	8	1.2%	6	1.0%	6	1.1%
	合計	172	24.3%	162	24.2%	205	30.1%	196	32.4%	165	31.1%

	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		
	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合	
特定健診受診者数	707	-	669	-	681	-	605	-	531	-	
脂質 (LDL-C)	140以上160mg/dL未満	120	17.0%	113	16.9%	97	14.2%	101	16.7%	93	17.5%
	160以上180mg/dL未満	54	7.6%	46	6.9%	39	5.7%	36	6.0%	23	4.3%
	180mg/dL以上	22	3.1%	25	3.7%	18	2.6%	14	2.3%	10	1.9%
	合計	196	27.7%	184	27.5%	154	22.6%	151	25.0%	126	23.7%

【出典】KDB帳票 S21_008-健診の状況 平成30年度から令和4年度 累計
KDB帳票 S26_005-保健指導対象者一覧（受診勧奨判定値の者） 平成30年度から令和4年度 累計

ポイント

- ・令和4年度の受診勧奨対象者のうち、重症化リスクが高い検査値の人は、HbA1c7.0%以上の人が47人、Ⅱ度高血圧以上の人が34人、LDLコレステロール160mg/dL以上の人が33人である。

(7) 生活習慣病の発症・重症化リスクが高い受診勧奨対象者の治療状況

受診勧奨対象者のうち、検査値が高く生活習慣病の発症・重症化リスクが高い者は、服薬による治療が必要な可能性があり、治療が確認されない者は医療機関の受診を促す必要がある。

令和4年度の健診において、

血糖がHbA1c7.0%以上であった47人のうち、6人が治療を行っていない。

血圧がⅡ度高血圧以上であった34人のうち、14人が治療を行っていない。

血中脂質がLDLコレステロール160mg/dL以上であった33人のうち、27人が治療を行っていない。

また、腎機能については、eGFR45ml/分/1.73m²未満であった11人のうち、1人が糖尿病や高血圧症、脂質異常症の服薬治療をしていない。

図表3-6-7-1：特定健診受診者における受診勧奨対象者（血糖・血圧・脂質・腎機能）の服薬状況

血糖 (HbA1c)	該当者数 (人)	服薬なし_人数 (人)	服薬なし_割合
6.5以上7.0%未満	41	11	26.8%
7.0以上8.0%未満	32	4	12.5%
8.0%以上	15	2	13.3%
合計	88	17	19.3%

血圧	該当者数 (人)	服薬なし_人数 (人)	服薬なし_割合
I度高血圧	131	55	42.0%
Ⅱ度高血圧	28	12	42.9%
Ⅲ度高血圧	6	2	33.3%
合計	165	69	41.8%

脂質 (LDL-C)	該当者数 (人)	服薬なし_人数 (人)	服薬なし_割合
140以上160mg/dL未満	93	76	81.7%
160以上180mg/dL未満	23	18	78.3%
180mg/dL以上	10	9	90.0%
合計	126	103	81.7%

腎機能 (eGFR)	該当者数 (人)	服薬なし_人数 (人)	服薬なし_割合
30以上45ml/分/1.73m ² 未満	9	0	0.0%
15以上30ml/分/1.73m ² 未満	2	1	50.0%
15ml/分/1.73m ² 未満	0	0	0.0%
合計	11	1	9.1%

【出典】KDB帳票 S26_005-保健指導対象者一覧（受診勧奨判定値の者） 令和4年度 累計

ポイント

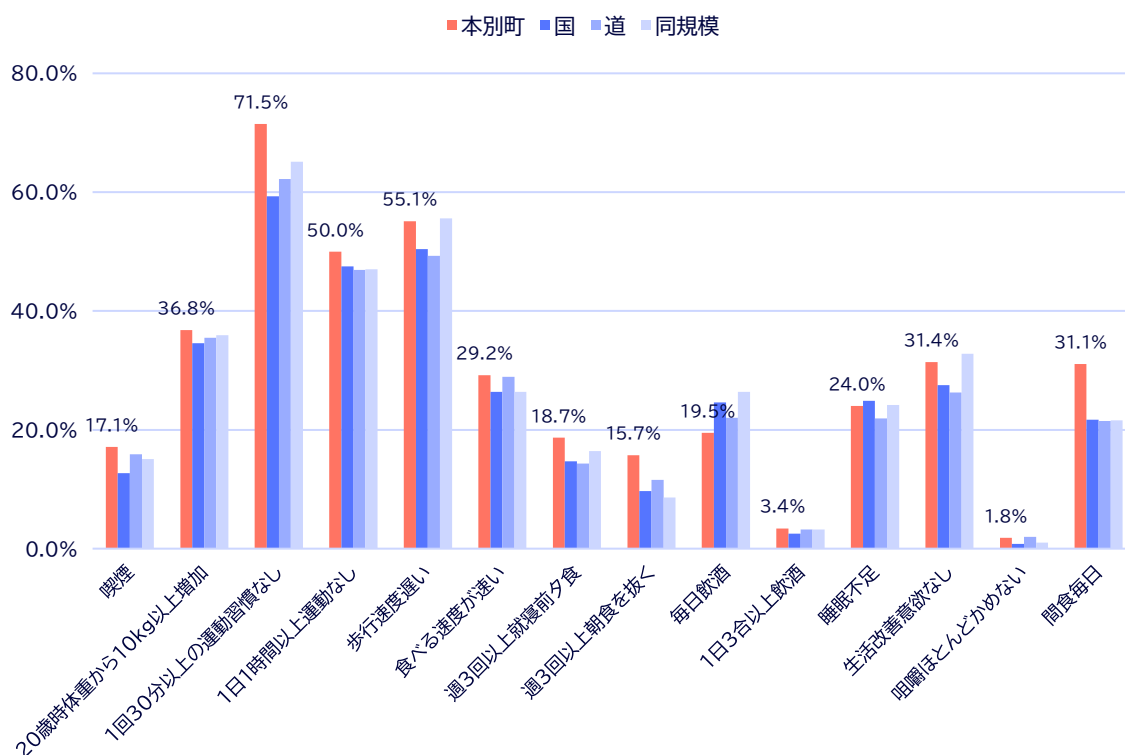
- ・すでに生活習慣病を発症していると疑われ重症化のリスクが高い状態であるにも関わらず、医療機関の受診が確認できない受診勧奨対象者が一定数いる。

(8) 質問票の回答

特定健診での質問票の回答状況から、本別町の特定健診受診者における喫煙や運動習慣、食事、睡眠などの生活習慣の傾向が把握できる。

令和4年度の特定健診受診者の質問票から生活習慣の状況を見ると、国や道と比較して「喫煙」「20歳時体重から10kg以上増加」「1回30分以上の運動習慣なし」「1日1時間以上運動なし」「歩行速度遅い」「食べる速度が速い」「週3回以上就寝前夕食」「週3回以上朝食を抜く」「3合以上」「生活改善意欲なし」「間食毎日」の回答割合が高い。

図表3-6-8-1：特定健診受診者における質問票項目別回答者の割合



	喫煙	20歳時体重から10kg以上増加	1回30分以上の運動習慣なし	1日1時間以上運動なし	歩行速度遅い	食べる速度が速い	週3回以上就寝前夕食	週3回以上朝食を抜く	毎日飲酒	1日3合以上飲酒	睡眠不足	生活改善意欲なし	咀嚼ほとんどかめない	間食毎日
本別町	17.1%	36.8%	71.5%	50.0%	55.1%	29.2%	18.7%	15.7%	19.5%	3.4%	24.0%	31.4%	1.8%	31.1%
国	12.7%	34.6%	59.3%	47.5%	50.4%	26.4%	14.7%	9.7%	24.6%	2.5%	24.9%	27.5%	0.8%	21.7%
道	15.9%	35.5%	62.2%	46.9%	49.3%	28.9%	14.3%	11.6%	22.0%	3.2%	21.9%	26.3%	2.0%	21.5%
同規模	15.1%	35.9%	65.1%	47.0%	55.6%	26.4%	16.4%	8.6%	26.4%	3.2%	24.2%	32.8%	1.0%	21.6%

【出典】KDB帳票 S25_001-質問票調査の経年比較 令和4年度 年次

ポイント

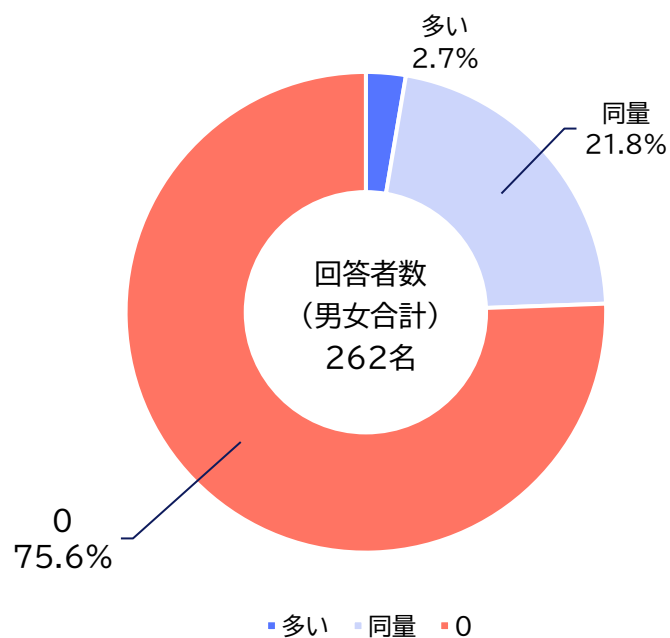
- ・特定健診受診者の生活習慣の状況は、国や道と比較して「喫煙」「20歳時体重から10kg以上増加」「1回30分以上の運動習慣なし」「1日1時間以上運動なし」「歩行速度遅い」「食べる速度が速い」「週3回以上就寝前夕食」「週3回以上朝食を抜く」「3合以上」「生活改善意欲なし」「間食毎日」の回答割合が高い。

(9) 本別町の野菜摂取量アンケート結果

野菜摂取量と生活習慣病は関連が大きいことから、野菜摂取量の把握のため、令和5年度特定健診・がん検診受診者を対象としてアンケートを実施。1日の野菜摂取目標量350gの目安量と比較して「少ない」の回答が75.6%と多い。

野菜摂取量が目標量に達している人を増やすため、野菜摂取量の見える化などの取り組みを行う。

図表3-6-9-1：本別町の野菜摂取量アンケート結果



【出典】 令和5年度特定健診・がん検診受診者へのアンケート

7 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施に係る状況

本節では、「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」に係る、後期高齢者医療制度や介護保険のデータを分析する。

「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」とは、人生100年時代に備え、平均自立期間（健康寿命）を延伸するために高齢者の疾病予防と健康づくりに焦点を置いた取り組みである。

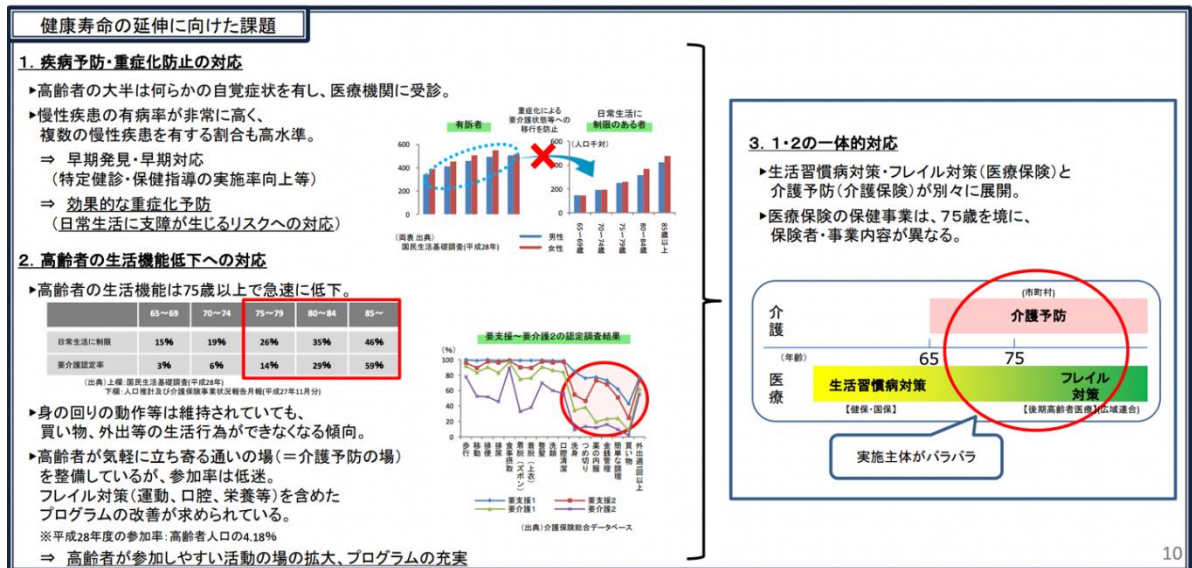
現在、高齢者の平均自立期間短縮に影響している要因として、

- ①生活習慣病の重症化
- ②口腔機能・運動機能・栄養状態が低下することによる虚弱（フレイル）
- ③社会参加の機会の減少

などがあり、それぞれの要因に対して、①生活習慣病対策、②フレイル対策、③介護予防の取り組みがなされている。

一方で、①から③の取り組みは、これまで実施主体に統一性がなく、保険者が変更になる度に支援が途切れがちになることが問題であった。したがって、今後はより一層、①から③の取り組みを切れ目なく実施（一体的に実施）していくことが求められている。

本計画においては、国保加入者の状況だけでなく後期高齢者の状況や要介護（要支援）認定者の状況を把握し①から③に関する取り組みが切れ目なく実施されるよう、国保世代から将来を見据えて取り組むことのできる課題の整理を行う。



【出典】厚生労働省 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について

(1) 後期高齢者医療制度の被保険者構成

国民健康保険（以下「国保」という。）の加入者数は1,783人、国保加入率は28.7%で、国・道より高い。後期高齢者医療制度（以下「後期高齢者」という。）の加入者数は1,522人、後期高齢者加入率は24.5%で、国・道より高い。

図表3-7-1-1：制度別の被保険者構成

	国保			後期高齢者		
	本別町	国	道	本別町	国	道
総人口（人）	6,208	-	-	6,208	-	-
加入者数（人）	1,783	-	-	1,522	-	-
加入率	28.7%	19.7%	20.0%	24.5%	15.4%	17.1%

【出典】住民基本台帳 令和4年度

KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 令和4年度 累計（国保・後期）

(2) 年代別の要介護（要支援）認定者の有病状況

後期高齢者においては、生活習慣病重症化やフレイルによる介護を防ぐという観点で「心臓病」「脳血管疾患」や「筋・骨格関連疾患」が特に重要な疾患である。

前期高齢者（65-74歳）の認定者の主な疾患の有病割合の国との差は「心臓病」（10.1ポイント）、「脳血管疾患」（6.1ポイント）、「筋・骨格関連疾患」（7.6ポイント）である。

75歳以上の認定者の国との差は「心臓病」（-4.2ポイント）、「脳血管疾患」（-1.4ポイント）、「筋・骨格関連疾患」（-1.2ポイント）である。

図表3-7-2-1：年代別の要介護（要支援）認定者の有病状況

疾病名	65-74歳			75歳以上		
	本別町	国	国との差	本別町	国	国との差
糖尿病	28.5%	21.6%	6.9	23.4%	24.9%	-1.5
高血圧症	45.9%	35.3%	10.6	53.3%	56.3%	-3.0
脂質異常症	27.3%	24.2%	3.1	29.6%	34.1%	-4.5
心臓病	50.2%	40.1%	10.1	59.4%	63.6%	-4.2
脳血管疾患	25.8%	19.7%	6.1	21.7%	23.1%	-1.4
筋・骨格関連疾患	43.5%	35.9%	7.6	55.2%	56.4%	-1.2
精神疾患	38.4%	25.5%	12.9	42.1%	38.7%	3.4

【出典】KDB帳票 S25_006-医療・介護の突合（有病状況） 令和4年度 年次

ポイント

- ・75歳以上の認定者の介護に関連する疾患の有病割合の国との差は「心臓病」（-4.2ポイント）、「脳血管疾患」（-1.4ポイント）、「筋・骨格関連疾患」（-1.2ポイント）である。

(3) 後期高齢者医療制度の医療費

① 一人当たり医療費と入院医療費の割合

国保の一人当たり医療費のうち、入院は国と比べて1,040円多く、外来は1,170円少ない。後期高齢者の一人当たり医療費のうち、入院は国と比べて2,400円多く、外来は3,160円少ない。

また、医療費に占める入院医療費の割合は、国保では3.8ポイント高く、後期高齢者では4.0ポイント高い。

図表3-7-3-1：一人当たり医療費の状況

	国保			後期高齢者		
	本別町	国	国との差	本別町	国	国との差
入院_一人当たり医療費（円）	12,690	11,650	1,040	39,220	36,820	2,400
外来_一人当たり医療費（円）	16,230	17,400	-1,170	31,180	34,340	-3,160
総医療費に占める入院医療費の割合	43.9%	40.1%	3.8	55.7%	51.7%	4.0

【出典】KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 令和4年度 累計（国保・後期）

② 医療費の疾病別構成割合

国保では「がん」の医療費が占める割合が最も高く、医療費の18.8%を占めており、国と比べて2.0ポイント高い。後期高齢者では「筋・骨格関連疾患」の医療費が占める割合が最も高く、医療費の14.8%を占めており、国と比べて2.4ポイント高い。

重篤な生活習慣病の医療費に絞って疾病別構成割合をみると、後期の「脳梗塞」「慢性腎臓病（透析あり）」の医療費構成割合は、いずれも国保の同疾患と比べて大きい。

図表3-7-3-2：制度別の医療費疾病別構成割合

疾病名	国保			後期高齢者		
	本別町	国	国との差	本別町	国	国との差
糖尿病	8.7%	5.4%	3.3	4.9%	4.1%	0.8
高血圧症	3.4%	3.1%	0.3	3.3%	3.0%	0.3
脂質異常症	1.8%	2.1%	-0.3	1.1%	1.4%	-0.3
高尿酸血症	0.1%	0.0%	0.1	0.2%	0.0%	0.2
脂肪肝	0.1%	0.1%	0.0	0.0%	0.0%	0.0
動脈硬化症	0.1%	0.1%	0.0	0.2%	0.2%	0.0
がん	18.8%	16.8%	2.0	9.5%	11.2%	-1.7
脳出血	1.2%	0.7%	0.5	1.2%	0.7%	0.5
脳梗塞	0.8%	1.4%	-0.6	3.9%	3.2%	0.7
狭心症	1.1%	1.1%	0.0	1.0%	1.3%	-0.3
心筋梗塞	1.3%	0.3%	1.0	0.3%	0.3%	0.0
慢性腎臓病（透析あり）	0.4%	4.4%	-4.0	3.3%	4.6%	-1.3
慢性腎臓病（透析なし）	0.4%	0.3%	0.1	0.1%	0.5%	-0.4
精神疾患	2.5%	7.9%	-5.4	2.6%	3.6%	-1.0
筋・骨格関連疾患	15.2%	8.7%	6.5	14.8%	12.4%	2.4

※ここではKDBが定める生活習慣病分類に加えて「慢性腎臓病（透析あり）」「慢性腎臓病（透析なし）」を合わせた医療費を集計している

【出典】KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 令和4年度 累計（国保・後期）

ポイント

- ・後期高齢者では「筋・骨格関連疾患」の医療費が占める割合が最も高く、国と比べて2.4ポイント高い。

(4) 後期高齢者健診

高齢者（65歳以上）への健診・保健指導は、メタボリックシンドローム対策に重点を置いた生活習慣病対策から、体重や筋肉量の減少、低栄養といったフレイル等の予防・改善に着目した対策に徐々に転換することも必要とされている。

したがって、後期高齢者の健診結果では、生活習慣病等の重症化予防の対象者の状況に加え、心身機能の低下に関する質問票の状況を把握し、国保世代から取り組むことができる課題を整理する。

① 後期高齢者における有所見割合

後期高齢者の健診受診率は9.7%で、国と比べて15.1ポイント低い。

有所見者の割合を国と比べると、後期高齢者では「血糖」「脂質」「血糖・血圧」「血糖・脂質」「血圧・脂質」の該当割合が高い。

図表3-7-4-1：後期高齢者の健診受診状況

		後期高齢者		
		本別町	国	国との差
健診受診率		9.7%	24.8%	-15.1
受診勧奨対象者率		64.5%	60.9%	3.6
有所見者の状況	血糖	6.6%	5.7%	0.9
	血圧	19.1%	24.3%	-5.2
	脂質	13.2%	10.8%	2.4
	血糖・血圧	5.9%	3.1%	2.8
	血糖・脂質	1.3%	1.3%	0.0
	血圧・脂質	7.2%	6.9%	0.3
	血糖・血圧・脂質	0.7%	0.8%	-0.1

【出典】KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 令和4年度 累計（後期）

参考：健診項目における受診勧奨判定値

空腹時血糖	126mg/dL以上	中性脂肪	300mg/dL以上
HbA1c	6.5%以上	HDLコレステロール	34mg/dL以下
収縮期血圧	140mmHg以上	LDLコレステロール	140mg/dL以上
拡張期血圧	90mmHg以上		

【出典】KDBシステム 各帳票等の項目にかかる集計要件

② 後期高齢者における質問票の回答

後期高齢者における質問票の回答状況は、国と比べて、「6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少が「あった」」「この1年間に「転倒したことがある」」「ウォーキング等の運動を「週に1回以上していない」」「たばこを「吸っている」」「週に1回以上外出して「いない」」「体調が悪いときに、身近に相談できる人が「いない」」の回答割合が高い。

図表3-7-4-2：後期高齢者における質問票の回答状況

カテゴリー	項目・回答	回答割合		
		本別町	国	国との差
健康状態	健康状態が「よくない」	0.7%	1.1%	-0.4
心の健康	毎日の生活に「不満」	0.7%	1.1%	-0.4
食習慣	1日3食「食べていない」	4.7%	5.4%	-0.7
口腔・嚥下	半年前に比べて硬いものが「食べにくくなった」	21.5%	27.7%	-6.2
	お茶や汁物等で「むせることがある」	20.8%	20.9%	-0.1
体重変化	6か月間で2～3kg以上の体重減少が「あった」	14.1%	11.7%	2.4
運動・転倒	以前に比べて「歩行速度が遅くなったと思う」	52.0%	59.1%	-7.1
	この1年間に「転倒したことがある」	24.8%	18.1%	6.7
	ウォーキング等の運動を「週に1回以上していない」	39.6%	37.1%	2.5
認知	周囲の人から「物忘れがあるとされたことがある」	10.1%	16.2%	-6.1
	今日が何月何日かわからない日がある	12.2%	24.8%	-12.6
喫煙	たばこを「吸っている」	6.0%	4.8%	1.2
社会参加	週に1回以上外出して「いない」	12.8%	9.4%	3.4
	ふだんから家族や友人との付き合いが「ない」	3.4%	5.6%	-2.2
ソーシャルサポート	体調が悪いときに、身近に相談できる人が「いない」	5.4%	4.9%	0.5

【出典】KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 令和4年度 累計（後期）

(5) 地域包括ケアに係る取組及びその他の留意事項

市町村国保では、介護保険サービスを利用する被保険者が相対的に多いという特性があることから、本計画では、国保及び後期高齢者の課題について一体的実施の観点を踏まえながら分析を行い、対象者に対する保健事業の実施や計画の評価を行う。また、関係機関と連携を実施しながら、被保険者を支えるための地域づくりや人材育成を推進する。

8 健康課題の整理

(1) 現状のまとめ

第2章から第3章までで分析した、本別町で暮らす人の健康に関する現状について下記のようにまとめた。

【人口構成・平均余命】

- ・国や道と比較すると、高齢化率は高い。
- ・平均自立期間（健康寿命）は、男性では国・道より短い。女性では国と同程度で、道より長い。

【死亡・介護】

- ・平均余命に影響している死亡の要因のうち、予防可能な主な疾患の標準化比は、「虚血性心疾患」が81.0、「脳血管疾患」が82.5、「腎不全」が80.6となっている。
- ・平均自立期間に影響している介護の状況において、要介護（要支援）認定者は、「心臓病」を58.0%、「脳血管疾患」を22.1%保有している。

【医療】

- ・令和4年度の一人当たり医療費は28,920円で、国や道と比較すると国・道より低い。
- ・医療費が月80万円以上の高額になる疾病には、予防可能な重篤な生活習慣病である「虚血性心疾患」が上位に入っている。
- ・生活習慣病医療費を国・道と比較すると、国・道より低い。
- ・人工透析の患者数は平成30年度と比べて減少している。
- ・重症化した生活習慣病に至った人は、「高血圧症」「糖尿病」「脂質異常症」といった基礎疾患を保有していることが多い。

【健診】

- ・生活習慣病は自覚症状が乏しく早期発見のために特定健診は重要であるが、その受診率は令和4年度は44.6%となっており、「健診なし受診なし」の者は231人（19.4%）いる。
- ・特定健診受診者は、国や道と比較して「BMI」「腹囲」「HbA1c」「拡張期血圧」「中性脂肪」「HDL-C」「ALT」「尿酸」「血清クレアチニン」「eGFR」の有所見率が高い。
- ・特定健診受診者において、肥満に加えて複数の有所見項目に該当したメタボ該当者は31.5%で、平成30年度と比べて増加しており、メタボ予備群該当者の割合は増加している。
- ・メタボ該当者が主対象の特定保健指導の終了率は48.3%で、平成30年度と比べて1.0ポイント上昇している。
- ・令和4年度の受診勧奨対象者の割合は64.0%で、平成30年度と比べて1.5ポイント増加している。
- ・受診勧奨対象者のうち、重症化リスクが高い検査値の者は、HbA1c7.0%以上が47人、Ⅱ度高血圧以上が34人、LDLコレステロール160mg/dL以上が33人であり、このうち、すでに生活習慣病を発症していると疑われ重症化のリスクが高い状態であるにも関わらず、治療が確認できない受診勧奨対象者も一定数いる。
- ・特定健診受診者の質問票の回答状況は、国や道と比較して「喫煙」「20歳時体重から10kg以上増加」「1回30分以上の運動習慣なし」「1日1時間以上運動なし」「歩行速度遅い」「食べる速度が速い」「週3回以上就寝前夕食」「週3回以上朝食を抜く」「3合以上」「生活改善意欲なし」「間食毎日」の回答割合が高い。

【後期高齢者及びその他の状況】

- ・国保と後期では入院医療費の占める割合が高くなり、特に後期では「筋・骨格関連疾患」の医療費が占める割合が最も高くなっている。
- ・重複処方該当者数は10人、多剤処方該当者数は2人である。
- ・令和4年9月時点の後発医薬品の使用割合は85.0%である。

(2) 生活習慣病に関する健康課題の整理

本別町に暮らす人が健康で長生きするためには、課題となる疾病とその段階を明確化し、保健指導等の事業を通じて、疾病の段階が進まないように取り組むことが重要である。

そのために、上記のまとめを踏まえ、各段階における健康課題と評価指標を以下のとおり整理した。

健康課題・考察	目標
<p>◀重症化予防（がん以外） 【課題】</p> <p>#「心疾患」「慢性閉塞性肺疾患」のSMRが高い #「慢性閉塞性肺疾患」「糖尿病」による死因の割合が高い #介護有病状況では「糖尿病」「高血圧症」「脂質異常症」「脳疾患」「筋・骨格」を有している者の割合が高い #要介護認定者の半数以上が「高血圧症」「筋・骨格」を有している #「心筋梗塞」「脳出血」「狭心症」と生活習慣病重症化疾患による入院の割合が高い #特定健診受診者のうち、「血圧」「脂質」の未治療者が一定数確認できる</p> <hr/> <p>【考察】</p> <p>死亡や介護、入院の要因として「心疾患」や「慢性閉塞性肺疾患」が把握され、これらは予防可能な疾患であることから、中長期的に減らしていきたい疾患である。 これらの疾患を減らしていくためには、特定健診を受けて医療が必要と判断された者を早期に医療に繋げることが重要であり、本別町では、特に「血圧」「脂質」の未治療者が多いことを踏まえて重症化予防に取り組む必要があると推測される。</p> <p>※慢性閉塞性肺疾患についてはほんべつ21にて取扱う予定であり、本計画内での対策事業の記載は割愛する</p>	<p>【中長期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規人工透析患者数の減少 ・新規脳血管疾患患者数の減少 ・新規虚血性心疾患患者数の減少 <p>【短期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HbA1c6.5%以上の者の減少 ・Ⅱ度高血圧以上の者の減少 ・LDL160mg/dl以上の者の減少 <p>【事業アウトカム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血圧/血糖/脂質の重症化予防対象者のうち、未治療者の医療機関受診率の上昇
<p>◀生活習慣病発症予防・保健指導</p> <p>#「糖尿病」「高血圧症」「脂質異常症」と生活習慣病基礎疾患による外来の割合が高い #BMI、腹囲、中性脂肪、ALT（GPT）、HDLコレステロール、HbA1c、拡張期血圧、血清クレアチニンの有所見者が多い（男女） #空腹時血糖、LDLコレステロールの有所見者が多い（男性） #収縮期血圧、eGFRの有所見者が多い（女性） #メタボ該当者が多い（男女） #メタボ予備群が多い（女性）</p> <hr/> <p>【考察】</p> <p>生活習慣病（「高血圧症」「糖尿病」「慢性腎臓病」等）を発症してしまうことで定期的な通院が必要にならないように、メタボ（予備群含む）に該当した者を中心に特定保健指導を利用していただき、生活習慣の改善に取り組んでもらうことが必要であると推測される。</p>	<p>【短期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メタボ該当者の減少 ・メタボ予備群該当者の減少 <p>【事業アウトカム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定保健指導実施率の向上 ・保健指導対象者の減少
<p>◀早期発見・特定健康診査</p> <p>#特定健診受診率が国の目標値には届いていない【事業課題】</p> <hr/> <p>【考察】</p> <p>特定健診受診率は47.6%と国よりも高いが、引き続き健康状態不明者（健診なし医療なし）の者が約240人存在している。 自覚症状が乏しい生活習慣病において自身の健康状態を早期に把握するために、特定健診のさらなる受診率の向上が必要である。</p>	<p>【短期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康状態不明者の減少 <p>【事業アウトカム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定健診受診率の向上
<p>◀健康づくり</p> <p>#喫煙者が多い（男女） #1回30分以上の運動習慣なしが多い（男女） #1日1時間以上運動習慣なし（男女） #週3回以上朝食を抜くが多い（男女） #朝昼夜3食以外の間食や甘い飲み物（毎日）が多い（男女）</p> <hr/> <p>【考察】</p> <p>特定健診受診者の質問票回答状況から、「運動習慣無し」「食生活要改善者」が多い傾向がうかがえる。将来の生活習慣病を予防するために、日頃から正しい生活習慣の獲得のための取り組みが必要であると推測される。</p>	<p>【短期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動習慣のない者の減少

(3) 高齢者の特性を踏まえた健康課題の整理

健康課題・考察	目標
<p>◀高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施 #後期では、「脳梗塞」、「脳出血」、「慢性腎臓病（透析あり）」と生活習慣病重症化疾患による入院の割合が高い</p>	<p>【中長期目標】 ・重症化予防と同様</p>
<p>【考察】 後期高齢者の入院や介護の要因として「脳血管疾患」や「腎臓病」が把握され、これらは予防可能な疾患であることから、国保世代から重症化予防、生活習慣病発症予防、健康づくりに取り組んでいく必要があると推測される。</p>	<p>【短期目標】 ・健康づくりと同様</p>

(4) 医療費適正化に係る課題の整理

健康課題・考察	目標
<p>◀医療費適正化 #1人当たり医療費では、国保と後期のいずれも外来が低く、入院が高い #外来・入院費用割合では、国保と後期のいずれも外来が低く、入院が高い</p>	<p>【中長期目標】 ・総医療費に占める脳血管疾患の入院医療費の割合減少 ・総医療費に占める虚血性心疾患の入院医療費の割合減少 ・総医療費に占める慢性腎臓病（透析あり）の医療費の割合減少</p>
<p>【考察】 高齢化が進展し一人当たりの医療費の高騰が今後も懸念されるため、予防可能な疾患の入院医療費の減少や、重複処方対象者への支援等の医療費適正化に資する取り組みにより、国保医療制度を維持していく必要がある。</p>	

第4章 データヘルス計画の目的・目標

第3期データヘルス計画の目的、並びにそれを達成するための短期目標及び中・長期目標を整理した。

目的～健康課題を解決することで達成したい姿～
健康寿命の延伸と健康格差の縮小

共通指標	最上位目標	評価指標	開始時	目標値	目標値基準
NO. 1	平均自立期間（要介護2以上）【延伸】	平均自立期間	男性78.4年	延伸	
			女性84.4年	延伸	
NO. 2	総医療費に占める脳血管疾患の入院医療費の割合の抑制	総医療費に占める脳血管疾患の入院医療費の割合	6.8%	減少	
NO. 3	総医療費に占める虚血性心疾患の入院医療費の割合の抑制	総医療費に占める虚血性心疾患の入院医療費の割合	5.3%	減少	
NO. 4	総医療費に占める慢性腎不全の入院医療費の割合の抑制	総医療費に占める慢性腎不全の入院医療費の割合	0.6%	減少	
共通指標	中・長期目標	評価指標	開始時	目標値	目標値基準
NO. 5	新規脳血管疾患患者数【抑制】	新規脳血管疾患の患者数	11人	減少	
NO. 6	新規虚血性心疾患患者数【抑制】	新規虚血性心疾患患者数	14人	減少	
NO. 7	新規人工透析導入者数【抑制】	新規人工透析導入者数	0人	維持	
共通指標	短期目標	評価指標	開始時	目標値	目標値基準
NO. 8	メタボ該当者割合【減少】	メタボ該当者割合	31.2%	減少	
NO. 9	メタボ予備軍該当者割合【減少】	メタボ予備軍該当者割合	11.7%	減少	
NO. 12	運動習慣のない者の割合【減少】	運動習慣のない者割合（質問票）	71.5%	減少	
NO. 13	特定保健指導による特定保健指導対象者の減少	特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率	16.0%	増加	
NO. 14	HbA1c6.5%以上の割合【減少】	HbA1c6.5%以上の割合	16.8%	減少	
NO. 16	HbA1c8.0%以上の割合【減少】	HbA1c8.0%以上の割合	2.9%	減少	
NO. 18	Ⅱ度高血圧以上の割合【減少】	Ⅱ度高血圧以上の割合	6.2%	減少	
NO. 21	LDLコレステロール160mg/dl以上の割合【減少】	LDLコレステロール160mg/dl以上の割合	6.2%	減少	
NO. 23	特定健診実施率【向上】	特定健診実施率	44.6%	向上	
NO. 24	特定保健指導実施率【向上】	特定保健指導実施率	48.3%	向上	
NO. 25	糖尿病重症化予防対象者のうち未治療者の医療機関受診率【増加】	糖尿病重症化予防対象者のうち未治療者の医療機関受診	0.0%	増加	
NO. 26	高血圧症重症化予防対象者のうち未治療者の医療機関受診率【増加】	高血圧症重症化予防対象者のうち未治療者の医療機関受診率	13.3%	増加	
NO. 27	脂質異常症重症化予防対象者のうち未治療者の医療機関受診率【増加】	脂質異常症重症化予防対象者のうち未治療者の医療機関受診率	8.6%	増加	

第5章 目的・目標を達成するための保健事業

1 保健事業の整理

第2期に実施した保健事業の振り返りを行った上で、第3期データヘルス計画における目的・目標を達成するための保健事業を整理した。

(1) 重症化予防

第2期計画における取組と評価			
目標分類	評価	重症化予防に関連するデータヘルス計画の目標	
長期	B	脳血管疾患の減少（脳血管疾患の占める割合の減少）、 虚血性心疾患の減少（虚血性心疾患の占める割合の減少）	
事業評価	事業 アウトカム	個別事業名	事業の概要
B	Ⅱ度高血圧 該当者の減少	高血圧重症化予防事業	対象者：特定健診結果、Ⅱ度高血圧以上となったもの （高血圧管理台帳を作成） 特定健診受診者、一般町民 方法：①医療機関受診勧奨（結果説明会、電話、訪問等） ②減塩対策 （塩分アンケート、塩分量展示、減塩食品の試食など）



第3期計画における重症化予防に関連する健康課題
#1介護有病状況では「糖尿病」「高血圧症」「脂質異常症」「脳疾患」「筋・骨格」を有している者の割合が高い #2要介護認定者の半数以上が「高血圧症」「筋・骨格」を有している #3「心筋梗塞」「脳出血」「狭心症」と生活習慣病重症化疾患による入院の割合が高い #4特定健診受診者のうち、「血圧」「脂質」の未治療者が一定数確認できる
第3期計画における重症化予防に関連するデータヘルス計画の目標
【中長期目標】 ・新規人工透析患者数の減少 ・新規脳血管疾患患者数の減少 ・新規虚血性心疾患患者数の減少 【短期目標】 ・HbA1c6.5%以上の者の減少 ・Ⅱ度高血圧以上の者の減少 ・LDL160mg/dl以上の者の減少 ・高血圧症重症化予防対象者(市町村別)のうち、未治療者の医療機関受診率【増加】 ・脂質異常症重症化予防対象者(市町村別)のうち、未治療者の医療機関受診率【増加】

第3期計画における重症化予防に関連する保健事業

保健事業の方向性

高血圧重症化予防事業では令和2年度より高血圧管理台帳を作成し対象者を明確化し、台帳をもとに未治療者への受診勧奨や保健指導をすすめてきた。脳血管疾患や虚血性心疾患の割合は減少したが、特定健診受診率の向上とともにⅡ度高血圧該当者の割合は増加した。脂質異常症の割合も多いことから引き続き、未治療者への受診勧奨、治療中コントロール不良者に対して生活改善の指導を実施し、重症化予防を図ることが重要である。

健康課題	継続/新規	個別事業名	事業の概要
# 1234	継続	高血圧重症化予防事業	対象者：特定健診結果によりⅡ度高血圧以上の者、特定健診受診者等 方法： ①医療機関への受診勧奨（結果説明会、電話、訪問等） ②健診受診者等に尿中食塩濃度測定、野菜摂取量測定を実施し保健指導を実施 ③65歳以上心電図検査実施 ④家庭血圧測定・減塩食品の啓蒙活動
# 134	新規	脂質異常症重症化予防事業	対象者：特定健診受診者のうちLDLコレステロール160mg/dl以上の者 方法： ①医療機関への受診勧奨（結果説明会、電話、訪問等） ②ハイリスク者への保健指導

① 高血圧重症化予防事業

実施計画

事業目的・目標	高血圧性疾患の重症化予防を図り、脳血管疾患や虚血性心疾患の発症を減少させる。				
事業内容	高血圧管理台帳をもとに重症化するリスクの高い者に対して保健師及び管理栄養士より医療機関受診勧奨、保健指導を実施する。また、健診受診者に尿中食塩濃度測定、野菜摂取量測定を実施し保健指導を実施				
対象者・対象人数	対象者：特定健診結果、Ⅱ度高血圧以上となったもの（高血圧管理台帳を作成）				
実施体制・関係機関	保健師、管理栄養士、医療機関				
評価指標・目標値					
ストラクチャー	・国保担当と情報共有、チーム形成				
プロセス	・対象者抽出、台帳作成 ・結果説明会の開催				
事業アウトプット	【項目名】医療機関受診率 <table border="1"> <thead> <tr> <th>開始時</th> <th>令和11年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>13.3%</td> <td>増加</td> </tr> </tbody> </table>	開始時	令和11年度	13.3%	増加
開始時	令和11年度				
13.3%	増加				
事業アウトカム	【項目名】Ⅱ度高血圧以上の割合 <table border="1"> <thead> <tr> <th>開始時</th> <th>令和11年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6.2%</td> <td>減少</td> </tr> </tbody> </table>	開始時	令和11年度	6.2%	減少
開始時	令和11年度				
6.2%	減少				

② 脂質異常症重症化予防事業

実施計画					
事業目的・目標	脂質異常症の重症化予防を図り、脳血管疾患や虚血性心疾患の発症を減少させる。				
事業内容	重症化するリスクの高い者に対して保健師及び管理栄養士より医療機関受診勧奨、保健指導を実施する。				
対象者・対象人数	対象者：特定健診結果、LDLコレステロール160mg/dl以上の者				
実施体制・関係機関	保健師、管理栄養士、医療機関				
評価指標・目標値					
ストラクチャー	・国保担当と情報共有、チーム形成				
プロセス	・対象者抽出 ・結果説明会の開催				
事業アウトプット	【項目名】医療機関受診率 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>開始時</th> <th>令和11年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8.6%</td> <td>増加</td> </tr> </tbody> </table>	開始時	令和11年度	8.6%	増加
開始時	令和11年度				
8.6%	増加				
事業アウトカム	【項目名】LDLコレステロール160mg/dl以上の割合 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>開始時</th> <th>令和11年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6.2%</td> <td>増加</td> </tr> </tbody> </table>	開始時	令和11年度	6.2%	増加
開始時	令和11年度				
6.2%	増加				

第2期計画における取組と評価			
目標分類	評価	重症化予防に関連するデータヘルス計画の目標	
長期	A	糖尿病性腎症の減少（人工透析患者の占める割合の減少、新規人工透析患者導入者の減少）	
事業評価	事業アウトカム	個別事業名	事業の概要
A	新規人工透析導入者数 0人	糖尿病性腎症重症化予防事業	対象者：糖尿病性腎症重症化予防プログラム対象者（糖尿病管理台帳を作成） 方法：①医療機関受診勧奨（結果説明会、電話、訪問等） ②糖尿病連携手帳を活用した医療機関との連携



第3期計画における重症化予防に関連する健康課題	
#1「慢性閉塞性肺疾患」「糖尿病」による死因の割合が高い	
#2「心筋梗塞」「脳出血」「狭心症」と生活習慣病重症化疾患による入院の割合が高い	
#3介護有病状況では「糖尿病」「高血圧症」「脂質異常症」「脳疾患」「筋・骨格」を有している者の割合が高い	
第3期計画における重症化予防に関連するデータヘルス計画の目標	
【短期目標】	
<ul style="list-style-type: none"> ・メタボ該当者割合、メタボ予備軍該当者割合の減少 ・HbA1c6.5%以上の者の減少 ・HbA1c8.0%以上の者の減少 ・糖尿病重症化予防対象者(市町村別)のうち、未治療者の医療機関受診率【増加】 	



第3期計画における重症化予防に関連する保健事業			
保健事業の方向性			
糖尿病管理台帳を作成し対象者を明確化し未治療者への受診勧奨や保健指導をすすめてきた。引き続き、未治療者への受診勧奨、治療中コントロール不良者（HbA1c8.0以上）に対して生活改善の指導を実施し重症化予防を図る。			
健康課題	継続/新規	個別事業名	事業の概要
#123	継続	糖尿病性腎症重症化予防事業	対象者：糖尿病性腎症重症化予防プログラム対象者 方法： ①医療機関への受診勧奨（結果説明会、電話、訪問等） ②野菜摂取量測定を実施し食の保健・栄養指導を実施

①糖尿病性腎症重症化予防事業

実施計画							
事業目的・目標	糖尿病性腎症の重症化予防を図り、人工透析への移行を防止する。						
事業内容	重症化するリスクの高い者に対して保健師及び管理栄養士より医療機関受診勧奨、保健指導を実施する。また、医療機関と連携を図りながら保健指導を行う。						
対象者・対象人数	○糖尿病性腎症重症化予防プログラム対象者 優先順位1…医療機関未受診者、中断者 優先順位2…糖尿病治療者のうち重症化リスクの高い者 尿蛋白(+)以上またはGFR60未満の人、Ⅱ度高血圧以上の人						
実施体制・関係機関	保健師・管理栄養士・医療機関						
評価指標・目標値							
ストラクチャー	・国保担当と情報共有、チーム形成						
プロセス	・対象者抽出、台帳作成						
事業アウトプット	【項目名】重症化予防介入の実施率 <table border="1"> <thead> <tr> <th>開始時</th> <th>令和11年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>87.5%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	開始時	令和11年度	87.5%	100%		
	開始時	令和11年度					
87.5%	100%						
【項目名】未治療者の医療機関受診率 <table border="1"> <thead> <tr> <th>開始時</th> <th>令和11年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	開始時	令和11年度	0%	100%			
開始時	令和11年度						
0%	100%						
事業アウトカム	【項目名】HbA1c6.5以上（再掲HbA1c8.0以上）の割合 <table border="1"> <thead> <tr> <th>開始時</th> <th>令和11年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16.8%</td> <td>減少</td> </tr> <tr> <td>再掲 2.9%</td> <td>減少</td> </tr> </tbody> </table>	開始時	令和11年度	16.8%	減少	再掲 2.9%	減少
	開始時	令和11年度					
16.8%	減少						
再掲 2.9%	減少						
	【項目名】新規人工透析導入者数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>開始時</th> <th>令和11年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> </tbody> </table>	開始時	令和11年度	0人	0人		
開始時	令和11年度						
0人	0人						

(2) 生活習慣病発症予防・保健指導

第2期計画における取組と評価			
目標分類	評価	生活習慣病発症予防・保健指導に関連するデータヘルス計画の目標	
短期	A	特定保健指導実施率の向上	
事業評価	事業アウトカム	個別事業名	事業の概要
A	特定保健指導実施率向上(60%)	特定保健指導	対象者：特定保健指導対象 方法：該当者に特定保健指導についての参加案内を行い、実施。(一部医療機関委託)



第3期計画における生活習慣病発症予防・保健指導に関連する健康課題	
#1「糖尿病」「高血圧症」「脂質異常症」と生活習慣病基礎疾患による外来の割合が高い	
#2BMI、腹囲、中性脂肪、ALT(GPT)、HDLコレステロール、HbA1c、拡張期血圧、血清クレアチニンの有所見者が多い(男女)	
#3空腹時血糖、LDLコレステロールの有所見者が多い(男性)	
#4収縮期血圧、eGFRの有所見者が多い(女性)	
#5メタボ該当者が多い(男女)	
#6メタボ予備群が多い(女性)	
第3期計画における生活習慣病発症予防・保健指導に関連するデータヘルス計画の目標	
【短期目標】	
・メタボ該当者の減少	
・メタボ予備群該当者の減少	
【事業アウトカム】	
・特定保健指導実施率の向上	
・保健指導対象者の減少	



第3期計画における生活習慣病発症予防・保健指導に関連する保健事業			
保健事業の方向性			
第2期計画での特定保健指導実施率の目標値は60%としていたが、44~49%代で推移し、目標値に達していない。生活習慣病の発症を予防するため特定保健指導利用者が身体メカニズムと生活習慣の関係を理解し、生活習慣の改善に取り組めるよう保健指導を実施していく。			
健康課題	継続/新規	個別事業名	事業の概要
#123456	継続	特定保健指導	対象者：特定健診受診者のうち特定保健指導該当者(積極的・動機付け支援) 方法：該当者に特定保健指導についての参加案内を行い、実施。(一部医療機関委託) 実施率向上のためICT等の活用も行う。

実施計画							
事業目的・目標	特定保健指導対象者が身体のメカニズムと生活習慣の関係を理解し、生活習慣の改善に取り組めるよう保健指導を行い、生活習慣病の発症を予防する。						
事業内容	集団健診受診者には結果説明会において参加案内を行う。また、個別健診受診者には訪問や電話等で参加案内を行う。また、ICTを活用し利用しやすい環境づくりを行う。						
対象者・対象人数	特定健診受診者のうち特定保健指導該当者（積極的・動機付け支援）						
実施体制・関係機関	保健師、管理栄養士						
評価指標・目標値							
ストラクチャー	<ul style="list-style-type: none"> ・国保担当と情報共有 ・委託機関との連携 						
プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・参加案内、勧奨方法 ・実施方法 						
事業アウトプット	【項目名】特定保健指導実施率の向上						
	開始時	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
	48.3%	50%	50%	55%	55%	60%	60%
事業アウトカム	【項目名】メタボ該当者割合の減少						
	開始時	令和11年度					
	31.2%	減少					
事業アウトカム	【項目名】メタボ予備軍該当者割合の減少						
	開始時	令和11年度					
	11.7%	減少					
事業アウトカム	【項目名】特定保健指導対象者の減少						
	開始時	令和11年度					
	11.7%	減少					

(3) 早期発見・特定健診

第2期計画における取組と評価			
目標分類	評価	早期発見・特定健診に関連するデータヘルス計画の目標	
短期	B	特定健診実施率の向上	
事業評価	事業アウトカム	個別事業名	事業の概要
B	特定健診受診率60%	特定健診未受診者対策	対象者：特定健診未受診者 方法：①未受診者へのはがきによる受診勧奨 ②通院中データ受領制度対象者に対して文書および電話勧奨 ③35歳～39歳対象者への受診勧奨



第3期計画における早期発見・特定健診に関連する健康課題	
#1 特定健診受診率が国の目標値には届いていない	
第3期計画における早期発見・特定健診に関連するデータヘルス計画の目標	
【短期目標】 特定健診実施率の向上	



第3期計画における早期発見・特定健診に関連する保健事業			
保健事業の方向性			
<p>特定健診実施率は令和2年度に51.4%と向上したが新型コロナウイルス感染症の流行を背景に健診離脱が増えるなど低下している。</p> <p>特定健診を受診することにより重症化予防リスクを早期に発見し、治療や生活習慣改善につなげることが重要であるため引き続き未受診者への受診勧奨を行う。</p>			
健康課題	継続/新規	個別事業名	事業の概要
#1	継続	特定健診未受診者対策	対象者：特定健診未受診者 方法：①未受診者へのはがきによる受診勧奨 ②通院中データ受領制度対象者に対して文書および電話勧奨

① 特定健康診査未受診者対策

実施計画							
事業目的・目標	メタボリックシンドロームに着目した特定健康診査を実施し、生活習慣病の早期発見、重症化予防を図る。						
事業内容	①特定健診の実施（集団・個別健診） 休日やがん検診や歯科健診と受診できる体制の工夫 ②データ受領制度（町内2医療機関）の利用促進 ③特定健診未受診者へハガキや文書による受診勧奨 ④35歳～39歳国保加入者への健診受診勧奨 ⑤新規国保加入者に対する健診案内 ⑥健康ポイント事業によるインセンティブ付与						
対象者・対象人数	国民健康保険被保険者（40～74歳）						
実施体制・関係機関	国保担当、健康管理センター						
評価指標・目標値							
ストラクチャー	・保健事業支援・評価委員会の活用 ・国保連合会、民間委託事業者との協議						
プロセス	・受診勧奨ハガキ、データ受領制度案内文書送付回数、時期						
事業アウトプット	【項目名】通知物カバール率 100%						
事業アウトカム	【項目名】特定健診受診率						
	開始時	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
	44.6%	45%	50%	50%	55%	55%	60%

(4) 健康づくり・社会環境体制整備

第2期計画における取組と評価			
目標分類	評価	健康づくり・社会環境体制整備に関連するデータヘルス計画の目標	
短期	C	生活習慣病の改善と健康づくりに取り組む者の増加	
事業評価	事業アウトカム	個別事業名	事業の概要
C	運動習慣のない者の割合減少	健康づくり事業	減塩アンケート、減塩食品の啓発活動、運動教室や健康ポイント事業を実施



第3期計画における健康づくり・社会環境体制整備に関連する健康課題	
#1喫煙者が多い（男女） #21回30分以上の運動習慣なしが多い（男女） #31日1時間以上運動習慣なし（男女） #4週3回以上朝食を抜くが多い（男女） #5朝昼夜3食以外の間食や甘い飲み物（毎日）が多い（男女）	
第3期計画における健康づくり・社会環境体制整備に関連するデータヘルス計画の目標	
【短期目標】 ・運動習慣のない者の減少 ※#1、4、5については健康ほんべつ21の中で取り組む	



第3期計画における健康づくり・社会環境体制整備に関連する保健事業			
保健事業の方向性			
運動習慣のない者は男女ともに多い状態が続いている。運動は肥満や生活習慣病の予防、ロコモティブシンドロームやサルコペニア予防に効果がある。引き続き主体的に健康づくりに取り組めるよう支援し健康意識の向上を図る。			
健康課題	継続/新規	個別事業名	事業の概要
#2、3	継続	健康づくり事業	健康ポイント事業、運動教室の開催、健活プロジェクト（食と運動の取組）推進、減塩食品について啓蒙活動を行う。

① 健康づくり事業（健康ポイント事業、健活プロジェクト）

実施計画		
事業目的・目標	個人の健康意識の向上、行動変容のきっかけづくり、継続支援・習慣化に向けて支援を行い、健康づくりを推進する	
事業内容	①普及啓発事業 ②健康ポイント事業 健診受診や運動など健康づくりの取組をインセンティブ化。ICT活用の検討 ③健活プロジェクト 高齢者福祉担当、介護予防担当、スポーツ担当部局と連携し食と運動についての講演会、運動教室（出張フィットネス）、健康レシピ開発を行う。	
対象者・対象人数	本別町民	
実施体制・関係機関	健康管理センター、高齢者福祉担当、介護予防担当、スポーツ担当、商工会	
評価指標・目標値		
ストラクチャー	関係部局とチーム形成	
プロセス	実施方法	
事業アウトプット	【項目名】健康ポイント事業参加率→増加	
事業アウトカム	【項目名】運動習慣のない者の割合	
	開始時	令和11年度
	71.4%	減少

(5) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施

高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施については、令和2年度より保健・介護一体的実施推進事業実施計画に基づき高齢者に対する重症化予防事業（ハイリスクアプローチ、通いの場へのポピュレーションアプローチ）を実施している。引き続き実施計画書に基づき重症化予防に取り組んでいく。

(6) 医療費適正化

第2期計画における取組と評価			
目標分類	評価	医療費適正化に関連するデータヘルス計画の目標	
長期	A	総医療費に占める脳血管疾患、虚血性疾患、慢性腎臓病の入院医療費の割合減少	
事業評価	事業 アウトカム	個別事業名	事業の概要
重症化予防事業と同様のため割愛			

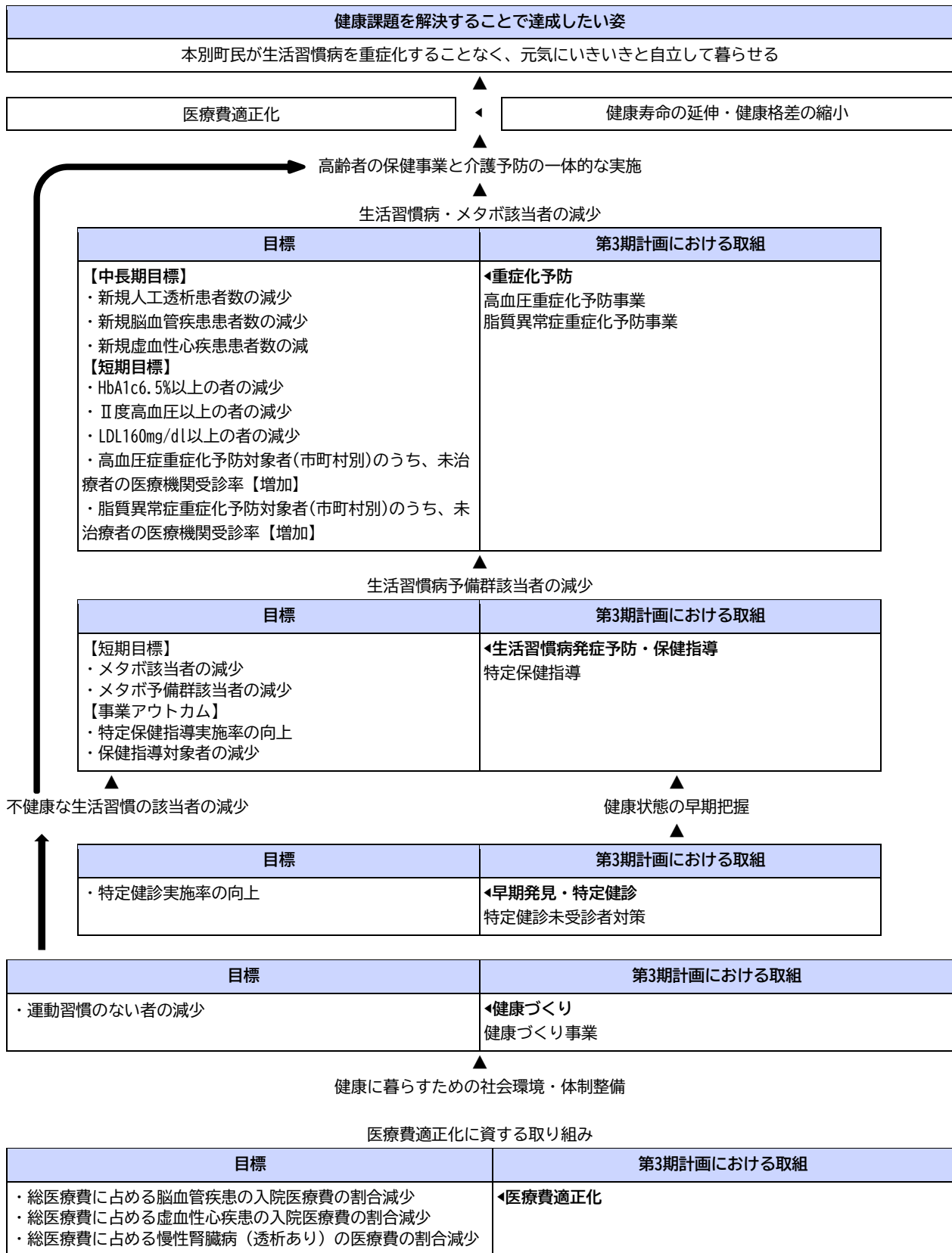


第3期計画における医療費適正化に関連する健康課題	
#1	1人当たり医療費では、国保と後期のいずれも外来が低く、入院が高い
#2	外来・入院費用割合では、国保と後期のいずれも外来が低く、入院が高い
第3期計画における医療費適正化に関連するデータヘルス計画の目標	
【中長期目標】	
<ul style="list-style-type: none"> ・総医療費に占める脳血管疾患の入院医療費の割合減少 ・総医療費に占める虚血性心疾患の入院医療費の割合減少 ・総医療費に占める慢性腎臓病（透析あり）の医療費の割合減少 	



第3期計画における医療費適正化に関連する保健事業			
保健事業の方向性			
第2期計画では入院医療費は高い状況があるが伸びは鈍化している。引き続き重症化を予防し医療費の伸びを抑制していく。			
健康課題	継続/新規	個別事業名	事業の概要
重症化予防事業と同様のため割愛			

第6章 データヘルス計画の全体像の整理



第7章 計画の評価・見直し

第7章からはデータヘルス計画策定の手引きに従った運用とする。以下、手引きより抜粋する。

1 評価の時期

(1) 個別事業計画の評価・見直し

個別の保健事業の評価は年度ごとに行うことを基本として、計画策定時に設定した保健事業ごとの評価指標に基づき、事業の効果や目標の達成状況を確認する。目標の達成状況が想定に達していない場合は、ストラクチャーやプロセスが適切であったか等を確認の上、目標を達成できなかった原因や事業の必要性等を検討して、次年度の保健事業の実施やデータヘルス計画の見直しに反映させる。

(2) データヘルス計画の評価・見直し

設定した評価指標に基づき、計画の最終年度のみならず、中間時点等計画期間の途中で進捗確認及び中間評価を実施する。また、計画の最終年度においては、その次の期の計画の策定を円滑に行うため、当該最終年度の上半期に仮評価を行う。

2 評価方法・体制

計画は、中・長期的な計画運営を行うものであることを踏まえ、短期では評価が難しいアウトカム（成果）指標を中心とした評価指標による評価を行う。評価に当たっては、市町村国保における保健事業の評価を広域連合と連携して行うなど、必要に応じ他の保険者等との連携・協力体制を整備する。

第8章 計画の公表・周知

本計画は、被保険者や保健医療関係者等が容易に知り得るべきものとするのが重要であり、このため、国指針において、公表するものとされている。具体的には、ホームページや広報誌を通じた周知のほか、都道府県、国保連、保健医療関係者経由で医療機関等に周知し、配布する。また、これらの公表・配布に当たっては、被保険者、保健医療関係者の理解を促進するため、計画の要旨等をまとめた概要版を策定し併せて公表する。

第9章 個人情報の取扱い

計画の策定に当たっては、活用するデータの種類や活用方法が多岐にわたり、特にKDBシステムを活用する場合等には、健診結果やレセプトデータ情報を突合し加工した統計情報と、個別の個人情報とが存在する。

特に、健診データやレセプトに関する個人情報は、一般的には「個人情報の保護に関する法律」（平成15年法律第57号。以下「個人情報保護法」という。）に定める要配慮個人情報に該当するため、慎重に取扱う。本別町では、個人情報の保護に関する各種法令とガイドラインに基づき、庁内等での利用、外部委託事業者への業務委託等の各場面で、その保有する個人情報の適切な取扱いが確保されるよう措置を講じる。

第10章 第4期 特定健康診査等実施計画

1 計画の背景・趣旨

(1) 背景・趣旨

生活習慣病の発症や重症化予防により、国民の健康保持及び医療費適正化を達成することを目的に、保険者においては平成20年度より「高齢者の医療の確保に関する法律」（昭和57年法律第80号）に基づき、特定健康診査（以下「特定健診」という。）及び特定保健指導の実施が義務付けられてきた。

本別町においても、同法律に基づき作成された特定健康診査等基本方針に基づき、実施計画を策定し、特定健診の受診率及び特定保健指導の実施率の向上に取り組んできたところである。

近年、全世代型社会保障の構築に向け、生活習慣病の発症や重症化予防の重要性は一層高まっており、より効率的かつ効果的な特定健診及び特定保健指導の実施が求められている。令和5年3月に公表された「特定健康診査等実施計画作成の手引き（第4版）」「特定健康診査・特定保健指導の円滑な実施に向けた手引き（第4版）」では、成果を重視した特定保健指導の評価体系の見直し、特定保健指導の成果等の見える化の推進などの新たな方向性が示され、成果（アウトカム）に着目したより効率的かつ効果的な事業運営が求められることとなった。

本計画は、第3期計画期間（平成30年度から令和5年度）が終了することから、国での方針の見直しの内容を踏まえ、本別町の現状を考慮した事業の運営を図ることを目的に策定するものである。

(2) 特定健診・特定保健指導を巡る国の動向

① エビデンスに基づく効率的かつ効果的な特定健診・特定保健指導の推進

わが国においては、厳しい財政状況の中、より効率的かつ効果的な財政運営が必要とされており、国を挙げてエビデンスに基づく政策運営が進められている。

特定健診及び特定保健指導に関しても、第3期中に、大規模実証事業や特定保健指導のモデル実施の効果検証を通じたエビデンスの構築、並びにエビデンスに基づく効果的な特定健診及び特定保健指導が推進されてきたところである。

「特定健康診査等実施計画作成の手引き（第4版）」「特定健康診査・特定保健指導の円滑な実施に向けた手引き（第4版）」においても、特定健診及び特定保健指導の第一の目的は生活習慣病に移行させないことであることに立ち返り、対象者の行動変容につながり成果が出たことを評価するという方針で、成果の見える化と事業の効果分析に基づいた効果的な特定健診及び特定保健指導が求められることとなった。

② 第4期特定健診・特定保健指導の見直しの方向性

令和5年3月に発表された「特定健康診査・特定保健指導の円滑な実施に向けた手引き（第4版）」での主な変更点は下表のとおりである。

本別町においても、これらの変更点を踏まえて第4期特定健診及び特定保健指導を実施していく。

図表10-1-2-1：第4期特定健診・特定保健指導の主な変更点

区分	変更点の概要	
特定健診	基本的な健診の項目	・ 血中脂質検査の中性脂肪は、やむを得ない場合は随時中性脂肪での測定を可とする。
	標準的な質問票	・ 喫煙や飲酒の項目は、より正確にリスクを把握するために詳細な選択肢へ修正。 ・ 特定保健指導の項目は、利用意向から利用歴を確認する内容へ修正。
特定保健指導	評価体系	・ 実績評価にアウトカム評価を導入。主要達成目標を腹囲2cm・体重2kg減、その他目標を生活習慣病予防につながる行動変容（食習慣・運動習慣・喫煙習慣・休養習慣・その他生活習慣の改善）や腹囲1cm・体重1kg減と設定。 ・ プロセス評価は、個別支援、グループ支援、電話及び電子メール等とする。時間に比例したポイント設定ではなく介入1回ごとの評価とし、支援Aと支援Bの区別は廃止。ICTを活用した場合も同水準の評価。特定健診実施後の特定保健指導の早期実施を新たに評価。 ・ モデル実施は廃止。
	その他	①初回面接の分割実施の条件緩和 ・ 初回面接は、特定健診実施日から1週間以内であれば初回面接の分割実施と取り扱う。 ②生活習慣病に係る服薬を開始した場合の実施率の考え方 ・ 特定健診または特定保健指導開始後に服薬開始の場合、特定保健指導の対象者として分母に含めないことを可能とする。 ③生活習慣病に係る服薬中の者への服薬状況の確認、及び特定保健指導対象者からの除外 ・ 服薬中の者の特定保健指導対象者からの除外に当たり、確認する医薬品の種類、確認手順等を保険者があらかじめ定めている場合は、専門職以外でも事実関係の再確認と同意取得を行うことを可能とする。 ④運用の改善 ・ 看護師が特定保健指導を行える暫定期間を第4期期間においても延長する。

【出典】特定健康診査・特定保健指導の円滑な実施に向けた手引き（第4版） 改変

(3) 計画期間

本計画の期間は、令和6年度（2024年）から令和11年度（2029年）までの6年間である。

2 第3期計画における目標達成状況

(1) 全国の状況

特定健診及び特定保健指導の目標としては、特定健診受診率及び特定保健指導実施率の向上、並びにメタボリックシンドローム該当者及びメタボリックシンドローム予備群該当者（以下、それぞれ「メタボ該当者」及び「メタボ予備群該当者」という。）の減少が掲げられている。

第3期計画においては、全保険者で特定健診受診率を令和5年度までに70.0%まで、特定保健指導実施率を45.0%まで引き上げることが目標とされていたが、令和3年度時点で全保険者の特定健診平均受診率は56.5%、特定保健指導平均実施率は24.6%となっており、目標値から大きく乖離している。市町村国保の特定健診受診率及び特定保健指導実施率も、全保険者と同様の傾向となっている。

図表10-2-1-1：第3期計画における全保険者及び市町村国保の特定健診受診率・特定保健指導実施率の目標値及び実績

	全保険者		市町村国保				
	令和5年度 目標値	令和3年度 実績	令和5年度 目標値	令和3年度 実績			
				全体	特定健診対象者数		
			10万人以上		5千人以上 10万人未満	5千人未満	
特定健診平均受診率	70.0%	56.5%	60.0%	36.4%	28.2%	37.6%	42.5%
特定保健指導平均実施率	45.0%	24.6%	60.0%	27.9%	13.9%	27.7%	44.9%

【出典】厚生労働省 特定健康診査等実施計画作成の手引き（第4版）
厚生労働省 2021年度 特定健康診査・特定保健指導の実施状況

メタボ該当者及びメタボ予備群該当者の減少率は、令和5年度までに平成20年度比25.0%以上減が目標として設定されていたが、令和3年度時点では13.8%減となっており、目標達成が厳しい状況にある（下表）。

なお、メタボ該当者及びメタボ予備群該当者の減少率は、保険者ごとに目標設定されているものではなく、特定保健指導の効果を検証するための指標として保険者が活用することを推奨されているものである。

図表10-2-1-2：第3期計画におけるメタボ該当者・メタボ予備群該当者の減少率の目標値及び実績

	令和5年度 目標値 全保険者	令和3年度 実績 全保険者
メタボ該当者・メタボ予備群該当者の減少率 (平成20年度比)	25.0%	13.8%

※平成20年度と令和3年度の推定数の差分を平成20年度の推定数で除して算出

※推定数は、特定健診の実施率及び年齢構成比の変化による影響を排除するため、性・年齢階層別に各年度の特定健診受診者に占める出現割合に各年度の住民基本台帳の人口を乗じて算出

【出典】厚生労働省 特定健康診査等実施計画作成の手引き（第4版）
厚生労働省 2021年度 特定健康診査・特定保健指導の実施状況

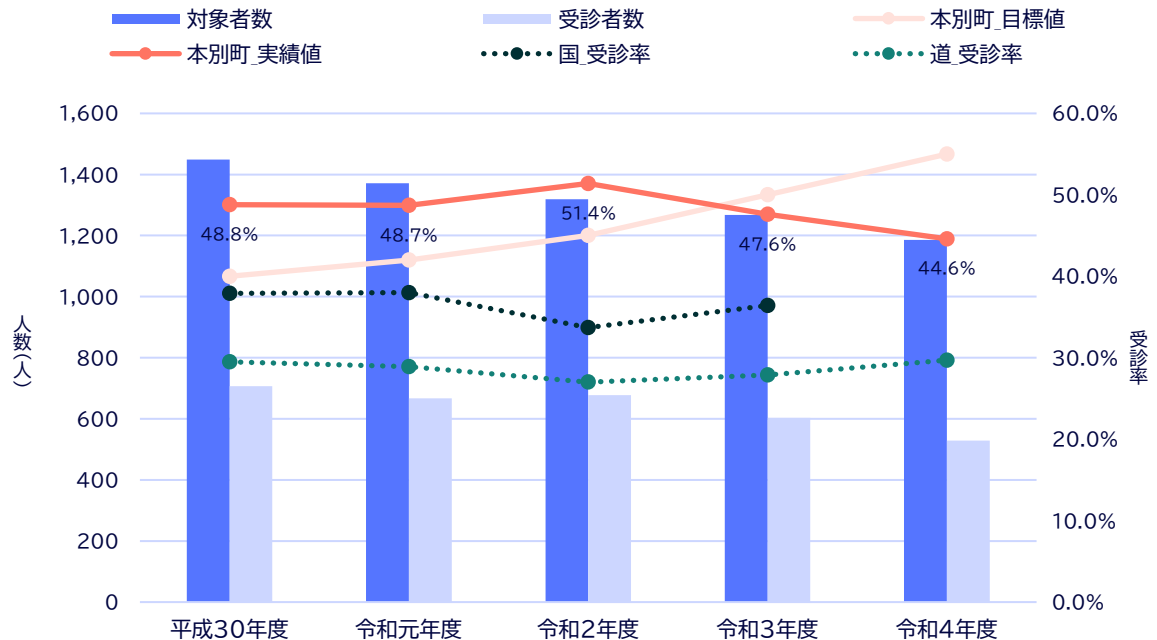
(2) 本別町の状況

① 特定健診受診率の経年推移及び国・北海道との比較

特定健診受診率は、前期計画終了年度にあたる令和5年度の目標値を60.0%としていたが、令和4年度時点で44.6%となっている。この値は、道と比較して高い。

前期計画中の推移をみると令和4年度の特定健診受診率は44.6%で、平成30年度の特定健診受診率48.8%と比較すると4.2ポイント低下している。国や道の推移をみると、平成30年度と比較して令和3年度の特定健診受診率は低下している。

図表10-2-2-1：第3期計画における特定健診の受診状況（法定報告値）



		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
特定健診受診率	本別町_目標値	40.0%	42.0%	45.0%	50.0%	55.0%
	本別町_実績値	48.8%	48.7%	51.4%	47.6%	44.6%
	国	37.9%	38.0%	33.7%	36.4%	-
	道	29.5%	28.9%	27.0%	27.9%	29.7%
特定健診対象者数 (人)		1,449	1,371	1,319	1,268	1,186
特定健診受診者数 (人)		707	667	678	603	529

※表内の「国」とは、市町村国保全体を指す（KDB帳票を用いた分析においては以下同様）

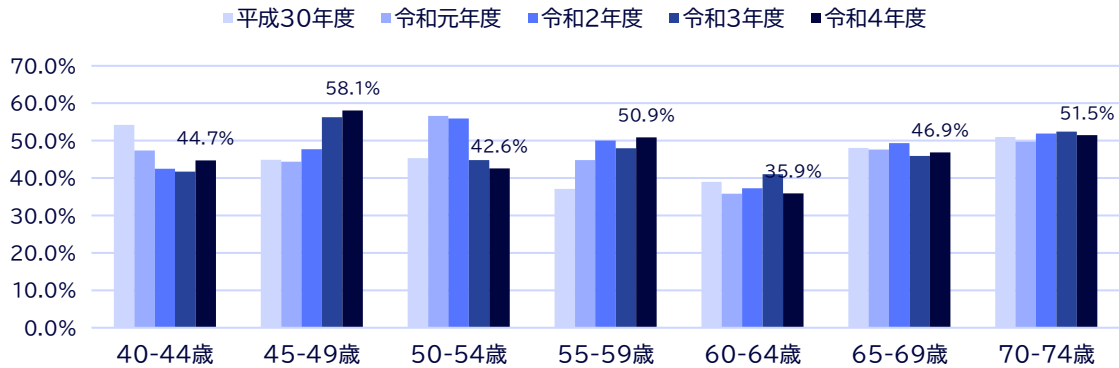
【出典】目標値：前期計画

実績値：厚生労働省 2018年度から2022年度 特定健診・特定保健指導の実施状況（保険者別）

② 性別年代別 特定健診受診率

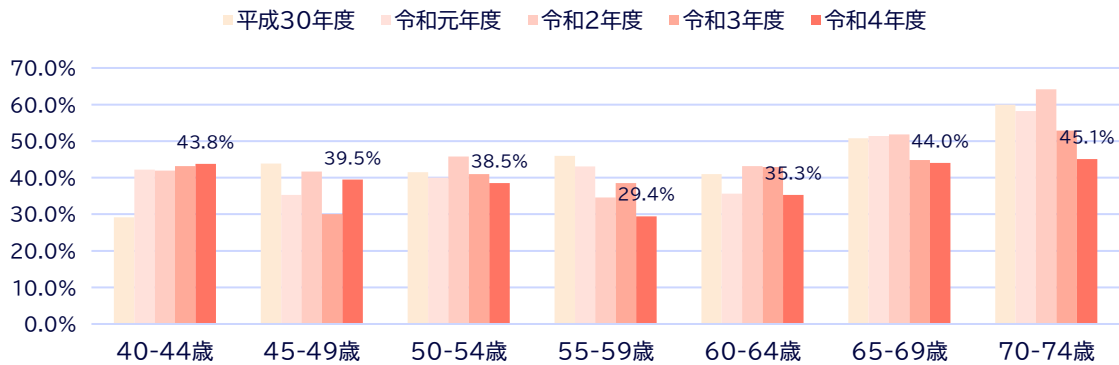
男女別及び年代別における平成30年度と令和4年度の特定健診受診率は、男性では55-59歳で最も伸びており、40-44歳で最も低下している。女性では40-44歳で最も伸びており、55-59歳で最も低下している。

図表10-2-2-2：年齢階層別_特定健診受診率_男性



	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
平成30年度	54.2%	44.9%	45.3%	37.1%	39.0%	48.1%	51.0%
令和元年度	47.4%	44.4%	56.6%	44.8%	35.8%	47.6%	49.8%
令和2年度	42.5%	47.7%	55.9%	50.0%	37.3%	49.3%	51.9%
令和3年度	41.7%	56.3%	44.8%	48.0%	41.0%	45.9%	52.4%
令和4年度	44.7%	58.1%	42.6%	50.9%	35.9%	46.9%	51.5%
平成30年度と令和4年度の差	-9.5	13.2	-2.7	13.8	-3.1	-1.2	0.5

図表10-2-2-3：年齢階層別_特定健診受診率_女性



	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
平成30年度	29.2%	43.9%	41.5%	46.0%	41.0%	50.8%	60.0%
令和元年度	42.2%	35.3%	40.0%	43.1%	35.6%	51.4%	58.2%
令和2年度	41.9%	41.7%	45.8%	34.6%	43.2%	51.8%	64.2%
令和3年度	43.2%	30.0%	41.0%	38.5%	42.9%	44.8%	52.9%
令和4年度	43.8%	39.5%	38.5%	29.4%	35.3%	44.0%	45.1%
平成30年度と令和4年度の差	14.6	-4.4	-3.0	-16.6	-5.7	-6.8	-14.9

【出典】 KDB帳票 S21_008-健診の状況 平成30年度から令和4年度 累計

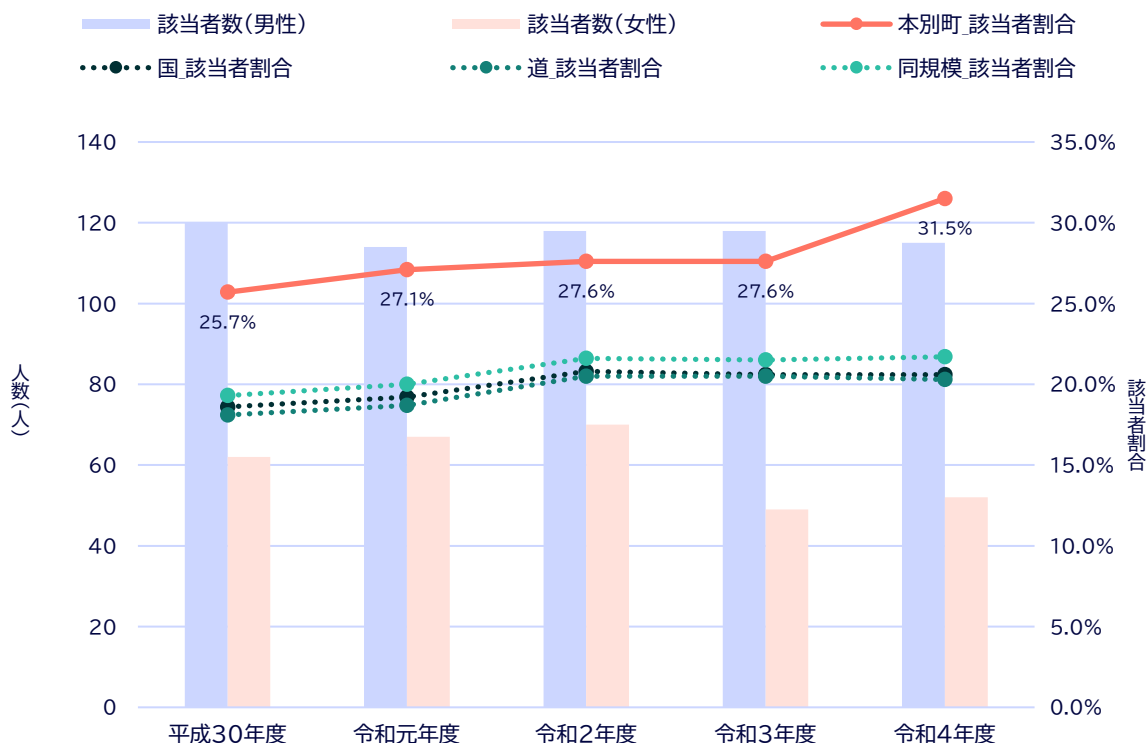
③ メタボ該当者数の経年推移及び国・北海道・同規模との比較

令和4年度におけるメタボ該当者数は167人で、特定健診受診者の31.5%であり、国・道より高い。

前期計画中の推移をみると、メタボ該当者数は減少しており、特定健診受診者に占める該当割合は上昇している。

男女別にみると、特定健診受診者に占めるメタボ該当割合はいずれの年度においても男性の方が高い。

図表10-2-2-4：特定健診受診者におけるメタボ該当者数



メタボ該当者	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	該当者数(人)	割合	該当者数(人)	割合	該当者数(人)	割合	該当者数(人)	割合	該当者数(人)	割合
本別町	182	25.7%	181	27.1%	188	27.6%	167	27.6%	167	31.5%
男性	120	38.1%	114	38.1%	118	39.3%	118	42.0%	115	43.7%
女性	62	15.8%	67	18.1%	70	18.4%	49	15.1%	52	19.4%
国	-	18.6%	-	19.2%	-	20.8%	-	20.6%	-	20.6%
道	-	18.1%	-	18.7%	-	20.5%	-	20.5%	-	20.3%
同規模	-	19.3%	-	20.0%	-	21.6%	-	21.5%	-	21.7%

【出典】 KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 平成30年度から令和4年度 累計

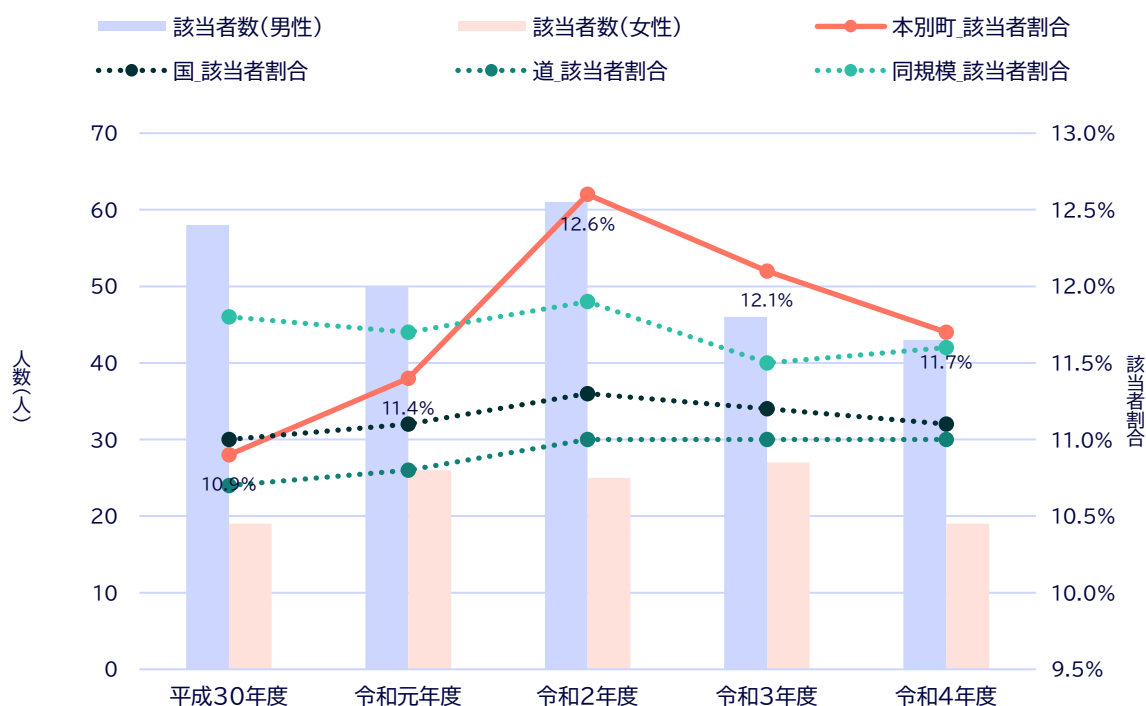
④ メタボ予備群該当者数の経年推移及び国・北海道・同規模との比較

令和4年度におけるメタボ予備群該当者数は62人で、特定健診受診者における該当者割合は11.7%で、国・道より高い。

前期計画中の推移をみると、メタボ予備群該当者数は減少しており、割合は上昇している。

男女別にみると、特定健診受診者に占めるメタボ予備群該当割合はいずれの年度においても男性の方が高い。

図表10-2-2-5：特定健診受診者におけるメタボ予備群該当者数



メタボ予備群 該当者	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	該当者数(人)	割合	該当者数(人)	割合	該当者数(人)	割合	該当者数(人)	割合	該当者数(人)	割合
本別町	77	10.9%	76	11.4%	86	12.6%	73	12.1%	62	11.7%
男性	58	18.4%	50	16.7%	61	20.3%	46	16.4%	43	16.3%
女性	19	4.8%	26	7.0%	25	6.6%	27	8.3%	19	7.1%
国	-	11.0%	-	11.1%	-	11.3%	-	11.2%	-	11.1%
道	-	10.7%	-	10.8%	-	11.0%	-	11.0%	-	11.0%
同規模	-	11.8%	-	11.7%	-	11.9%	-	11.5%	-	11.6%

【出典】 KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 平成30年度から令和4年度 累計

参考：メタボリックシンドローム判定値の定義

メタボ該当者	腹囲 85cm (男性)	以下の追加リスクのうち2つ以上該当
メタボ予備群該当者	90cm (女性) 以上	
追加リスク	血糖	空腹時血糖110mg/dL以上 (空腹時血糖の結果値が存在しない場合、HbA1c 6.0%以上)
	血圧	収縮期血圧130mmHg以上、または拡張期血圧85mmHg以上
	脂質	中性脂肪150mg/dL以上、またはHDLコレステロール40mg/dL未満

【出典】 厚生労働省 メタボリックシンドロームの診断基準

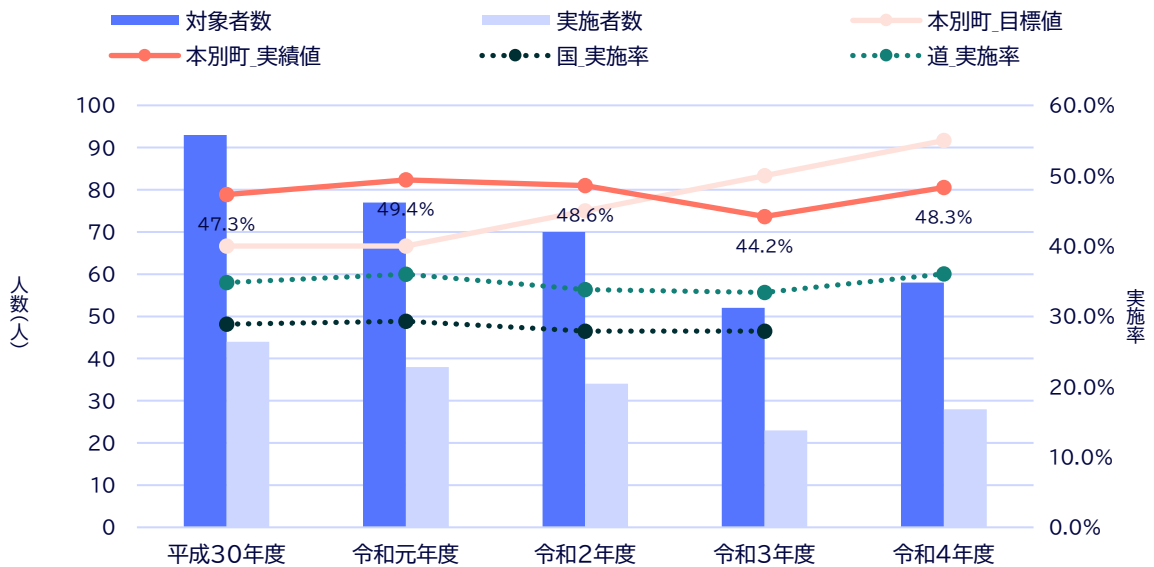
⑤ 特定保健指導実施率の経年推移及び国・北海道との比較

特定保健指導実施率は、前期計画終了年度にあたる令和5年度の目標値を60.0%としていたが、令和4年度時点で48.3%となっている。この値は、道と比較して高い。

前期計画中の推移をみると、令和4年度の実施率は、平成30年度の実施率47.3%と比較すると1.0ポイント上昇している。

積極的支援では令和4年度は47.6%で、平成30年度の実施率33.3%と比較して14.3ポイント上昇し、動機付け支援では令和4年度は45.9%で、平成30年度の実施率38.7%と比較して7.2ポイント上昇している。

図表10-2-2-6：第3期計画における特定保健指導の実施状況（法定報告値）



		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
特定保健指導 実施率	本別町_目標値	40.0%	40.0%	45.0%	50.0%	55.0%
	本別町_実績値	47.3%	49.4%	48.6%	44.2%	48.3%
	国	28.9%	29.3%	27.9%	27.9%	-
	道	34.8%	36.0%	33.8%	33.4%	36.0%
特定保健指導対象者数（人）		93	77	70	52	58
特定保健指導実施者数（人）		44	38	34	23	28

【出典】目標値：前期計画

実績値：厚生労働省 2018年度から2022年度 特定健診・特定保健指導の実施状況（保険者別）

図表10-2-2-7：支援区分別特定保健指導の実施率・対象者数・実施者数

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
積極的支援	実施率	33.3%	35.0%	52.4%	61.9%	47.6%
	対象者数（人）	18	20	21	21	21
	実施者数（人）	6	7	11	13	10
動機付け支援	実施率	38.7%	57.9%	44.9%	40.6%	45.9%
	対象者数（人）	75	57	49	32	37
	実施者数（人）	29	33	22	13	17

※図表10-2-2-6と図表10-2-2-7における対象者数・実施者数のずれは法定報告値とKDB帳票の差によるもの

【出典】KDB帳票 S21_008-健診の状況 平成30年度から令和4年度 累計

(3) 国の示す目標

第4期計画においては、令和11年度までに特定健診の全国平均受診率70%以上、特定保健指導の全国平均実施率45%以上を達成することが設定されている。目標値は、第3期計画目標の目標値から変更されていない。市町村国保における目標値も第3期からの変更はなく、特定健診受診率及び特定保健指導実施率のいずれも60%以上と設定されている。

また、メタボ該当者及びメタボ予備群の減少率についても、第3期に引き続き、平成20年度比25%以上減と設定されている。

図表10-2-3-1：第4期計画における国が設定した目標値

	全国（令和11年度）	市町村国保（令和11年度）
特定健診受診率	70%以上	60%以上
特定保健指導の実施率	45%以上	60%以上
メタボ該当者・メタボ予備群該当者の減少率（平成20年度比）	25%以上減	

【出典】厚生労働省 第4期特定健康診査等実施計画期間における保険者種別の目標値について

3 特定健診・特定保健指導の実施方法

(1) 特定健診

① 実施目的・対象者

「特定健康診査及び特定保健指導の適切かつ有効な実施を図るための基本的な指針」（以下「基本指針」という。）にあるとおり、特定健診は、糖尿病等の生活習慣病の発症や重症化を予防することを目的として、メタボリックシンドロームに着目し、生活習慣を改善するための特定保健指導を必要とする者を的確に抽出するために行う。

対象者は本別町国保加入者で、当該年度に40歳から74歳となる人である。

② 実施期間・実施場所

集団健診は、7月から2月にかけて実施する。実施場所は、特定健診を受ける人の利便性を考慮し、選定する。

個別健診は、4月から3月にかけて実施する。

集団健診、個別健診ともに具体的な会場については、特定健診実施時期にあわせて周知する。

③ 実施項目

「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づく「特定健康診査及び特定保健指導の実施に関する基準」で定められた項目に従い、特定健診受診者全員の「基本的な健診項目」を実施する。また、一定の基準のもと医師が必要と判断した場合には、「詳細な健診項目」を実施する。

図表10-3-1-1：特定健診の健診項目

	項目
基本的な健診項目	<ul style="list-style-type: none">・診察（既往歴（服薬歴、喫煙歴を含む）、自覚症状）・身体計測（身長、体重、腹囲、BMI）・血圧・血中脂質検査（中性脂肪、HDLコレステロール、LDLコレステロール（Non-HDLコレステロール））・肝機能検査（AST（GOT）、ALT（GPT）、γ-GT（γ-GTP））・血糖検査（HbA1c、空腹時血糖、または随時血糖）・尿検査（尿糖、尿蛋白）
詳細な健診項目	<ul style="list-style-type: none">・心電図・眼底検査・血液学検査（貧血検査）・血清クレアチニン検査

【出典】厚生労働省 標準的な健診・保健指導プログラム（令和6年度版）

④ 実施体制

健診の委託に際しては、利用者の利便性を考慮するとともに、健診の質の担保のために適切な精度管理維持が求められるため、国の委託基準（「特定健康診査及び特定保健指導の実施に関する基準第16条第1項の規定に基づき厚生労働大臣が定める者」）を満たす健診機関を選定する。詳細は契約書及び仕様書で定める。

⑤ 健診結果の通知方法

集団の特定健診受診者については、受診勧奨・要保健指導対象者には健診結果説明会を開催し、結果通知表を手渡しする。健診結果説明会に出席が困難な対象者については、別日を設け来所面談時に手渡しまたは郵送する。

個別の特定健診受診者については、実施医療機関が対象者に結果通知表を手渡しまたは郵送する。

⑥ 事業者健診等の健診データ収集方法

本別町国保被保険者が「労働安全衛生法」に基づく健康診断や人間ドックを受診した場合は、本人から健診結果データを提供してもらい、特定健診受診率に反映する。

また、定期的に医療機関で検査をしている者などが、特定健診と同等の検査項目を検査済の場合、本人同意のもと、医療機関からデータ提供を受け、特定健診受診率に反映する。

(2) 特定保健指導

① 実施目的・対象者階層化の基準

基本指針にあるとおり、特定保健指導は、内臓脂肪型肥満に着目し、生活習慣を改善するための保健指導を行うことにより、対象者が自らの生活習慣における課題を認識して行動変容と自己管理を行うとともに健康的な生活の維持ができるようになることを通じて、糖尿病等の生活習慣病を予防することを目的とするものである。

特定保健指導は、特定健診結果を腹囲、リスクの高さ、喫煙歴、年齢により階層化し、積極的支援対象者及び動機付け支援対象者に実施する。なお、特定健診の質問票において服薬中であることが判別できた者については、すでに主治医の指導を受けていることから特定保健指導対象外とする。また、2年連続して積極的支援対象者に該当した対象者のうち、1年目に比べ2年目の状態が改善している場合、2年目は、動機付け支援相当の支援を実施した場合であっても、特定保健指導を実施したこととなる。

図表10-3-2-1：特定保健指導階層化の基準

腹囲	追加リスク	喫煙歴	対象年齢	
	(血糖・血圧・脂質)		40-64歳	65歳-
男性≧85cm 女性≧90cm	2つ以上該当	なし/あり	積極的支援	動機付け支援
	1つ該当	あり		
上記以外で BMI≧25kg/m ²		3つ該当	なし	
	あり		積極的支援	
	2つ該当	なし	動機付け支援	
		あり		
1つ該当	なし/あり			

参考：追加リスクの判定基準

追加リスク	血糖	空腹時血糖100mg/dL以上、またはHbA1c5.6%以上
	血圧	収縮期血圧130mmHg以上、または拡張期血圧85mmHg以上
	脂質	空腹時中性脂肪150mg/dL以上（やむを得ない場合には随時中性脂肪175mg/dL以上）、またはHDLコレステロール40mg/dL未満

【出典】厚生労働省 標準的な健診・保健指導プログラム（令和6年度版）

② 実施期間・内容

特定保健指導は通年実施する。

積極的支援及び動機付け支援ともに初回面接では、医師、保健師または管理栄養士の指導のもと、生活習慣改善のための行動計画を設定する。

積極的支援は、原則年1回の初回面接後、6か月間、定期的に電話や訪問で継続支援を実施する。初回面接から3か月後に中間評価を実施し、6か月後に体重、腹囲の変化や生活習慣の改善状況について最終評価を行う。中間評価時に、体重2kg及び腹囲2cm減少を達成した対象者については、その時点で支援を終了する。

動機付け支援は、原則年1回の初回面接後、6か月後に体重、腹囲の変化や生活習慣の改善状況について実績評価を行う。

③ 実施体制

特定保健指導の委託に際しては、特定健診と同様に国の委託基準を満たす機関を選定する。詳細は契約書及び仕様書で定める。利用者の利便性を考慮するとともに、保健指導の質を確保するなど適正な事業実施に努める。

また特定保健指導実施機関が少ない地域や一部の対象者については、直営で指導を実施する。

4 その他

(1) 計画の公表・周知

本計画については、高齢者の医療の確保に関する法律第19条第3項に基づき、作成及び変更時は、本別町のホームページ等により公表し、広く内容等の周知を行う。

また、特定健診及び特定保健指導については、本別町のホームページ等への掲載、啓発用ポスターの掲示などにより、普及啓発に努める。

(2) 個人情報の保護

特定健診及び特定保健指導の記録の保存に当たっては、「特定健康診査・特定保健指導の円滑な実施に向けた手引き（第4版）」を参考に、個人の健康情報を漏えいしないよう、厳格に管理した上で適切に活用する。

個人情報の取扱いに関しては、個人情報保護法に基づくガイドライン等（「健康保険組合等における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス」「国民健康保険組合における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス」等）を遵守し、情報の保存及び管理体制を確保する。外部への委託に際しては、委託先との契約書に個人情報の厳重な管理や目的外使用の禁止等を定めるとともに、委託先の契約遵守状況を適切に管理する。

(3) 実施計画の評価・見直し

特定健診の受診率及び特定保健指導の実施率、並びにメタボ該当者及びメタボ予備群の減少率については、本計画の最終年度（令和11年度）に評価を行う。

実施中は、設定した目標値の達成状況を年度ごとに点検し、評価の結果を活用して、必要に応じて実施計画の記載内容の見直しを行う。

参考資料 用語集

行	No.	用語	解説
あ行	1	eGFR	血清クレアチニン値と年齢・性別からGFRを推算したもの。GFRは腎臓の中にある毛細血管の集合体である「糸球体」が1分間にどれくらいの血液を濾過して尿を作れるかを示す値であり、GFRが1分間に60ml未満の状態または尿たんぱくが3か月以上続くとCKD（慢性腎臓病：腎機能が慢性的に低下し、尿たんぱくが継続して出る状態）と診断される。
	2	医療費の3要素	医療費の比較には、総医療費を被保険者数で割った1人当たり医療費を用いる。一人当たり医療費は以下の3つの要素に分解でき、これを医療費の3要素という。 受診率：被保険者千人当たりのレセプト件数 1件当たり日数：受診した日数/レセプト件数 一日当たり医療費：総医療費/受診した日数
	3	HDL-C	余分なコレステロールを回収して動脈硬化を抑える、善玉コレステロール。
	4	ALT	アミノ酸をつくり出す酵素で大部分が肝細胞に含まれている。肝臓の細胞が障害を受けるとALTが血液中に流れ出し血中濃度が上がるため、ALTの数値が高い場合は、肝臓の病気が疑われる。
	5	LDL-C	肝臓で作られたコレステロールを全身へ運ぶ役割を担っており、増えすぎると動脈硬化を起こして心筋梗塞や脳梗塞を発症させる、悪玉コレステロール。
か行	6	拡張期血圧	血圧は一般的には動脈内部の圧力のことを指し、心臓の収縮に伴って大きく変動する。最小となる血圧は心臓が拡張したときの血圧で拡張期血圧と呼ばれる。
	7	虚血性心疾患	虚血性心疾患には、狭心症や心筋梗塞がある。狭心症は動脈硬化などによって心臓の血管（冠動脈）が狭くなり、血液の流れが悪くなった状態。一方、心筋梗塞は、動脈硬化によって心臓の血管に血栓（血液の固まり）ができて血管が詰まり、血液が流れなくなって心筋の細胞が壊れてしまう病気。
	8	空腹時血糖	血糖値は、血液中に含まれるブドウ糖（グルコース）の濃度のことで、食前食後で変動する。空腹時血糖は食後10時間以上経過した時点での血糖値。
	9	KDBシステム	国保連合会が保険者の委託を受けて行う各種業務を通じて管理する「特定健診・特定保健指導」「医療（後期高齢者医療含む）」「介護保険」等の情報を活用し、統計情報や「個人の健康に関する情報」を提供し、保険者の効率的かつ効果的な保健事業の実施をサポートすることを目的として構築されたシステム。
	10	血清クレアチニン	たんぱく質が分解・代謝されてできた老廃物。通常は尿とともに排泄されるが、腎機能が低下すると排泄できず血液中に増えていく。
	11	健康寿命	世界保健機関（WHO）が提唱した新しい指標で、平均寿命から寝たきりや認知症など介護状態の期間を差し引いた期間。
	12	後期高齢者医療制度	公的医療保険制度の1つで、75歳以上の人、そして65歳から74歳までで一定の障害の状態にあると後期高齢者医療広域連合から認定を受けた人が加入する医療保険。
	13	高血圧症	高血圧は、血圧が高いという病態。高血圧症とは、繰り返し測っても血圧が正常より高い場合をいう。
	14	後発医薬品（ジェネリック医薬品）	先発医薬品の特許期間終了後に、先発医薬品と品質・有効性・安全性が同等であるものとして厚生労働大臣が承認を行っているもの。
	15	高齢化率	全人口に占める65歳以上人口の割合。
さ行	16	脂質異常症	中性脂肪やコレステロールなどの脂質代謝に異常をきたした状態。
	17	疾病分類	世界保健機関（WHO）により公表されている「疾病及び関連保健問題の国際統計分類」（略称、国際疾病分類：ICD）に準じて定めたものであり、社会保険の分野で疾病統計を作成する際の統一的基準として、広く用いられているもの。
	18	収縮期血圧	血圧は一般的には動脈内部の圧力のことを指し、心臓の収縮に伴って大きく変動する。最大となる血圧は心臓が収縮したときの血圧で収縮期血圧と呼ばれる。
	19	受診勧奨対象者	特定健診受診者のうち、医療機関の受診を促す基準として設定されている受診勧奨判定値を超える者。

行	No.	用語	解説
	20	人工透析	機能が著しく低下した腎臓に代わり、機械で老廃物を取り除くこと。一般的に行われている「血液透析」は、患者の腕の血管から血液を取り出し、老廃物を除去する。
	21	腎不全	腎臓の中にある毛細血管の集合体で、血液を濾過する「糸球体」の網の目が詰まり、腎臓の機能が落ち、老廃物を十分排泄できなくなる状態。
	22	診療報酬明細書 (レセプト)	病院などが患者に対して治療を行った際、費用（医療費）を保険者に請求するときに使用する書類のこと。病院などは受診した患者ごとに毎月1枚作成する。
	23	生活習慣病	食事や運動・喫煙・飲酒・ストレスなどの生活習慣が原因で起こる疾患の総称。重篤な疾患の要因となる。日本人の3大死因であるがん・脳血管疾患・心疾患、更に脳血管疾患や心疾患の危険因子となる動脈硬化症・糖尿病・高血圧症・脂質異常症などはいずれも生活習慣病であるとされている。
	24	積極的支援	腹囲とBMIから、内臓脂肪蓄積のリスクありと判定された者のうち、血圧高値・脂質異常・血糖高値・喫煙ありの追加リスクに2又は3以上該当した者に対して実施する特定保健指導。65歳以上75歳未満の者については「積極的支援」の対象となった場合でも「動機付け支援」とする。
た行	25	中性脂肪	肉や魚・食用油など食品中の脂質や、体脂肪の大部分を占める物質。単に脂肪とも呼ばれる。
	26	動機付け支援	腹囲とBMIから、内臓脂肪蓄積のリスクありと判定された者のうち、血圧高値・脂質異常・血糖高値・喫煙ありの追加リスクに1又は2つ該当した者に対して実施する特定保健指導。
	27	糖尿病	インスリンの作用不足により高血糖が慢性的に続く病気。網膜症・腎症・神経障害の3大合併症をしばしば伴う。
	28	糖尿病性腎症	糖尿病の合併症の一つ。高血糖状態が継続したことで腎臓の濾過装置である糸球体が障害され、腎機能の著しい低下を認める。一度低下した腎機能の回復は難しく、進行すると人工透析が必要となる場合も多い。
	29	特定健康診査	高齢者の医療の確保に関する法律に基づき、40歳～74歳の方を対象として、保険者が実施することになっている健診。メタボリックシンドロームの対策が目的の一つとなっているために、俗に「メタボ健診」と言われることもある。
	30	特定健康診査等実施計画	保険者が特定健診・特定保健指導の実施に当たって、その規模、加入者の年齢構成、保健事業の体制・人材等のリソース、地域的条件等を考慮し、あらかじめ実施率目標や実施方法等を定めることで、事業を効率的・効果的に実施し、その実施状況の評価ができるよう、作成する計画。
	31	特定保健指導	特定健康診査の結果に基づき、主にメタボリックシンドロームの予防や解消を目的に行われる健康支援のこと。メタボリックシンドロームの人には「積極的支援」、その予備群には「動機付け支援」、それ以外の受診者には「情報提供」が行われる。
な行	32	日本再興戦略	平成25年6月に閣議決定された、規制緩和等によって、民間企業や個人が真の実力を発揮するための方策をまとめたものであり、日本経済を持続的成長に導く道筋を示す戦略。
	33	尿酸	細胞内の核に含まれるプリン体が分解される際に生じる老廃物。
	34	脳血管疾患	脳の動脈硬化が進み、脳の血管が詰まったり破れたりする病気の総称。
は行	35	BMI	体格指数の一つで、肥満度を表す指標として国際的に用いられている。肥満や低体重（やせ）の判定に用いられ、体重（kg）/身長（m ² ）で算出される。
	36	PDCAサイクル	「Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）」という一連のプロセスを繰り返し行うことで、業務の改善や効率化を図る手法の一つ。

行	No.	用語	解説
	37	標準化死亡比 (SMR)	基準死亡率（人口10万対の死亡者数）を対象地域に当てはめた場合に、計算により求められる期待される死亡者数と実際に観察された死亡者数を比較するもの。国の平均を100としており、標準化死亡比が100以上の場合は国の平均より死亡率が高いと判断され、100以下の場合は死亡率が低いと判断される。
	38	腹囲	ハその高さで計る腰回りの大きさ。内臓脂肪の蓄積の目安とされ、メタボリックシンドロームを診断する指標の一つ。
	39	平均自立期間	要介護2以上を「不健康」と定義して、平均余命からこの不健康期間を除いたもので、0歳の人が要介護2の状態になるまでの期間。
	40	平均余命	ある年齢の人々が、その後何年生きられるかの期待値であり、本計画書では0歳での平均余命を示している。
	41	HbA1c	赤血球の中にあるヘモグロビンA (HbA) にグルコース（血糖）が非酵素的に結合したもの。糖尿病の過去1～3か月のコントロール状態の評価を行う上での重要な指標。
ま行	42	未治療者	健診受診者のうち、受診勧奨対象者かつ健診実施から6か月以内に医療機関を受診していない者。
	43	メタボリックシンドローム	内臓肥満に高血圧・高血糖・脂質代謝異常が組み合わさることにより、心臓病や脳卒中などになりやすい病態のこと。単に腹囲が大きいだけでは、メタボリックシンドロームには当てはまらない。
や行	44	有所見者	特定健診受診者のうち、異常の所見のあった者。